



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

取扱説明書は車の中に保管しましょう。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	34
お子さまの安全のために	42
子供専用シート	43
チャイルドシートの 取り付け	50
排気ガスに対する注意	57
1-2. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの 特徴	58
ハイブリッドシステムの 注意	62
1-3. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	67

2 メーターの見方

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯	70
計器類	74
マルチインフォメーション ディスプレイ	78

3 各部の操作

3-1. キーの取り扱い	
キー	88
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア	92
バックドア	97
スマートエントリー& スタートシステム	103
3-3. シートの調整	
フロントシート	110
リヤシート	113
ヘッドレスト	116
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	118
インナーミラー	120
ドアミラー	121
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	123

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	128
荷物を積むときの注意	138

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	140
EV ドライブモード	146
トランスミッション	148
方向指示レバー	153
パーキングブレーキ	154

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	155
オートマチックハイビーム	158
フォグランプスイッチ	164
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	167
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	170

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	172
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense P	175
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	181
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	191
レーダークルーズ コントロール	200
インテリジェント パーキングアシスト	212
ドライブモードセレクト スイッチ	263
運転を補助する装置	264

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	269
寒冷時の運転	271

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 276

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 284

- ・フロントインテリア
ランプ 285
- ・パーソナルランプ 285
- ・リヤインテリアランプ 286

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧 287

- ・グローブボックス 288
- ・コンソールボックス 288
- ・カップホルダー／
ボトルホルダー／
ドアポケット 289
- ・小物入れ 291
- ・カードホルダー 292
- ラゲージルーム内装備 293

5-4. その他の室内装備の使い方

- その他の室内装備 296
- ・サンバイザー 296
- ・バニティミラー 296
- ・時計 297
- ・アクセサリースOCKET 298
- ・アクセサリ
コンセント 299
- ・アームレスト
(リヤシート) 305
- ・コートフック 305
- ・アシストグリップ 306
- ・パノラマルーフ
シェード 307
- ・ステアリングスイッチ 310

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

- 外装の手入れ 312
- 内装の手入れ 317

6-2. 簡単な点検・部品交換

- ボンネット 320
- ガレージジャッキ 323
- エンジンルームカバー 325
- エアコンフィルターの
交換 326
- ワイパーゴムの交換 328
- ウォッシャー液の補充 330
- タイヤについて 331
- タイヤ空気圧について 335
- 電子キーの電池交換 337
- ヒューズの点検、交換 339
- 電球（バルブ）の交換 342

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	354
非常点滅灯 (ハザードランプ)	355
発炎筒	356
車両を緊急停止するには	358

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	359
警告灯がついたときは	366
警告メッセージが 表示されたときは	370
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	389
パンクしたときは (タイヤパンク応急修理 キット装着車)	401
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	418
電子キーが正常に 働かないときは	420
補機バッテリーが あがったときは	422
オーバーヒート したときは	427
スタックしたときは	432

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量 など)	434
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	439
--------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	446
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	449
アルファベット順 さくいん	450
五十音順さくいん	451

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ダイハツサービス工場に取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

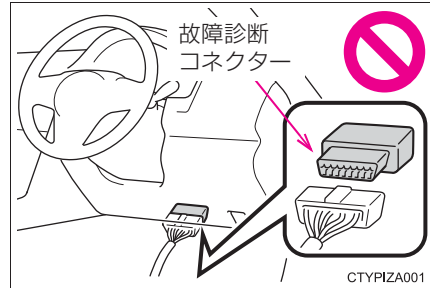
不正改造について

- 国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の実装については、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ 電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション
- ・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

ダイハツはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- Toyota Safety Sense P
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



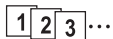
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

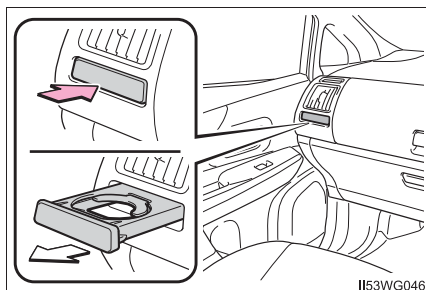
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

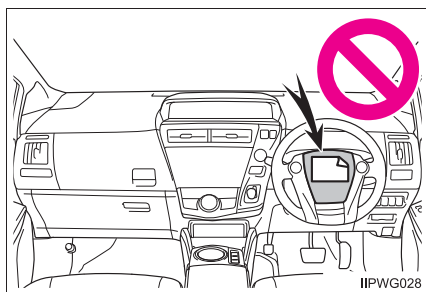
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



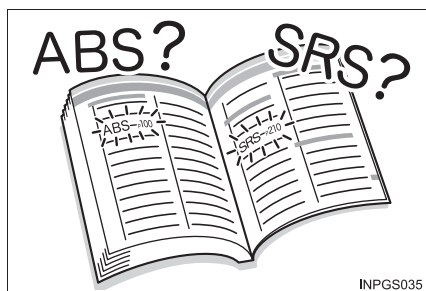
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん 451
- ・ アルファベット順
さくいん 450



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



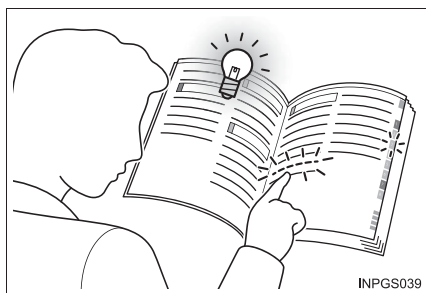
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん) 446
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 449



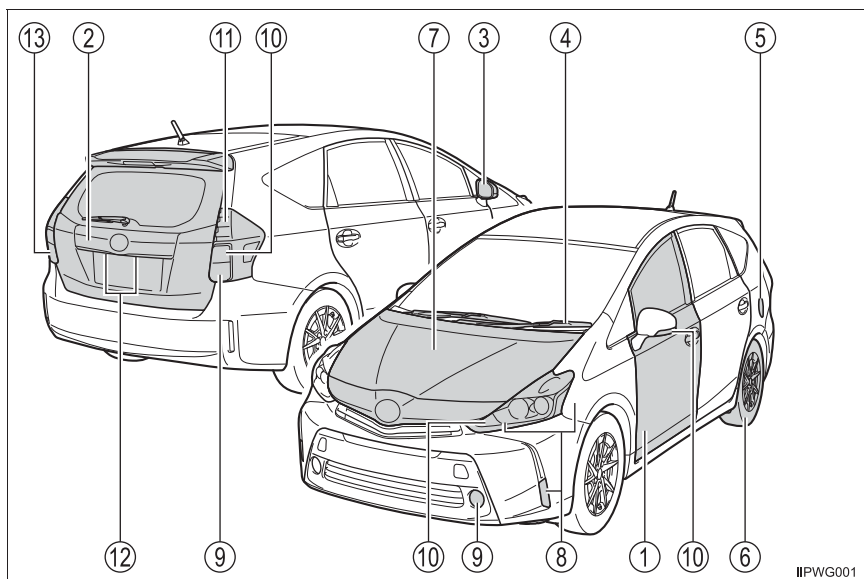
■ タイトルから探す

- ・ 目次 2



イラスト目次

■ 外観



IIPWG001

ヘッドランプの形状はグレード等により異なります。(→ P. 342)

- ① ドア P. 92
 - 施錠／解錠 P. 92, 94
 - ドアガラスの開閉 P. 123
 - メカニカルキーでの施錠／解錠 P. 420
 - 警告灯 P. 368
- ② バックドア P. 97
 - 車外から開ける P. 97
 - 警告灯 P. 368
- ③ ドアミラー P. 121
 - 鏡面の角度調整 P. 121
 - ミラーの格納 P. 121
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★ P. 278

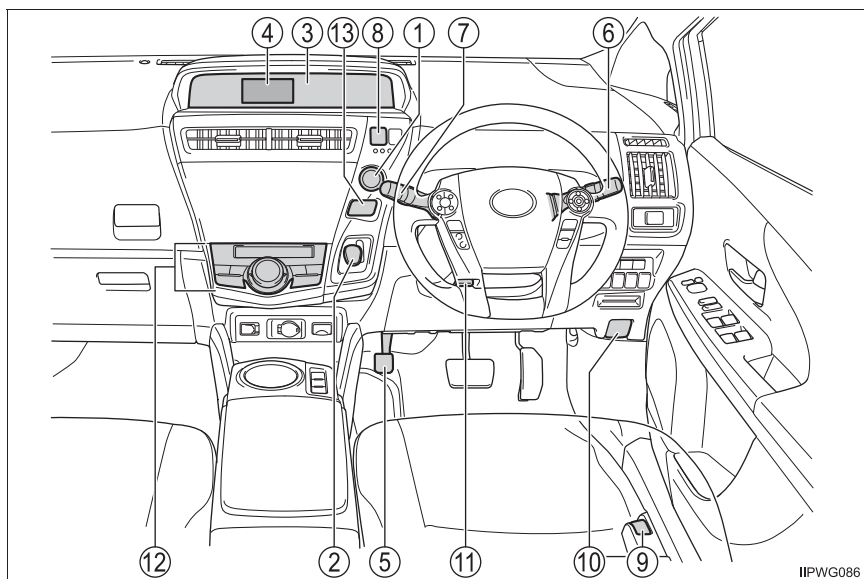
- ④ **ワイパー**.....P. 167
 - 冬季の注意.....P. 271
 - 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 279
- ⑤ **給油口**.....P. 172
 - 給油方法.....P. 172
 - 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 434
- ⑥ **タイヤ**.....P. 331
 - サイズ・空気圧.....P. 437
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 271
 - 点検・ローテーション.....P. 331
 - パンク時の対処.....P. 389, 401
- ⑦ **ボンネット**.....P. 320
 - 開け方.....P. 320
 - エンジンルームカバー.....P. 325
 - エンジンオイル.....P. 434
 - オーバーヒート時の対処.....P. 427

走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 342, ワット数：P. 438)

- ⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト**.....P. 155
- ⑨ **フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★**.....P. 164
- ⑩ **方向指示灯**.....P. 153
- ⑪ **制動灯／尾灯**
 - ヒルスタートアシストコントロール.....P. 264
- ⑫ **番号灯**.....P. 155
- ⑬ **後退灯**
 - シフトポジションを R にする.....P. 148

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



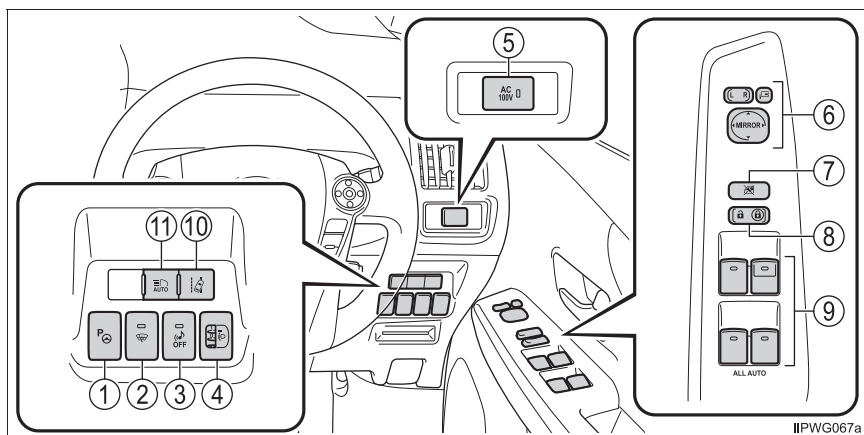
IIPWG086

- ① **パワースイッチ** P. 140
 - ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P. 140, 142
 - ハイブリッドシステムの緊急停止 P. 358
 - ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P. 418
 - 警告メッセージ P. 385
- ② **シフトレバー** P. 148
 - シフトポジションの切りかえ P. 148
 - けん引時の注意 P. 359
- ③ **メーター** P. 74
 - 見方・明るさの調整 P. 74, 76
 - 警告灯／表示灯 P. 70
 - 警告灯点灯時の対処 P. 366

④ マルチインフォメーションディスプレイ	P. 78
表示内容	P. 78
エネルギーモニター	P. 79
警告メッセージ表示時の対処	P. 370
⑤ パーキングブレーキ	P. 154
かける・解除する	P. 154
冬季の注意	P. 272
警告ブザー	P. 366
⑥ 方向指示レバー	P. 153
ランプスイッチ	P. 155
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・LED デイライト	P. 155
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★	P. 164
⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 167, 170
使い方	P. 167, 170
ウォッシャー液の補充	P. 330
⑧ 非常点滅灯スイッチ	P. 355
⑨ 給油口オープナー	P. 172
⑩ ボンネット解除レバー	P. 320
⑪ ハンドル位置調整レバー	P. 118
⑫ オートエアコン	P. 276
操作方法	P. 276
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）...	P. 278
⑬ P ポジションスイッチ	P. 149

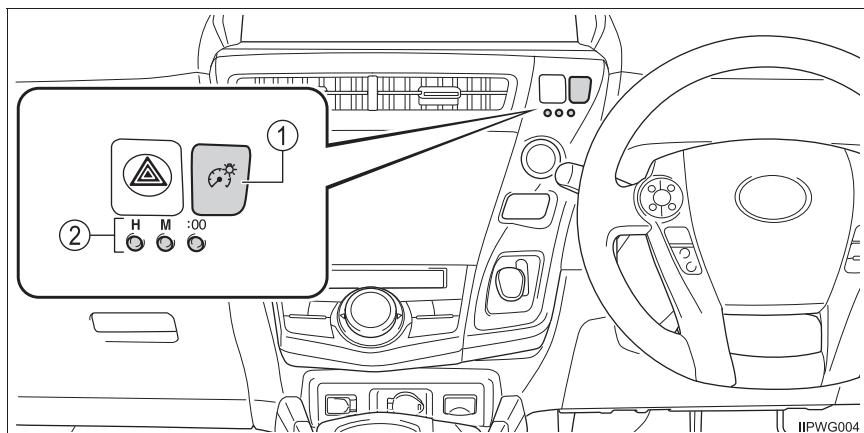
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



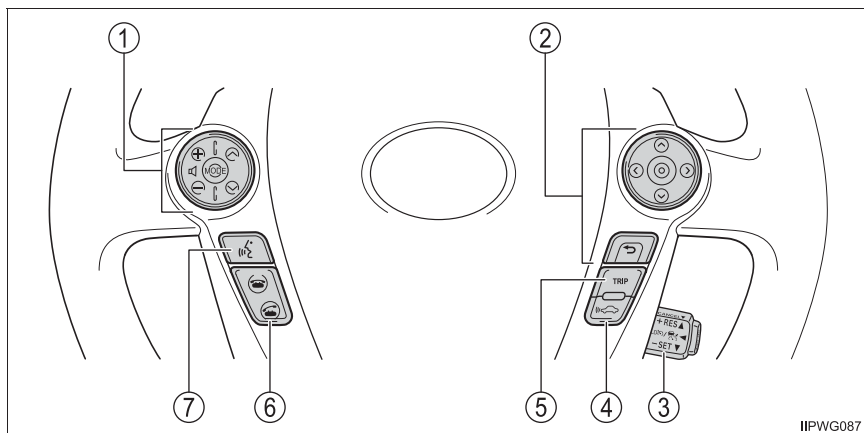
IIPWG067a

- ① IPA（インテリジェントパーキングアシスト）スイッチ★ P. 213
- ② フロントワイパーデアイサースイッチ★.....P. 279
- ③ 車両接近通報一時停止スイッチ P. 59
- ④ 手動光軸調整ダイヤル★ P. 156
- ⑤ アクセサリーコンセントメインスイッチ★.....P. 299
- ⑥ ドアミラースイッチ P. 121
- ⑦ ウインドウロックスイッチ P. 123
- ⑧ ドアロックスイッチ P. 94
- ⑨ パワーウインドウスイッチ P. 123
- ⑩ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ P. 194
- ⑪ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 158



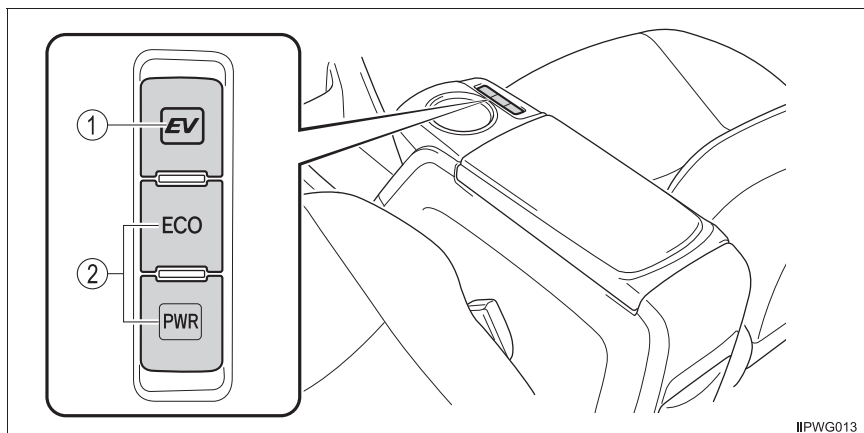
- ① メーター照度調整スイッチ P. 76
- ② 時計調整スイッチ P. 297

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



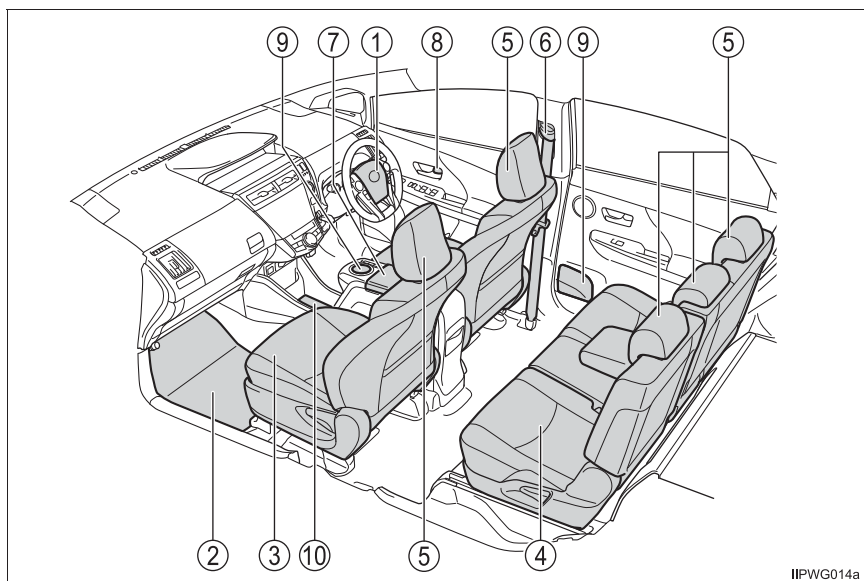
IIPWG087

- ① オーディオスイッチ P. 310
- ② メーター操作スイッチ.....P. 78
- ③ クルーズコントロールスイッチ.....P. 200
- ④ 車間距離切りかえスイッチ P. 206
- ⑤ TRIP スイッチ P. 76
- ⑥ 電話スイッチ P. 310
- ⑦ トークスイッチ.....P. 310

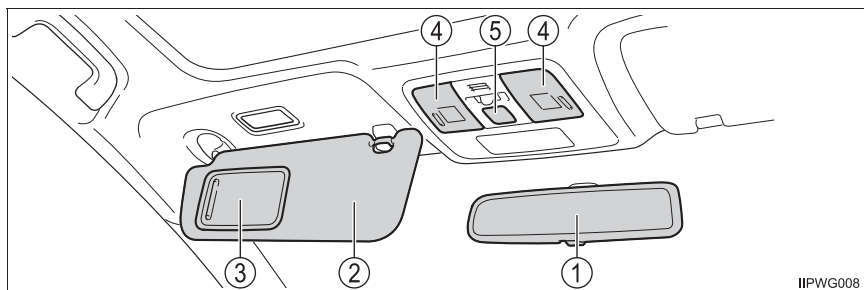


- ① EV ドライブモードスイッチ P. 146
- ② ドライブモードセレクトスイッチ P. 263

■ 室内



- | | |
|--------------------------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 34 |
| ② フロアマット | P. 24 |
| ③ フロントシート | P. 110 |
| ④ リヤシート | P. 113 |
| ⑤ ヘッドレスト | P. 116 |
| ⑥ シートベルト | P. 28 |
| ⑦ コンソールボックス | P. 288 |
| ⑧ ロックレバー | P. 94 |
| ⑨ カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット | P. 289 |
| ⑩ 小物入れ | P. 291 |



IIPWG008

- ① インナーミラー P. 120
- ② サンバイザー ※¹ P. 296
- ③ バニティミラー P. 296
- ④ インテリアランプ ※^{2, 3} P. 284
- パーソナルランプ ※³ P. 284
- ⑤ パノラマルーフシェードスイッチ★ P. 307

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 55)



※²：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³：パノラマルーフの有無により形状が異なります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に.....	24
安全なドライブのために	26
シートベルト.....	28
SRS エアバッグ.....	34
お子さまの安全のために	42
子供専用シート.....	43
チャイルドシートの 取り付け.....	50
排気ガスに対する注意	57

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの 特徴	58
ハイブリッドシステムの 注意	62

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	67
-------------------	----

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

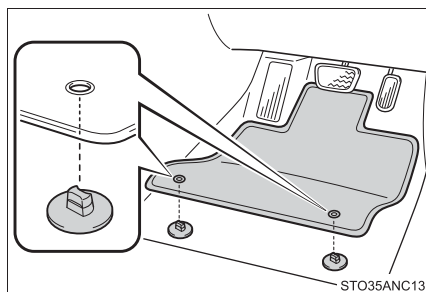
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場ですべて点検整備を受けてください。

フロアマット

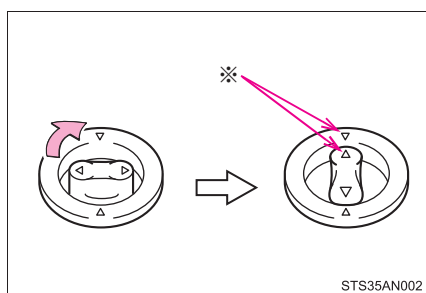
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

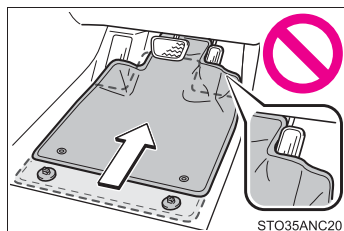
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

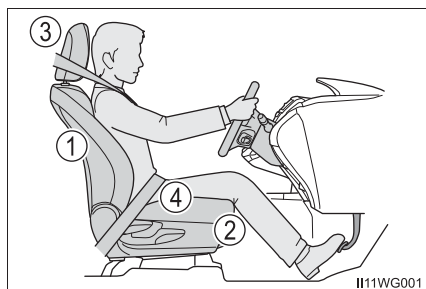


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 110）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 110）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 116）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 120, 121）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

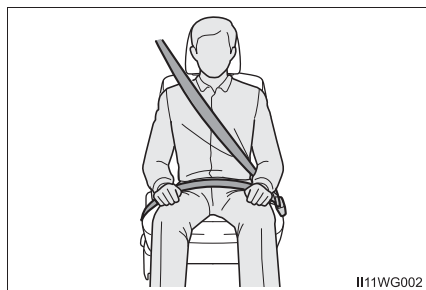
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

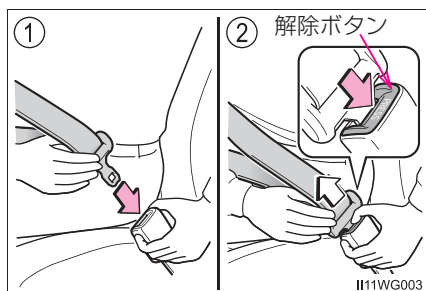
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



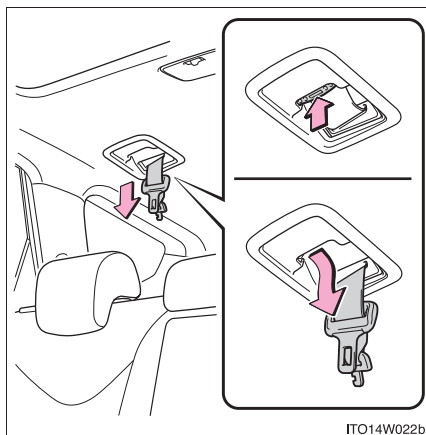
着け方、はずし方（リヤシート中央席以外）

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、プレートに手を添えて解除ボタンを押す

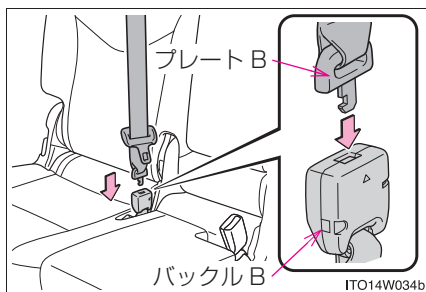


着け方（リヤシート中央席）

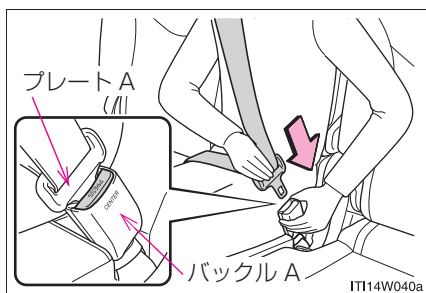
- 1 図の部分を押して固定をはずし、シートベルトを引き出す



- 2 “カチッ” と音がするまでプレート B をバックル B に挿し込み、結合する

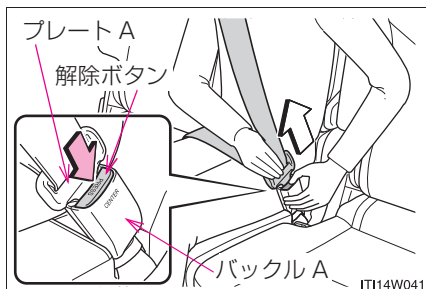


- 3 “カチッ” と音がするまでプレート A をバックル A に挿し込み、ベルトを固定する

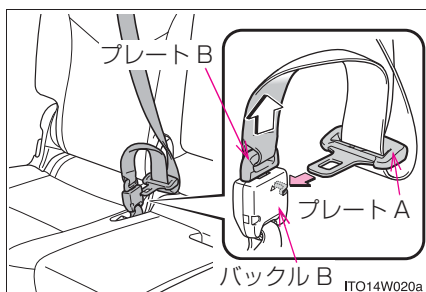


はずし方（リヤシート中央席）

- 1 プレート A に手を添えてバックル A の解除ボタンを押し、ベルトを解除する

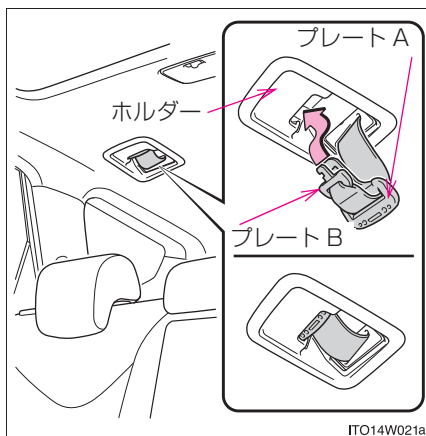


- 2 プレート A などによってバックル B のボタンを押し、プレート B を分離する

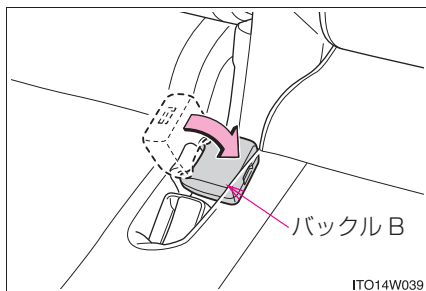


- 3 プレート A、B を重ねて、ホルダーに挿し込む

確実に固定されるよう、図のようにしっかりと挿し込みます。

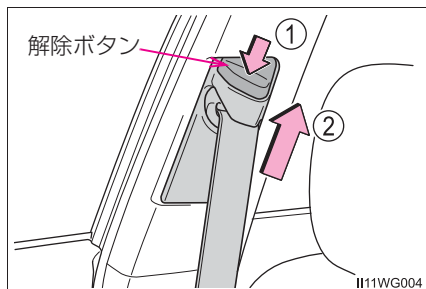


- 4 バックル B を格納する



シートベルトの高さ調節（フロント席）

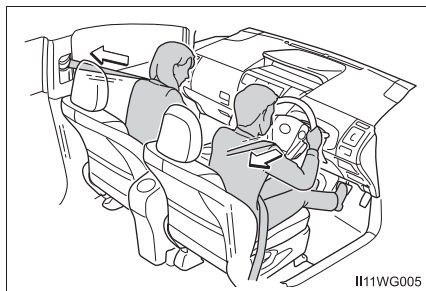
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート B とバックル B を結合する



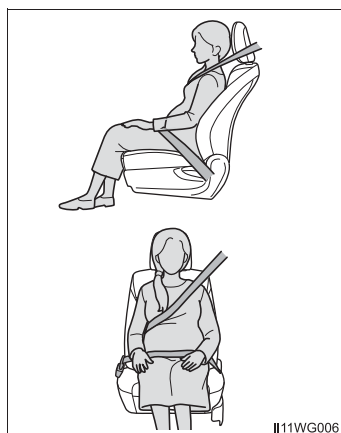
- リヤシート左右席のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→ P. 114）にかかっていないことを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

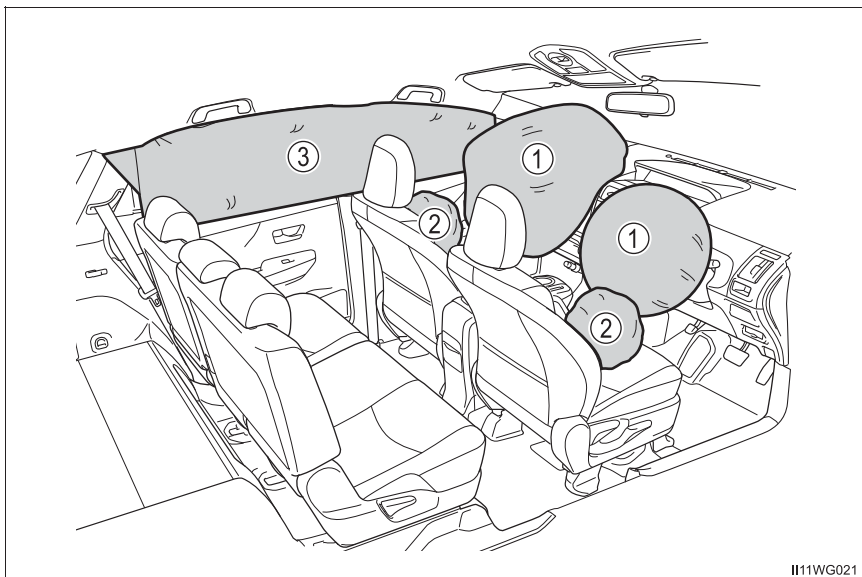
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



II11WG021

▶ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

警告

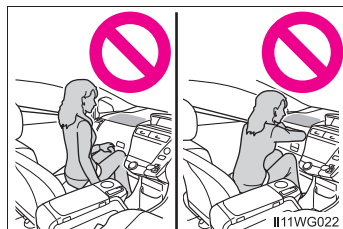
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

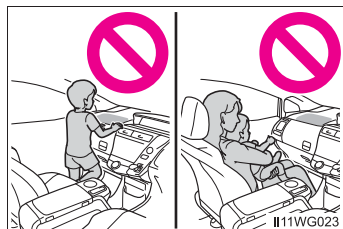
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 43)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



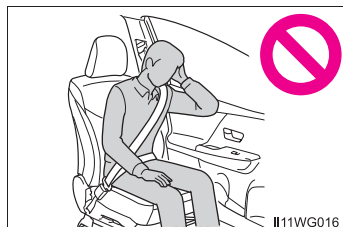
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

■ SRS エアバッグについて

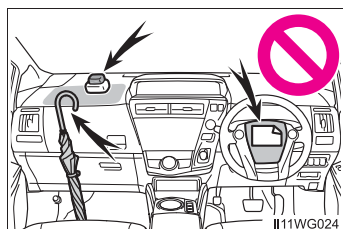
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



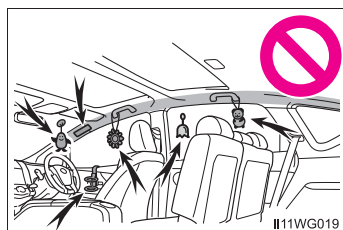
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 409)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、ダイハツサービス工場で交換してください。

■ 改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

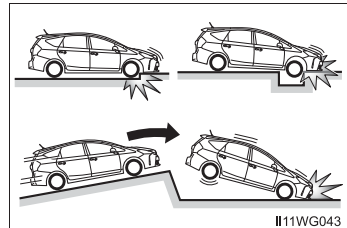
■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

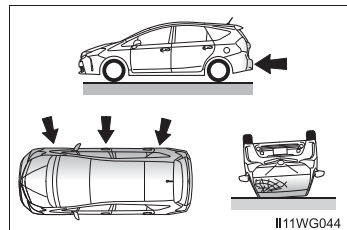


II11WG043

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

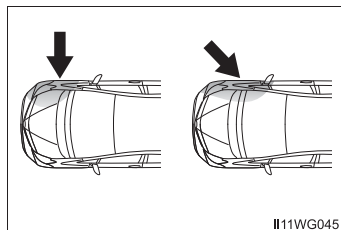


II11WG044

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

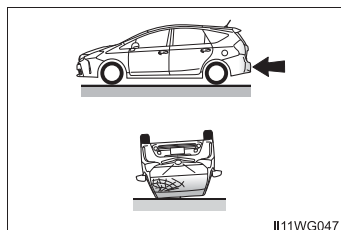
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

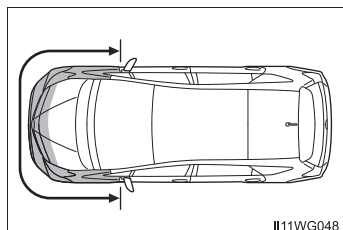
- 後方からの衝突
- 横転



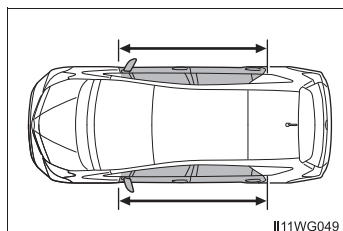
■ダイハツサービス工場に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くダイハツサービス工場へご連絡ください。

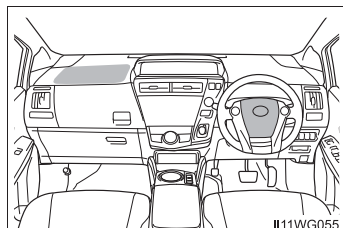
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



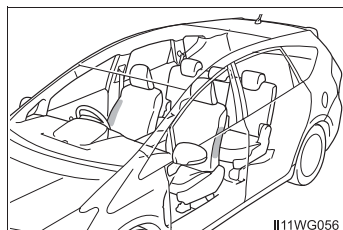
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



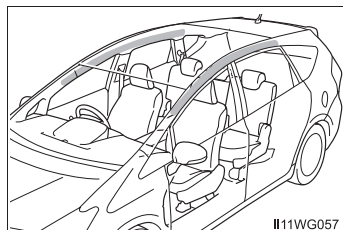
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 95)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 123)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 50)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※ の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kg まで

グループ0+：13kg まで

グループⅠ：9～18kg

グループⅡ：15～25kg

グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

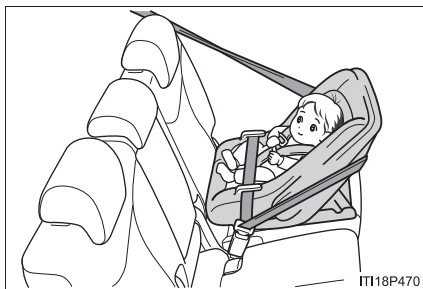
※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにもなう取り付け器具の記号になります。

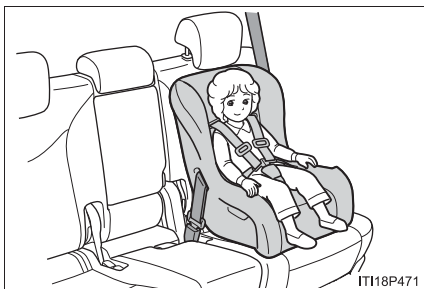
子供専用シートの種類

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0+
に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0+、I
に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III に
相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0+（13kg まで）	×	U	U
I（9～18kg）	前向き UF	U	U
	後ろ向き ×		
II（15～25kg）	UF	U	U
III（22～36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表(ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL※
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL※
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF※
	B1	ISO/F2X	IUF※
	A	ISO/F3	IUF※
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL : この質量グループでの使用を許可された「ダイハツ純正 ISOFIX ベビーシート (ユニバーサル)」に適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ 子供専用シートを取り付ける場合には、リヤシートを次のように調整してください。

- ・ ヘッドレストを取りはずす
- ・ シートの位置をいちばんうしろに下げる
- ・ シートの背もたれを子供専用シートが取り付け可能な位置まで倒し、子供専用シートを取り付ける。そのあと子供専用シートが安定する位置まで背もたれを起こす

 知識**■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて**

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 45)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 46)を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「O+」になります。

(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順**1**で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1)：質量グループが「O+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

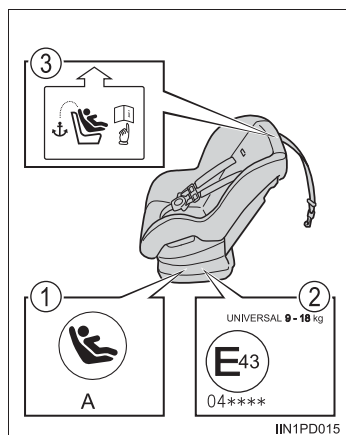
(例 2)：質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 46)で指定されている製品を使用してください。

- ③ 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。＊

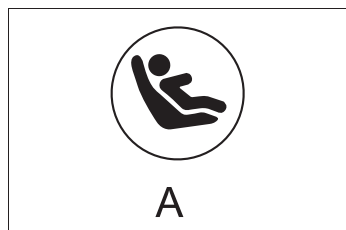
＊ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- ① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

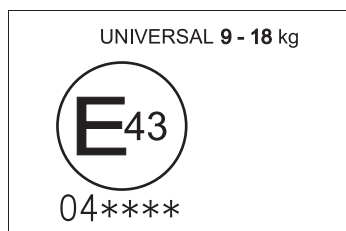
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順②で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



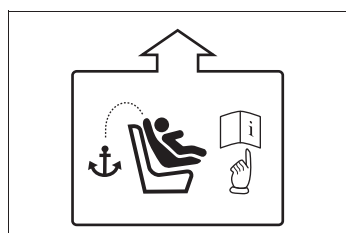
- ② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- ③ トップテザー（→ P. 50）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



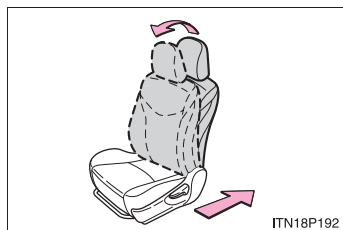
■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろにさげる



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

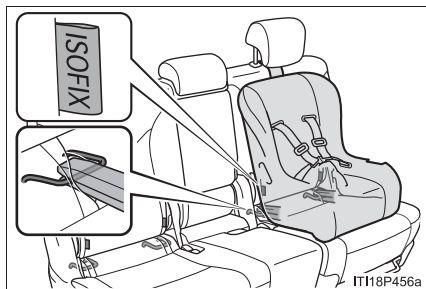
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 51)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定
専用バー (→ P. 52)

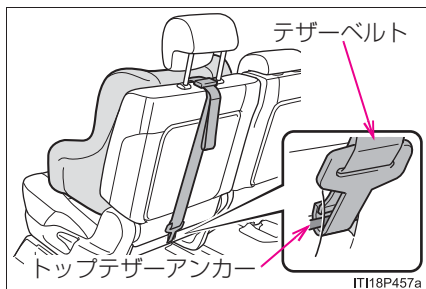
リヤシートの左右席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



トップテザーアンカー (→ P. 53)

テザーベルトを固定するときに使います。

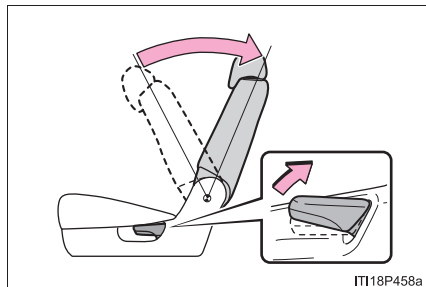
トップテザーアンカーはリヤシートの左右席に装備されています。



シートベルトで固定する

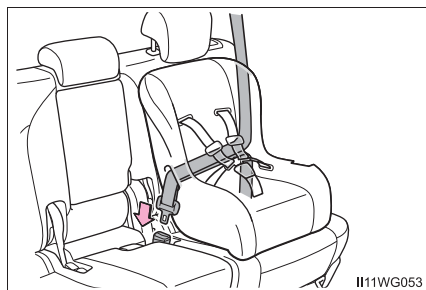
1 背もたれの角度を調整する

レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 113)



2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け※、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

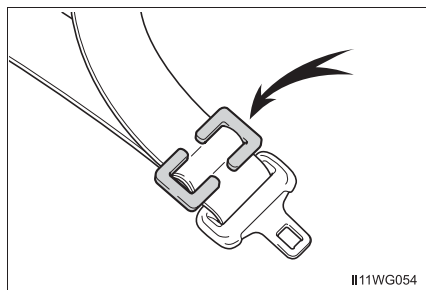
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



※ チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを上げるか、取りはずしてください。(→ P. 116)

3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、ダイハツサービス工場にご相談ください。

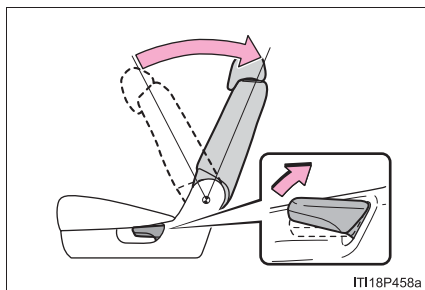


取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

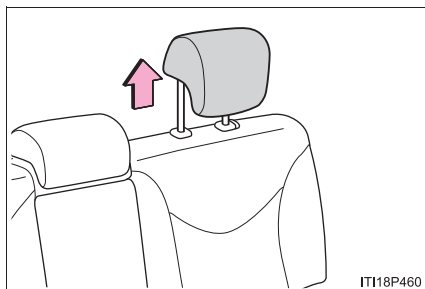
1 背もたれの角度を調整する

レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 113)

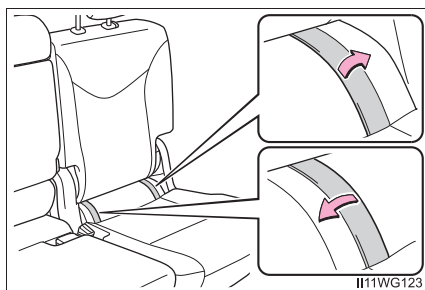


2 ヘッドレストを上げる (→ P. 116)

チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



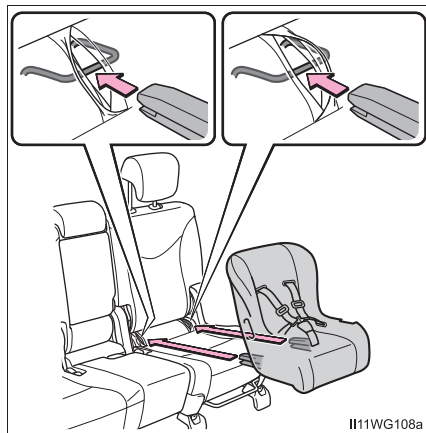
3 カバーをめくる



4 チャイルドシートをシートに取り付ける

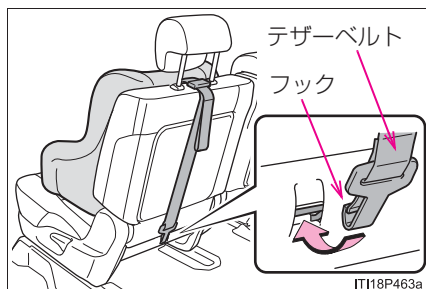
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

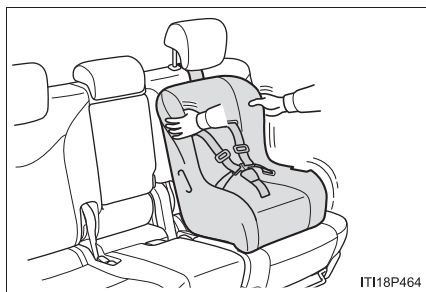


5 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



6 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



 警告**■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

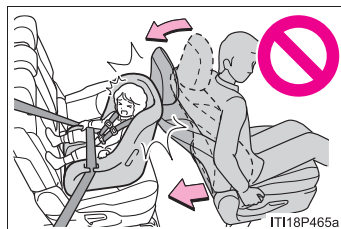
■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

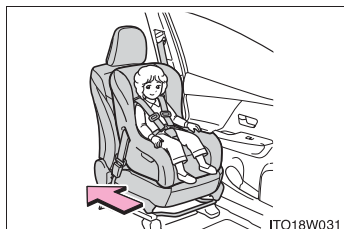


- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

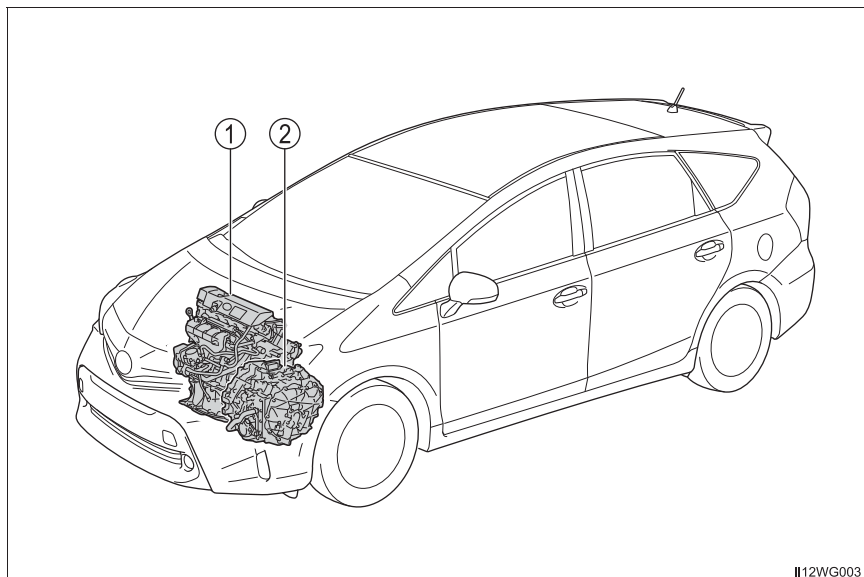
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ガソリンエンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止 ※ します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止 ※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→ P. 60)

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

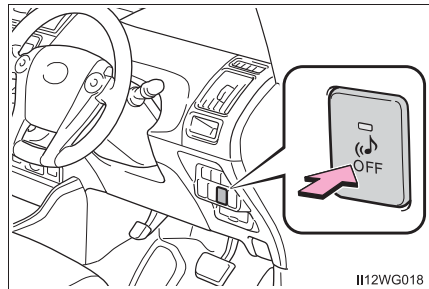
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケータが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケータが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動すると、車両接近通報装置は ON になります。



 知識

■ 回生ブレーキについて

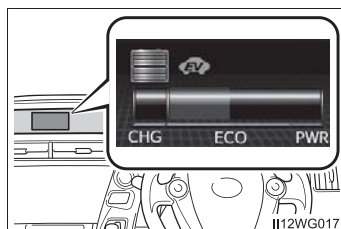
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ ハイブリッドシステムインジケータについて

ハイブリッドシステムの作動状況に応じて、インジケータの表示が変化します。

(→ P. 84)



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけたとき

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 425

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われなくなることがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションをPにしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる“コツコツ”“カタカタ”という音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部（運転席側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■車両接近通報一時停止スイッチ（→ P. 59）のインジケーターが点滅したとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場に連絡してください。

■メンテナンスや修理・廃車について

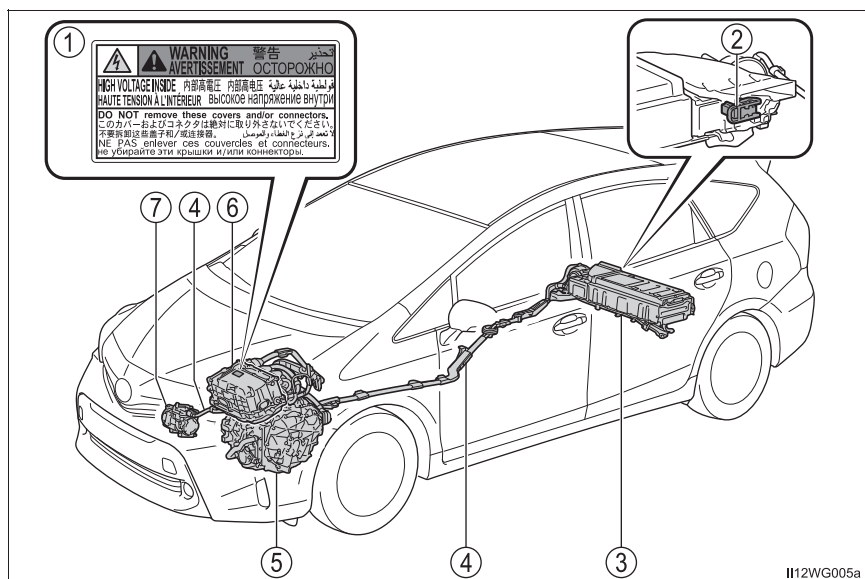
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずダイハツサービス工場にご相談ください。特に廃車する場合は、ダイハツサービス工場を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の通報音量を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 439)

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



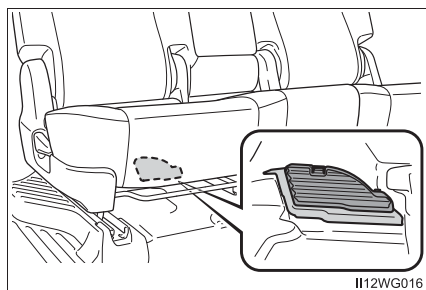
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① ラベル | ⑤ 電気モーター |
| ② サービスプラグ | ⑥ パワーコントロールユニット |
| ③ 駆動用電池 | ⑦ エアコンコンプレッサー |
| ④ 高電圧ケーブル（オレンジ色） | |

駆動用電池冷却用吸入口

駆動用電池冷却用の吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

リヤシート下部（運転席側）に吸入口があります。



緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→P. 370）



 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→ P. 368) が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量の目安は車両水平状態で約 7L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。)

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

 警告**■ 高電圧、高温について**

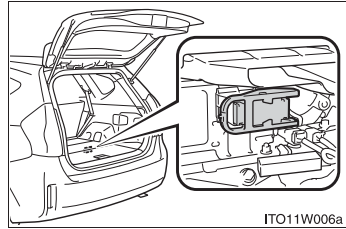
この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線(オレンジ色)およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

警告

- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、ダイハツサービス工場での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 359）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、ダイハツサービス工場に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

 警告**■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、ダイハツサービス工場を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、ダイハツサービス工場で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

- 吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

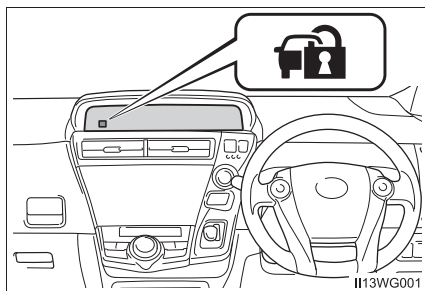
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたはON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. メーターの見方

警告灯／表示灯.....70

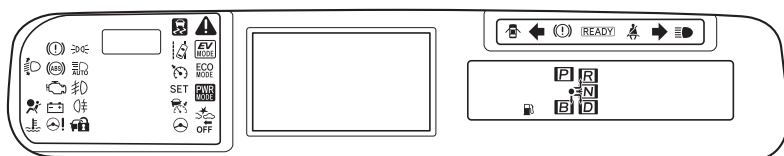
計器類.....74

マルチインフォメーション
ディスプレイ.....78

警告灯／表示灯

メーター・インストルメントパネル内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



II20WG173

警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 366)

(赤色)



スリップ表示灯
(→ P. 367)



電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 366)

(黄色)



LDA 表示灯 (→ P. 367)

(黄色)



充電警告灯 (→ P. 366)



高水温警告灯 (→ P. 367)



エンジン警告灯
(→ P. 366)



ヘッドランプオートレベリング警告灯★ (→ P. 368)



SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
(→ P. 367)



半ドア警告灯 (→ P. 368)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 367)



燃料残量警告灯
(→ P. 368)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 367)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 368)



PCS 警告灯 (→ P. 367)



マスターウォーニング
(→ P. 368)

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 153)



ECO MODE 表示灯
(→ P. 263)



尾灯表示灯 (→ P. 155)



パワーモード表示灯
(→ P. 263)



ハイビーム表示灯
(→ P. 155)



クルーズコントロール
表示灯 (→ P. 200)



フロントフォグランプ表示
灯★ (→ P. 164, 165)



レーダークルーズコント
ロール表示灯
(→ P. 200)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 165)



クルーズコントロール
セット表示灯 (→ P. 200)



セキュリティ表示灯
(→ P. 67)



※1
スリップ表示灯
(→ P. 265)



READY インジケーター
(→ P. 140)



※1, 2
PCS 警告灯 (→ P. 184)



EV ドライブモード表示灯
(→ P. 146)



シフトポジション表示灯
(→ P. 148)



LDA 表示灯 (→ P. 191)
(緑色)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 158)



ステアリング制御表示灯
(→ P. 195)

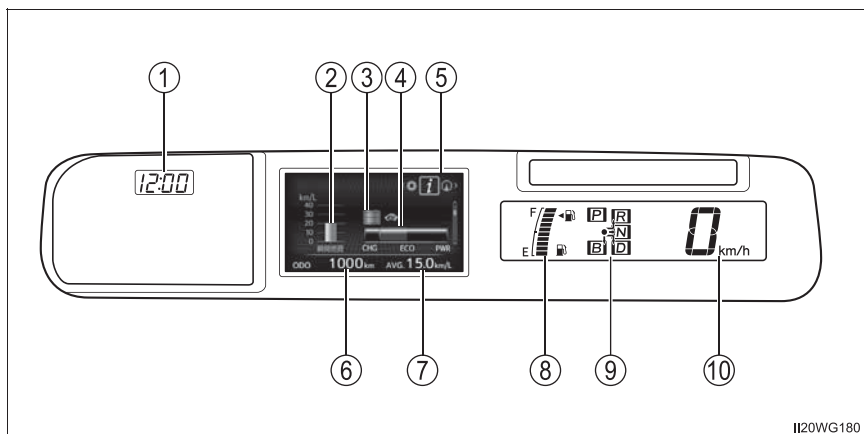
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※² システムが OFF のときに点灯します。

 警告**■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

計器類

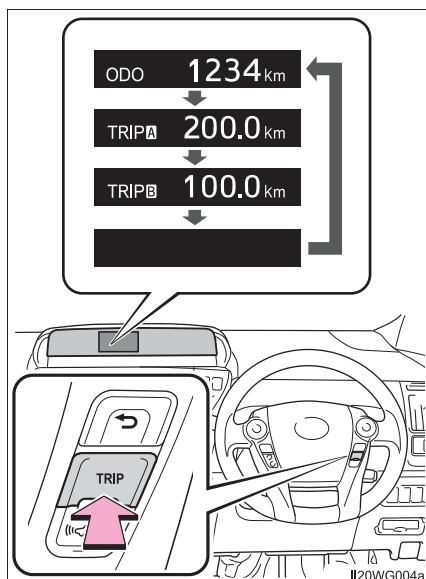


- ① 時計
時刻を表示します。(時刻調整のしかた：→ P. 297)
- ② 瞬間燃費表示
現在の瞬間燃費を表示します。
- ③ 駆動用電池残量表示
現在の駆動用電池残量を 8 段階で表示します。
- ④ ハイブリッドシステムインジケーター
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→ P. 82)
- ⑤ マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関する様々な情報を表示します。(→ P. 78)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 370)
- ⑥ オドメーター／トリップメーター
オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
- ⑦ 平均燃費表示
平均燃費を表示します。
- ⑧ 燃料計
燃料残量を示します。
- ⑨ シフトポジション表示灯
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 148)
- ⑩ スピードメーター
車両の走行速度を示します。

オドメーター／トリップメーター／平均燃費表示の切りかえ

ハンドルにある TRIP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離と平均燃費をリセットします。

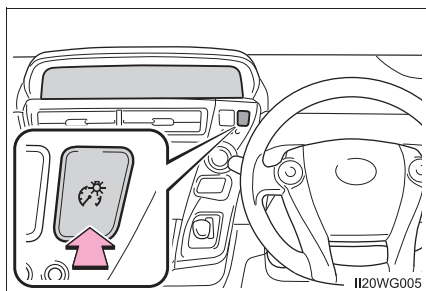
- ・オドメーター表示中、またはオドメーター／トリップメーターが非表示のときには、パワースイッチを ON モードにしてからの平均燃費が表示されます。
- ・トリップメーター表示中には、トリップメーターをリセットしてからの距離に連動した平均燃費が表示されます。
- ・リセットするには、平均燃費表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上押します。表示される平均燃費は、参考として利用してください。



メーター照度調整

車幅灯が点灯中で、かつ周囲が暗いとき、スイッチを押すたびにメーター表示の明るさが切りかわります。

メーター表示は、4 段階に明るさを調整できます。



 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **駆動用電池の残量表示について**

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがあります。異常ではありません。

■ **エンジン回転数について**

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、厳密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ **メーター照度について**

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。

■ **補機バッテリー端子の脱着をしたとき**

補機バッテリー端子の脱着を行うと、燃費表示と平均車速はリセットされます。

 警告■ **低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

 注意■ **ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために**

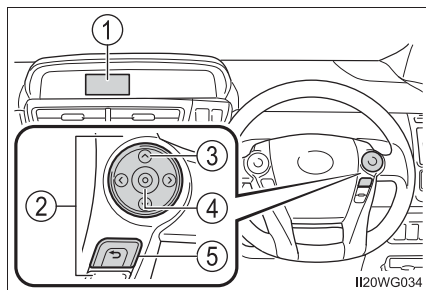
高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 427）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

- ① マルチインフォメーションディスプレイ
- ② メーター操作スイッチ
- ③ 選択／ページ送り
- ④ 決定／設定
- ⑤ ひとつ前の画面にもどる



● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 79)



時計

現在の時刻を表示します。



走行支援システム

LDA(レーンディパーチャーアラート[ステアリング制御機能付き])とレーダークルーズコントロールに関する情報を確認できます。(→ P. 191, 200)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 370)



設定

メーターの表示設定などを切りかえることができます。(→ P. 439)

ドライブインフォメーション

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して

 を選択し、▼ または ▲ を押します。

■ エネルギーモニター

現在の車両のハイブリッドシステムの状態を表示します。(→ P. 80)

■ ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→ P. 82)

■ エコジャッジ／ハイブリッドシステムインジケーター

エコ運転の総合点を表示します。(→ P. 82)

■ 1 分間燃費／瞬間燃費

1 分ごとの燃費と瞬間燃費を表示します。(→ P. 83)

■ 航続可能距離／ハイブリッドシステム始動後平均車速／ハイブリッドシステム始動後平均燃費

燃料残量から推定される走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の平均車速、平均燃費を表示します。(→ P. 83)

■ LDA ふらつき度合表示

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意低下の度合いをバーの長さで表示します。

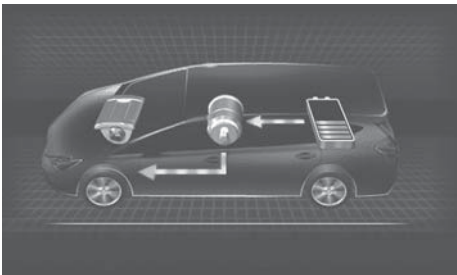
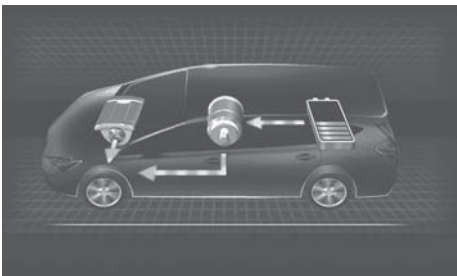
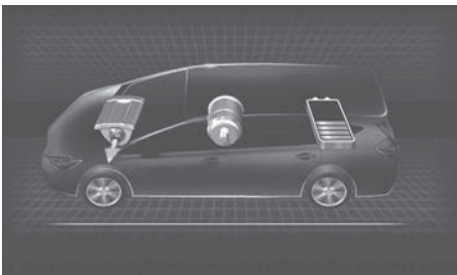
バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

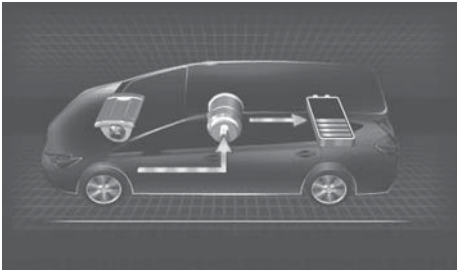
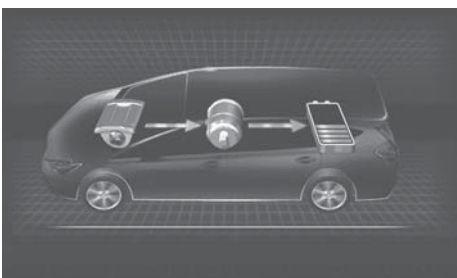
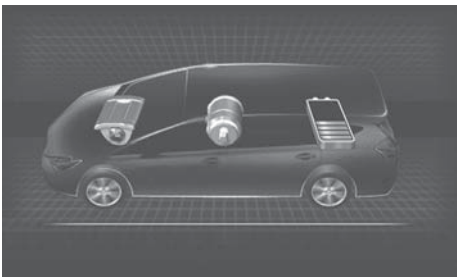
この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の機能のひとつです。LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。(→ P. 191)

■ 表示 OFF

OFF 画面を表示します。

エネルギーモニターの見方

車両の状況	エネルギーモニターの表示
電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	

車両の状況	エネルギーモニターの表示
駆動用電池に充電しているとき	
	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない  ↔ 多い 

表示画面については実際の状況と異なる場合があります。

ハイブリッドシステムインジケータの見方

ハイブリッドシステムの出力や回生状況に応じて、インジケータの表示が変化します。このインジケータの状態を確認することで、より環境に配慮した走行が可能となります。

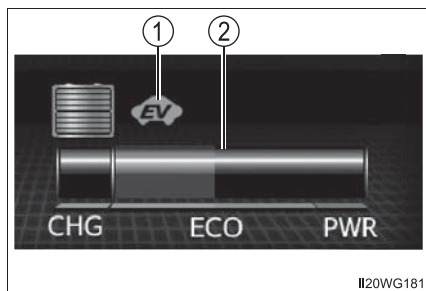
■ 各アイコン類の名称・意味

① EV インジケータ

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに点灯します。

② ハイブリッドシステムインジケータ

→ P. 84



エコジャッジの見方

お客様のエコ運転技術の向上と燃費向上を目的として、エコ運転の総合点を表示します。

① エコ運転評価

エコ発進・安定走行・エコ停止から総合採点を行い、点数を表示します。

② エコ発進

③ 安定走行

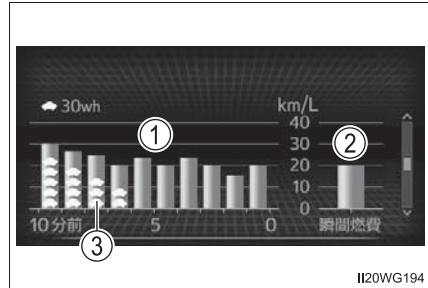
④ エコ停止



1 分間燃費／瞬間燃費の見方

- ① 過去 10 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- ② 瞬間燃費
- ③ 過去 10 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

 マーク 1 つが 30Wh です。



航続可能距離／ハイブリッドシステム始動後平均車速／ハイブリッドシステム始動後平均燃費の見方

- ① 航続可能距離
 - ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
 - ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。



- ② ハイブリッドシステム始動後平均車速
- ③ ハイブリッドシステム始動後平均燃費
 - ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。
 - ・ 表示画面については実際の状況と異なる場合があります。

知識

■ システムチェック表示

パワースイッチを ON モードにしたとき、システムの作動確認のために映像画面が表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■ 割り込み表示

エアコンなど割り込み表示に対応しているシステムを操作すると、一時的に画面に表示されます。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、燃費表示と平均車速はリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■ ハイブリッドシステムインジケータについて

① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

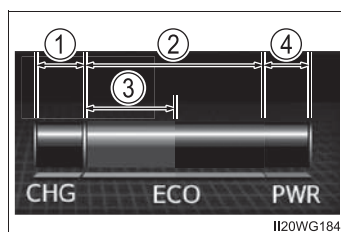
④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

● インジケータの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

● チャージエリアは、回生 * 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

* ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。



■メーターの表示設定を初期化するには

- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択し、⊙ スイッチを押す
- 2 ▲ または ▼ を押して「メーター設定初期化」を選択して ⊙ を押し、「はい」を選択する

■カスタマイズ機能

メーターの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 439)

警告

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

各部の操作**3**

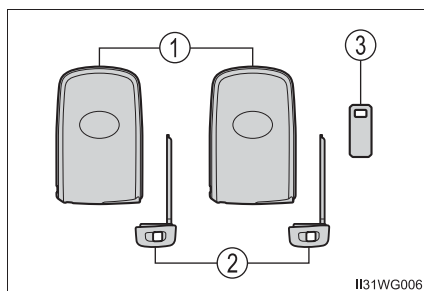
3-1. キーの取り扱い	
キー	88
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
ドア	92
バックドア	97
スマートエントリー& スタートシステム	103
3-3. シートの調整	
フロントシート	110
リヤシート	113
ヘッドレスト	116
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	118
インナーミラー	120
ドアミラー	121
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	123

キー

キーについて

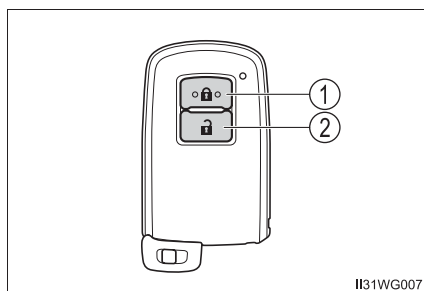
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 103)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

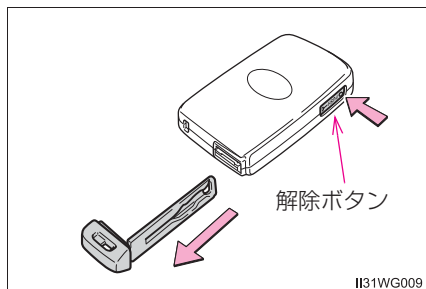
- ① 全ドアを施錠する (→ P. 92)
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する (→ P. 92)



メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 420)



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、ダイハツサービス工場でダイハツ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 388)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 337

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはダイハツサービス工場へご相談ください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。

ドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① ハンドルを握って解錠する ※

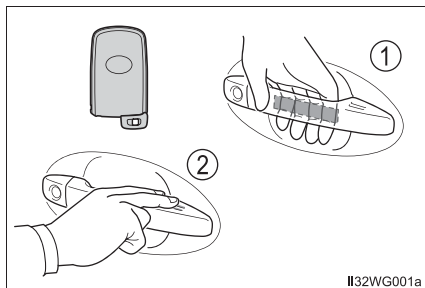
ハンドル裏面のセンサー部に確実に
ふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する ※

必ず施錠されたことを確認してください。

※ 運転席単独スマートドアロック装着車は運転席ドアハンドルのみで、前席＆バックドアスマートドアロック装着車は、運転席および助手席ドアハンドルで、ドアを解錠・施錠することができます。



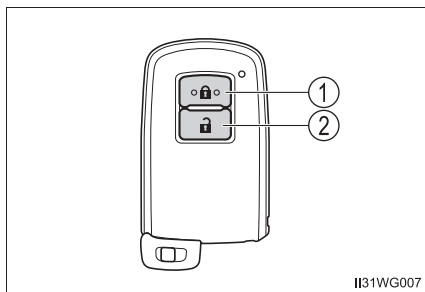
II32WG001a

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



II31WG007

 知識

■ 作動の合図

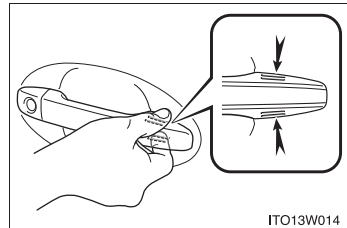
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

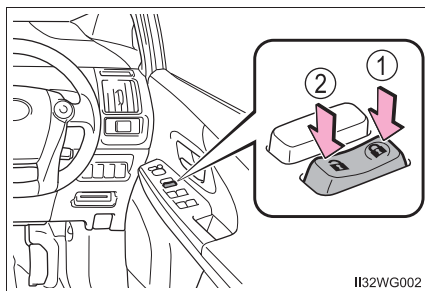
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 420)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 337)

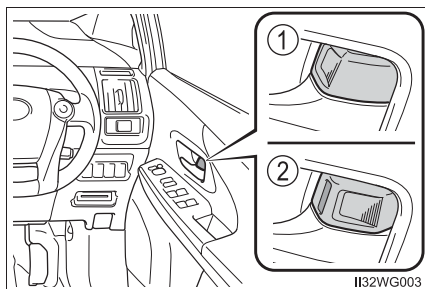
車内からの施錠／解錠**◆ ドアロックスイッチ**

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

**◆ ロックレバー**

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

**キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき**

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリモードまたはONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 420)

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 106

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。(カスタマイズ一覧: → P. 440)

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

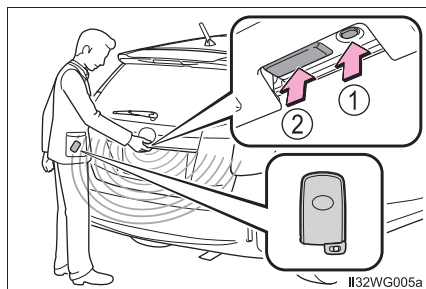
バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開けることができます。

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 88

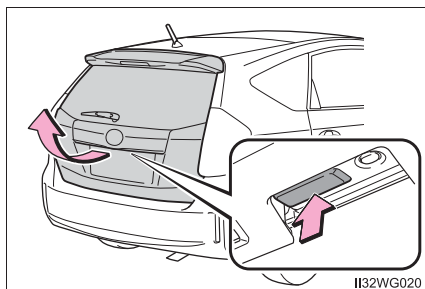
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 94

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを開ける

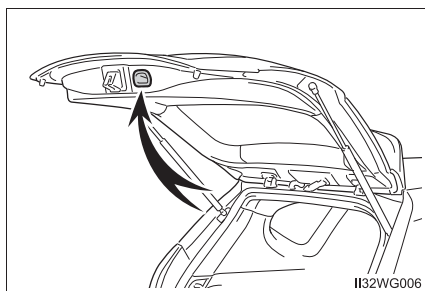
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げてください。



バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

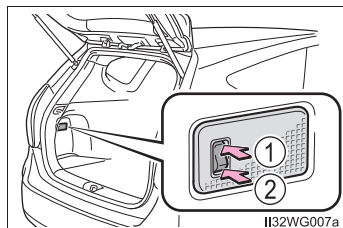
■ ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

① OFF

② ON

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

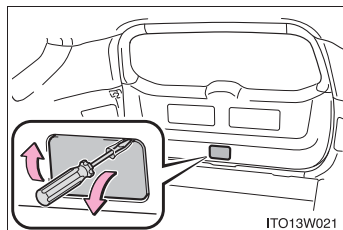


■ バックドアが開かないとき

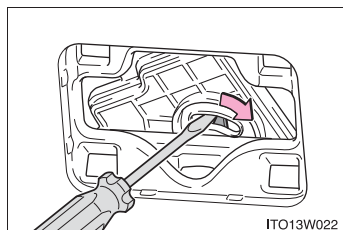
バックドアのロックを内側から解除することができます。

① カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



② レバーを押す



 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

！ 警告**■ バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

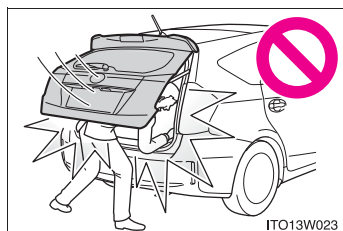
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

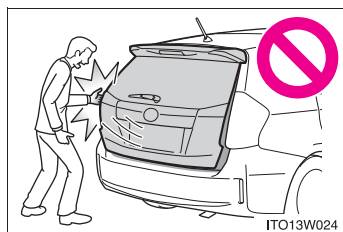
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

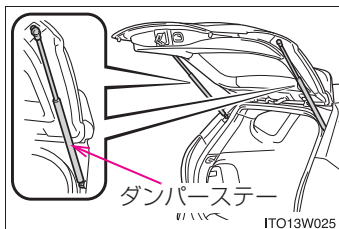
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

 注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにダイハツ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

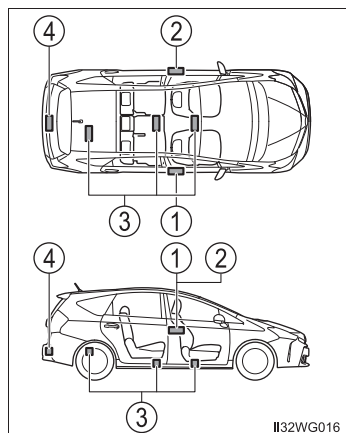
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 92）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 97）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 140）

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ（運転席側）
- ② 車外アンテナ（助手席側）★
- ③ 車内アンテナ
- ④ ラゲージルーム外アンテナ★



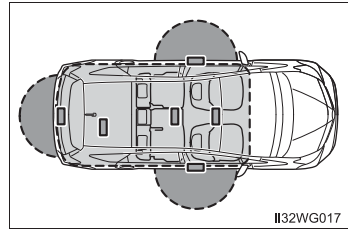
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルセンサー・助手席ドアハンドルセンサー★・バックドアオープンスイッチ★から周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 385）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

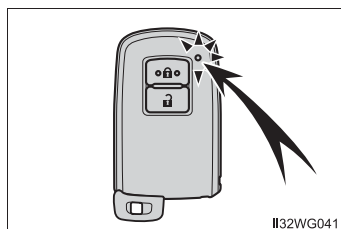
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 前席&バックドアスマートドアロック装着車では、14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 420)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠・施錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。（この設定を変更できます：→ P. 439）
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
 - ・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 105）
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができません。(→P. 439)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P. 420
- ハイブリッドシステムの始動：→P. 420

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P. 439)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→P. 92, 97, 420)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切り替え：→P. 420
- ハイブリッドシステムの停止：→P. 141

 警告**■電波がおよぼす影響について**

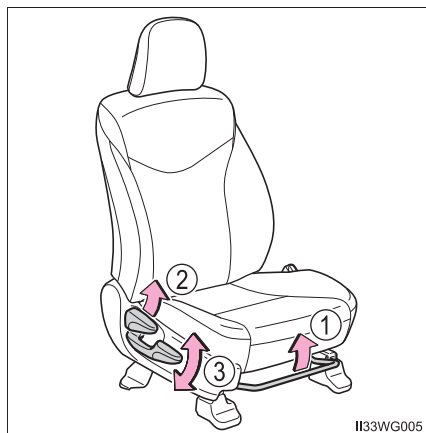
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 103）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整（運転席のみ）★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フラットシート

■ フラットシートにする前に

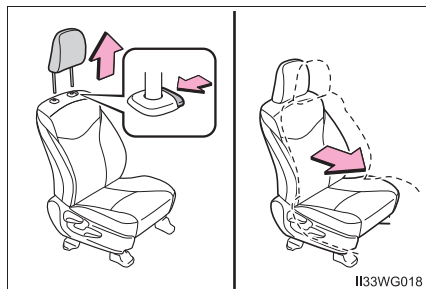
1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
(→ P. 149)

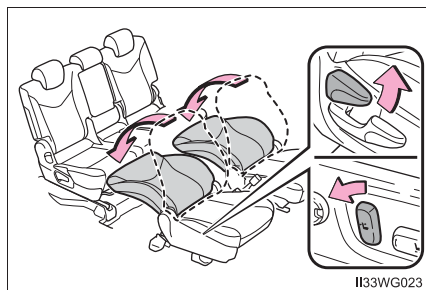
2 リヤシートをいちばんうしろまで移動させる (→ P. 113)

■ フラットシートにするには

1 フロントシートをいちばん前まで移動させ (→ P. 110)、ヘッドレストをはずす (→ P. 116)



2 フロントシートの背もたれが、リヤシートのクッションと同じ高さになるまで倒す (→ P. 110)



3 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

シートをもとの位置にもどしたあとは、走行する前に必ずヘッドレストを取り付けてください。

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 警告**■ リクライニング調整について**

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。
- フラットシートをもとにもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。

■ フラットシートについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にフラットシートの操作をしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- シートに人が乗っている状態でフラットシートの操作をしない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- 操作後は、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトなどが挟み込まれていないか確認する

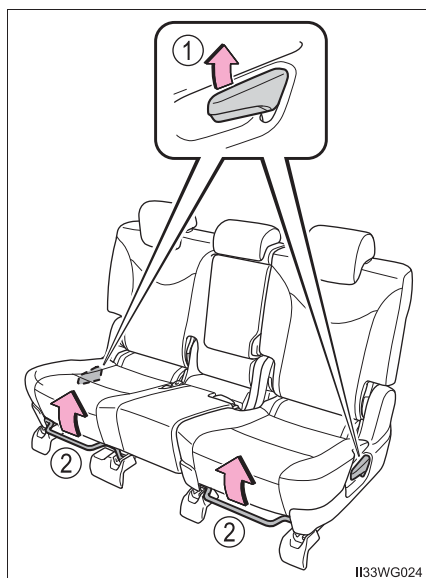
 注意**■ フラットシートについて**

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

リヤシート

調整のしかた

- ① リクライニング調整
- ② 前後位置調整



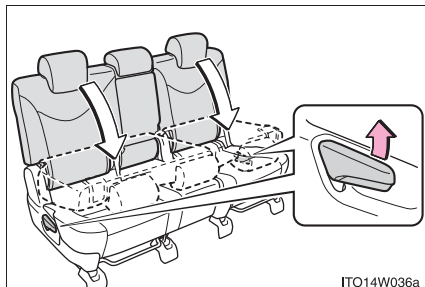
リヤシートの前倒しを行う前に

- 1** 車を安全な場所に駐車する
しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。
(→ P. 149)
- 2** フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する (→ P. 110)
フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。
- 3** リヤシート中央席用シートベルトを分離・格納する (→ P. 30)
助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。
- 4** リヤシートのヘッドレストを下げる (→ P. 116)
- 5** リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する
(装着車のみ：→ P. 305)

リヤシートの前倒し

レバーを引き上げる

もどすときは、背もたれを起こして固定します。

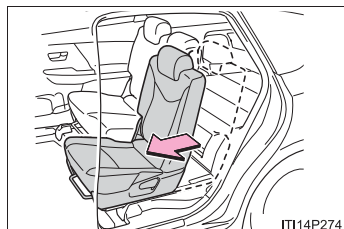


知識

■ 助手席側シートの前後位置調整について

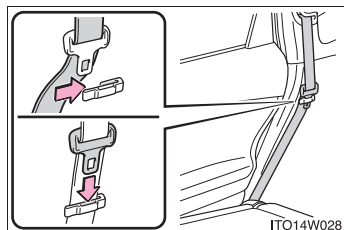
助手席側シートは、運転席側シートよりも前へスライドさせることができるため、ラゲージルームへの荷物の積み降ろしに便利です。

前側いっぱいまでスライドさせたときは、シートはロックされません。操作後はロックされる位置までもどし、確実に固定してください。



■ シートベルトハンガー

左右席のシートベルトを使用しないときは、シートベルトハンガーに格納することができます。



**警告****■シートを操作するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートを操作しない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態でシートを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 操作後は、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

■シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

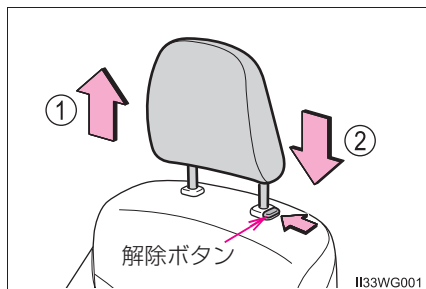
- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する
- リヤシート中央席用シートベルトを分離したときは、もとどおりに結合する(→ P. 29)
- シートベルトハンガー(→ P. 114)にシートベルトを格納していた場合、使用する前にもとどおりに取りはずしてあるか確認する

ヘッドレスト

① 上げる

② 下げる

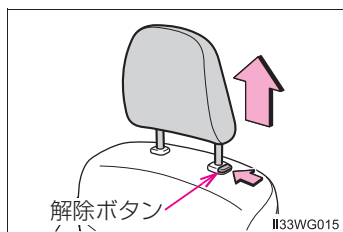
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながら取りはずします。

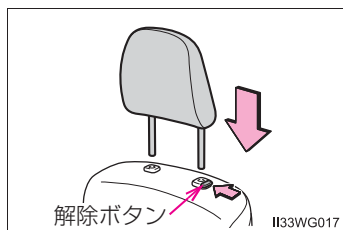


■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

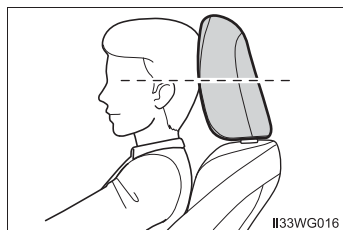
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

イラストはフロントシートで代表しています。



■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

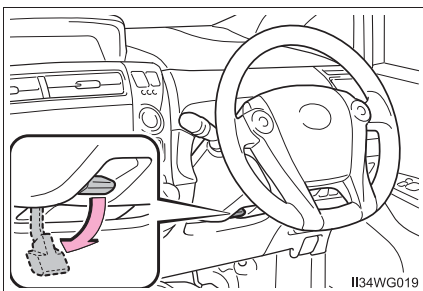
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

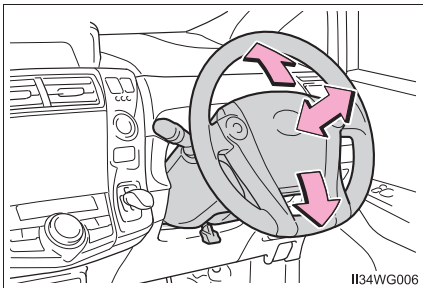
ハンドル

調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

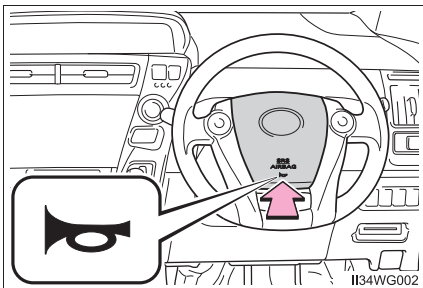


- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

 警告**■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

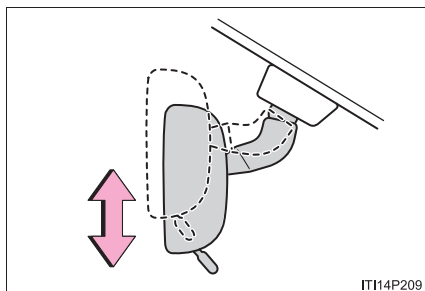
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

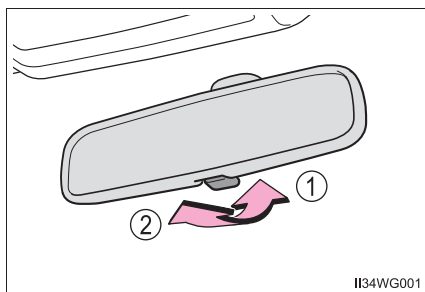
運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

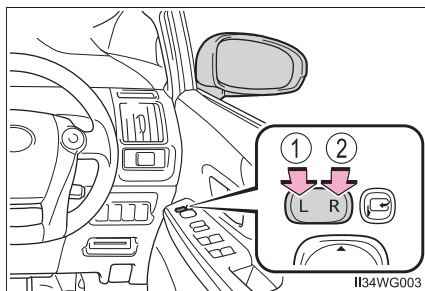
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

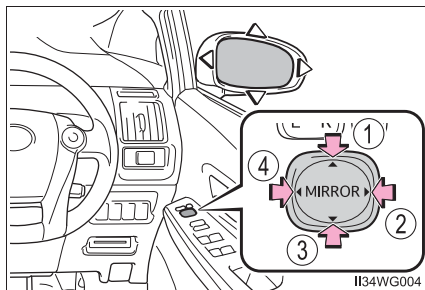
1 調整するミラーを選ぶ

- ① 左
- ② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

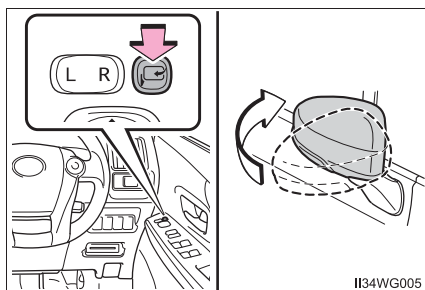
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



 知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 278）

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

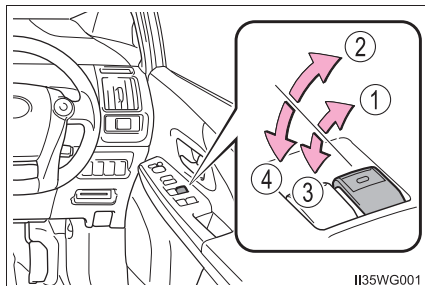
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

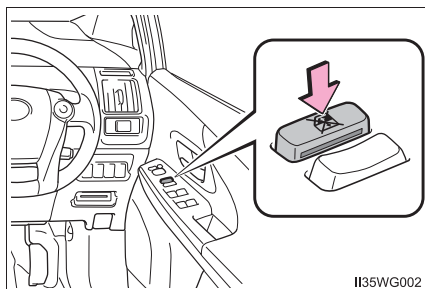
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① パワースイッチを ON モードにする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

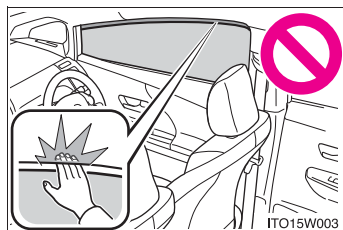
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 123)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態で作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込ませないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	128
荷物を積むときの注意	138

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	140
EV ドライブモード	146
トランスミッション	148
方向指示レバー	153
パーキングブレーキ	154

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	155
オートマチックハイビーム ...	158
フォグランプスイッチ	164
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	167
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	170

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	172
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense P	175
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）	181
LDA（レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き]）	191
レーダークルーズ コントロール	200
インテリジェント パーキングアシスト	212
ドライブモードセレクト スイッチ	263
運転を補助する装置	264

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	269
寒冷時の運転	271

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 140

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする
(→ P. 148)
シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 154)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み
発進する

停車する

- 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→ P. 149)

駐車する

- 1 車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 154)
- 3 シフトポジションを P にする (→ P. 149)
シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。
- 4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※] 輪止めはダイハツサービス工場で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションをDにする
- 2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→ P. 264)

■ 燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→ P. 269)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 376）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は B ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 358を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 149)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ **シフトポジションを変更するとき**

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ **停車するとき**

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 389, 401 をご覧ください。

 注意**■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずダイハツサービス工場で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジンオイル・トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。Pから他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。(→ P. 359)

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

警告**■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

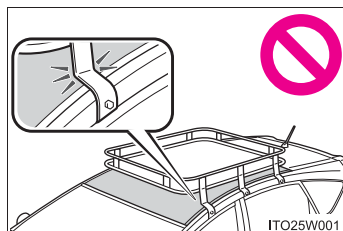
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

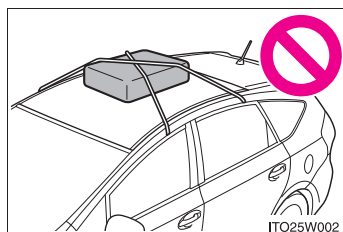
注意**■ ルーフに荷物を積むときは（パノラマルーフ装着車）**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パノラマルーフに傷が付いたり、変形したり、ルーフラックが脱落したりするおそれがあります。

- パノラマルーフにあたるようなルーフラックは装着しない



- パノラマルーフに直接荷物を積まない



パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→ P. 149）

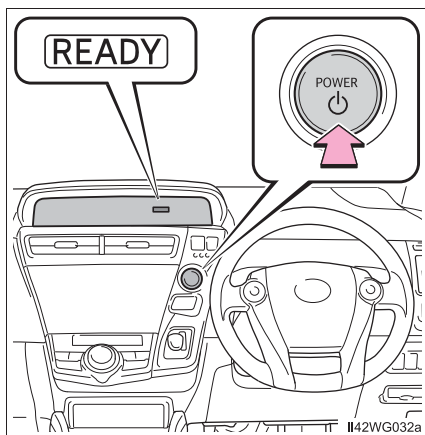
- 3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

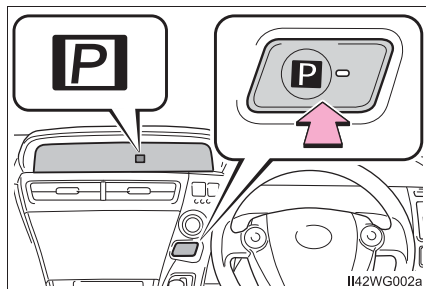
READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

ハイブリッドシステムの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける (→ P. 154)
- 3 P ポジションスイッチを押す
(→ P. 149)

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。
(→ P. 148)



- 4 パワースイッチを押す
ハイブリッドシステムが停止します。
- 5 ブレーキペダルから足を離した状態にして、メーターの表示とマルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消えていることを確認する

ハイブリッドシステム停止後、時間の経過に従って段階的に、メーター表示が消えます。(→ P. 144)

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

OFF

非常点滅灯が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイには何も表示されません。

アクセサリーモード

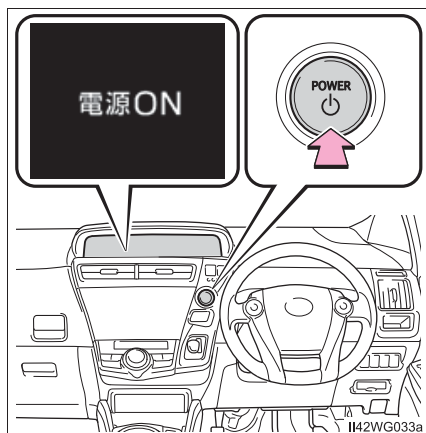
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 61

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 90

■ 外気温が低いとき

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケータの点滅時間が長くなる場合があります。READY インジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 106

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 107

■ ハイブリッドシステムが始動しないとき

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 67)
ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステムチェック 販売店で点検を受けてください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケータが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケータが点灯しない場合は、ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 372

■ 電子キーの電池が切れたとき

→ P. 337

■ パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 151

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。

システムが故障した場合は、すみやかにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■メーター表示について

パワースイッチを OFF にすると、各表示が次のように消えます。

- 約 2 秒後にシフトポジション表示灯が消えます。
- 約 6 秒後に始動後 EV 走行比率と始動後平均燃費が消えます。
- 約 30 秒後にオドメーターや時計などが消えます。

(30 秒間経過する前でも、ドアを施錠すると各表示はすぐに消えます)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 420



警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 358)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消えていない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにダイハツサービス工場にご連絡ください。

EV ドライブモード

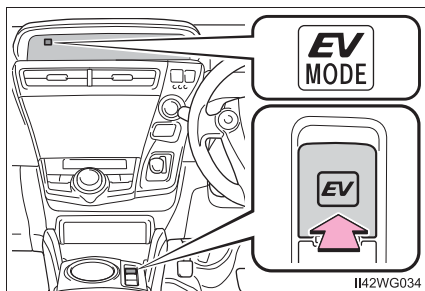
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→ P. 59)

EV ドライブモードの ON / OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃ を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→ P. 80)
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができません。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 駆動用電池の充電量が低下したとき

エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 80）

● 車速が高いとき

● アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 走行モード（→ P. 263）の切りかえについて

EV ドライブモードとエコドライブモード／パワーモードは併用することができます。

ただし、パワーモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなることがあります。

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。



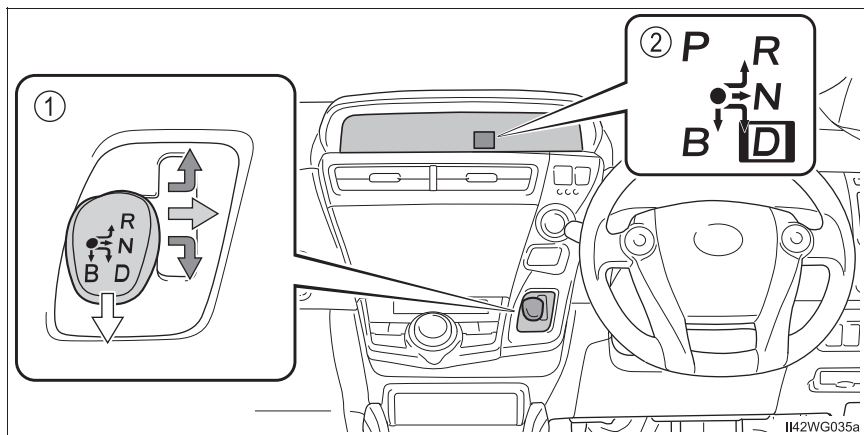
警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが●の位置に自然にもどります。

↑ ↓ D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

⇒ N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

↓ B へ切りかえるときは、下側に操作します。

↓ シフトポジションが D のときのみ、B に切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションがシフトポジション表示灯上の枠の位置で表示されます。

D・B 以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

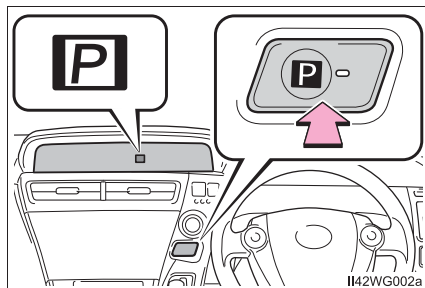
→ P. 263

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。シフトポジション表示灯で、P の位置が点灯していることを必ず確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

 知識

■ シフトポジションについて

- パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても P から他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。
- D 以外から直接、B に切りかえることはできません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

- シフトポジションの切りかえを無効にするとき
 - ・ P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
 - ・ P または N から、B を選択したとき
 - 自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき
 - ・ 走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※¹
 - ・ 車両が前進しているときに R を選択したとき ※²
 - ・ 車両が後退しているときに D を選択したとき ※³
 - ・ R から B を選択したとき
- ※¹ 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。
- ※² 低速走行時は、R に切りかわることがあります。
- ※³ 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 130

■自動 P ポジション切りかえ機能について

パワースイッチが ON モードの状態ではシフトポジションが P 以外のとき、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。*

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。意図せぬ車両の急停止を防止するため、車両を完全に停止させてからパワースイッチを押してください。

■シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 422 を参照してください。

■エンジンブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。
- 強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→ P. 424



警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバー／P ポジションスイッチについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチやシフトレバーにふれないでください。

 注意**■ 駆動用電池の充電について**

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→ P. 370)
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

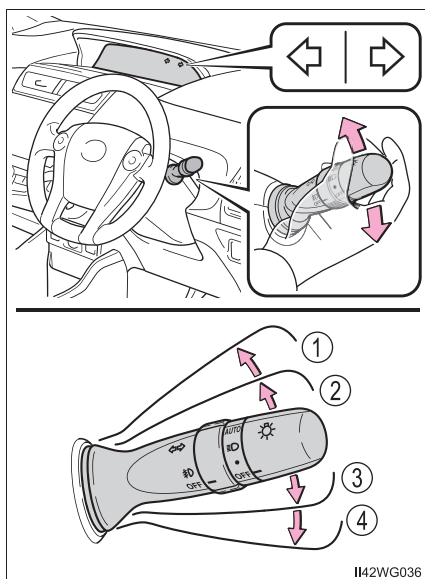
■ シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、約 20 秒待ってから操作し直してください。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

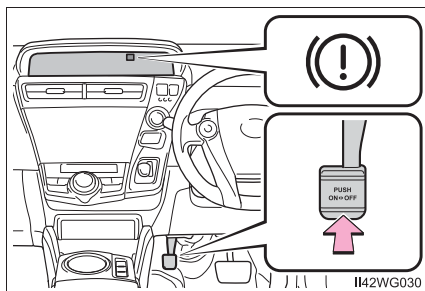
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■ 駐車するとき

→ P. 128

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→ P. 366

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 271

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

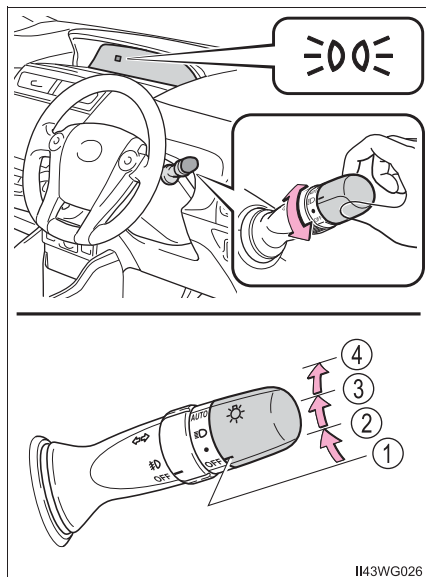
ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

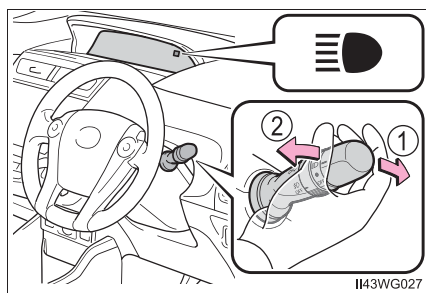
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

- ① **OFF** 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③  上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト (→ P. 157)・車幅灯などを自動点灯・消灯 (パワースイッチが ON モードのとき)



ハイビームにする

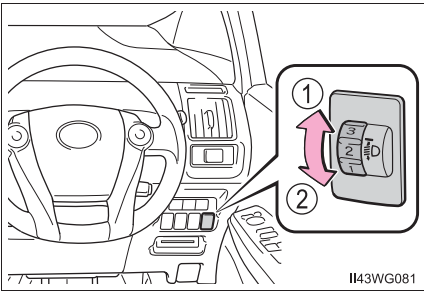
- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

 知識

■ LED デイライト

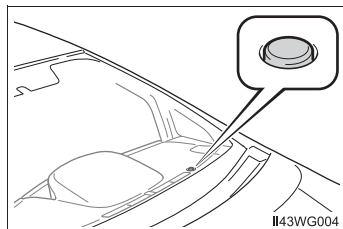
日中での走行時、自車がほかの運転手から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除してランプスイッチを **AUTO** にすると、LED デイライトが自動で点灯します。

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

また、エアコン作動のさまたげとなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを **OFF** にもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム (LED ヘッドランプ装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧: → P. 439)

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

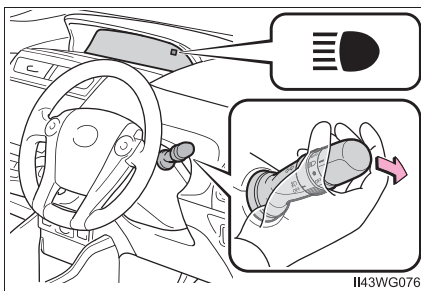
ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

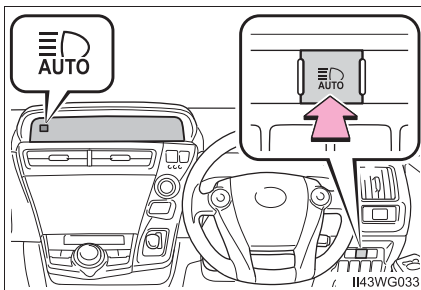
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを **AUTO** または  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

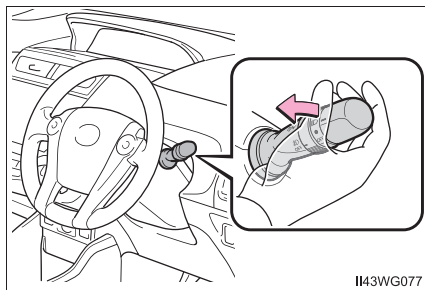
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

手動切りかえのしかた**■ ロービームへの切りかえ**

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

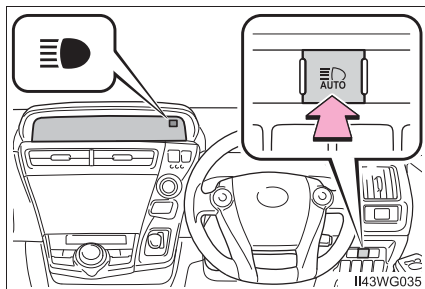
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

**■ ハイビームへの切りかえ**

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
 - ・ 対向車が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 対向車または先行車が無灯火のとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき

警告

■安全にお使いいただくために

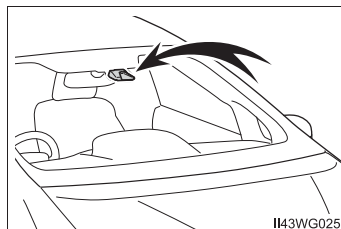
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

 注意

■ オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズにふれない
- カメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- カメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスやヘッドランプに交換しない



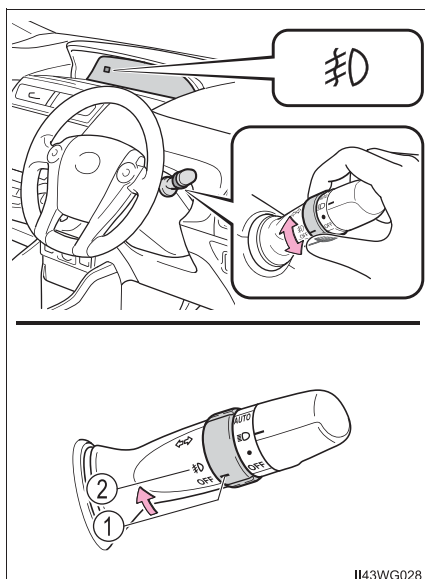
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車

- ① OFF 消灯する
- ② 点灯する



II43WG028

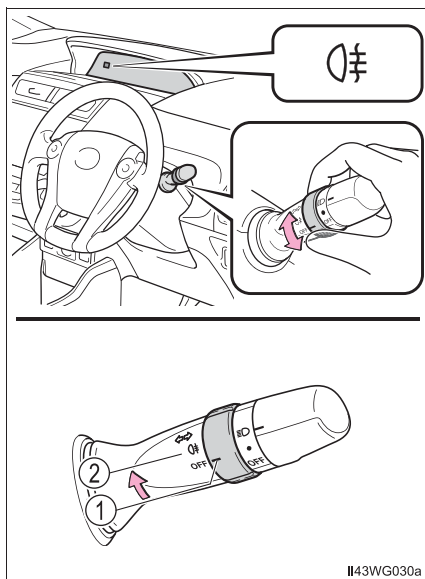
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤフォグランプ装着車

- ① OFF 消灯する
- ② 0 $\frac{1}{2}$ 点灯する

手を離すとOFFの位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。

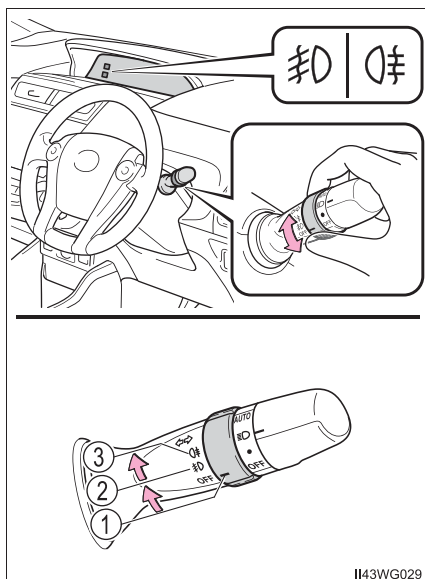


▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

- ① OFF 消灯する
- ② 1/2 フロントフォグランプを点灯する
- ③ 0 $\frac{1}{2}$ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと 1/2 の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



 知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドランプまたはフロントフォグランプ（装着車のみ）が点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

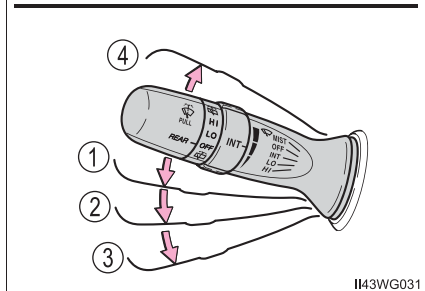
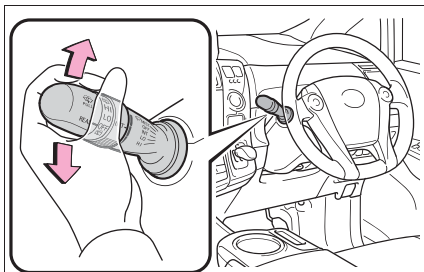
ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

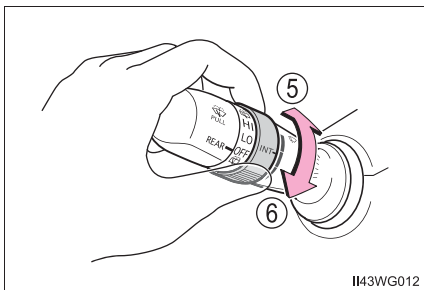
- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）



II43WG031

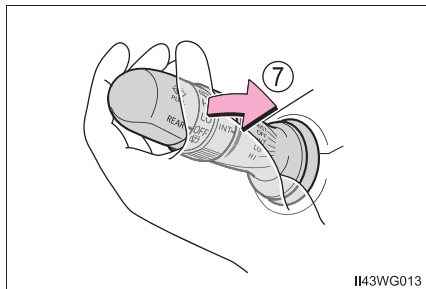
間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。

- ⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



II43WG012

- ⑦ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



II43WG013

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

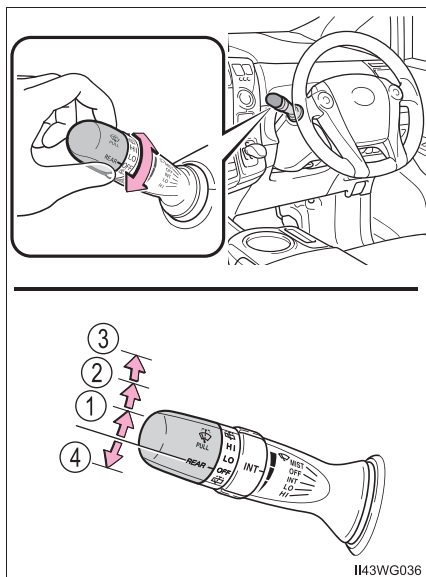
ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のようにレバーの端をまわしてワイパーの作動を選択します。

- ① **LO** 間欠作動
- ② **HI** 通常作動
- ③  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

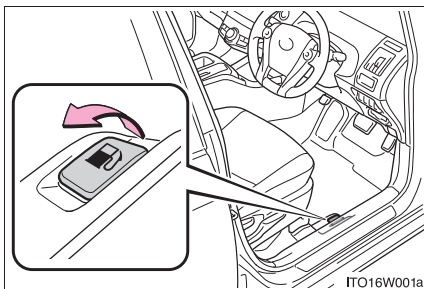
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

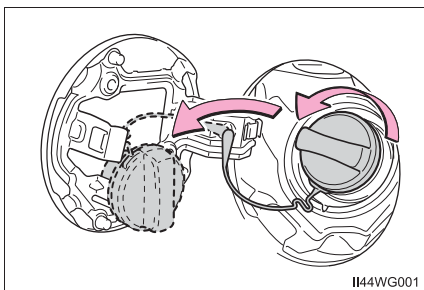
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

- 1** オープナーを上げて、給油扉を開ける



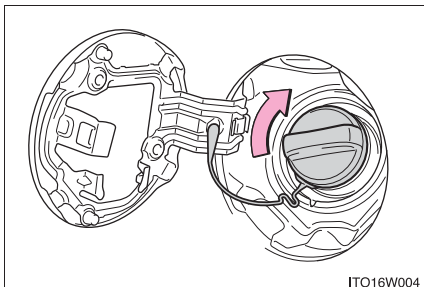
- 2** キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がする
までまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し
もどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense P

Toyota Safety Sense P は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 181

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）

→ P. 191

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 158

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 200

 警告

■ Toyota Safety Sense P について

Toyota Safety Sense P は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

ダイハツはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ ダイハツが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

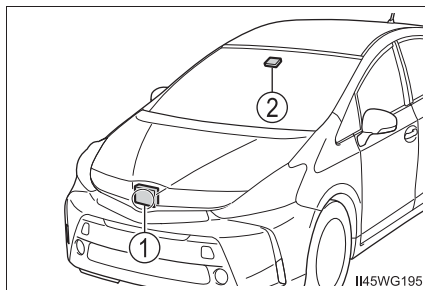
● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダーセンサー
- ② カメラセンサー



警告**■レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

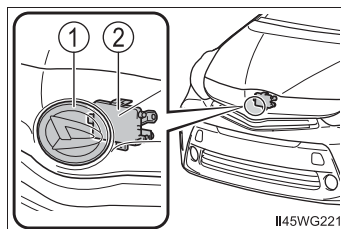
●レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

① フロントグリルエンブレム

② レーダーセンサー

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける

レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない

●レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告**■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

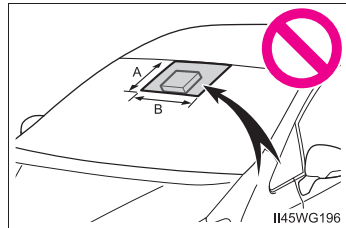
● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

● フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端からカメラセンサー下端より下約 1cm まで

B: 約 20cm（カメラセンサー中心から左右約 10cm）



- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→ P. 278）
- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
 - ・ ワイパーゴムの交換：→ P. 328
 - ・ ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず
に交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーに強い光を照射しない

 警告

- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識**■ レーダーセンサーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

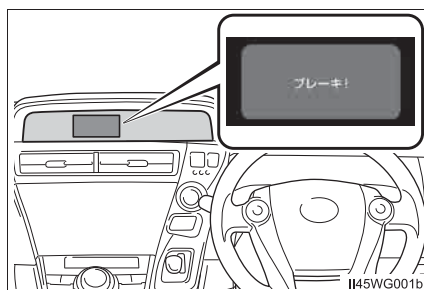
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 184）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→ P. 186
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 188
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 警告**■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤ★やタイヤパンク応急修理キット★を使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

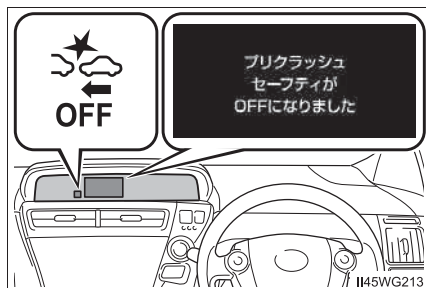
プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  画面 (→ P. 78) から、プリクラッシュセーフティシステムの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  画面 (→ P. 78) から、プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

① 遠い

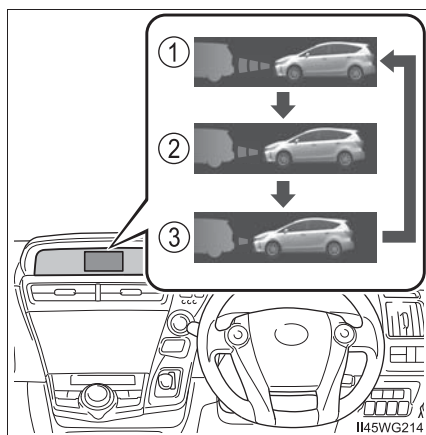
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



 知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

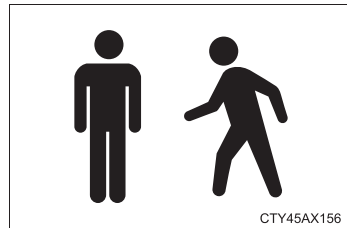
- ・ 自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
 - ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上
- ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 189）



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

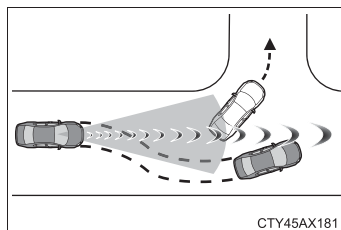
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

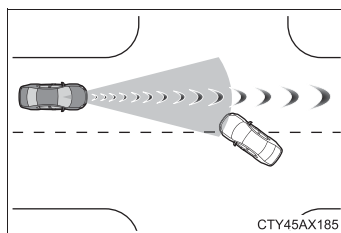
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

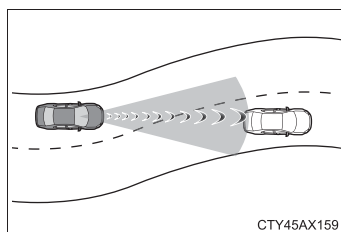
- ・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・右左折する先行車を追いこすとき



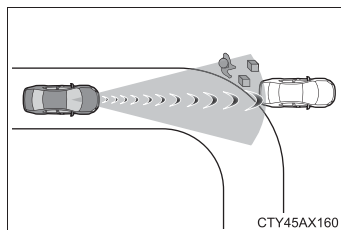
- ・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



- ・隣の車線の前方向車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

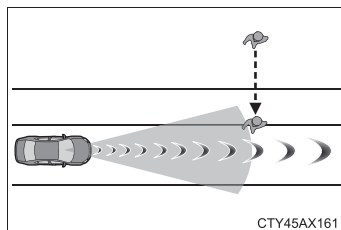


- ・前方車両に急接近したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

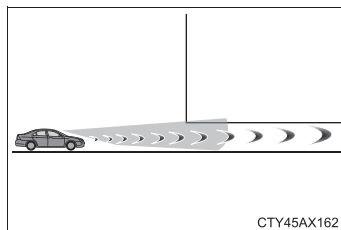


- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

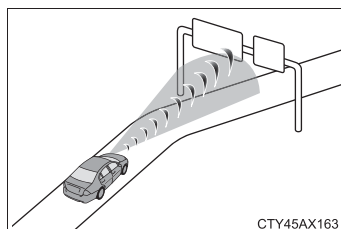
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

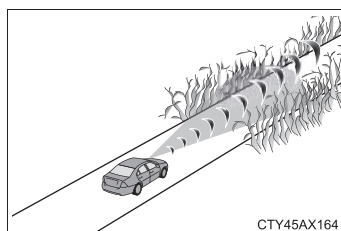


- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき

- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

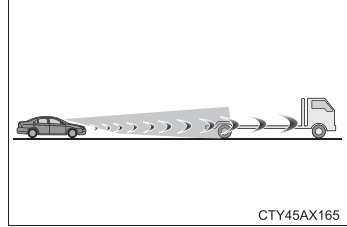


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

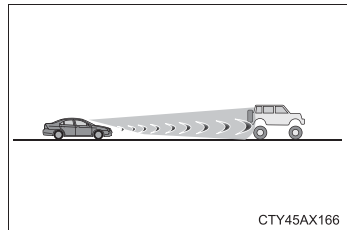
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

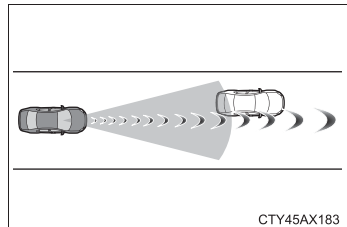
- ・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
- ・前方車両がオートバイ・自転車のとき
- ・車両の側面または前面に近付いたとき
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

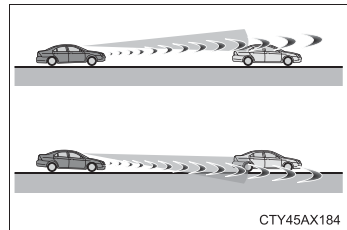


- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

- ・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・自車が横すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ・ホイールアライメントがずれているとき
 - ・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
 - ・ふらつき運転をしているとき
 - ・過度な高速走行をしているとき
 - ・坂道を走行しているとき
 - ・前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・身長が約 1m 以下、または約 2 m 以上の歩行者
 - ・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・集団でいる歩行者
 - ・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・歩く速度が速い歩行者

- ・ 歩く速度を急激に変化させている歩行者
- ・ 物陰から飛び出してきた歩行者
- ・ 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ **PCS警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

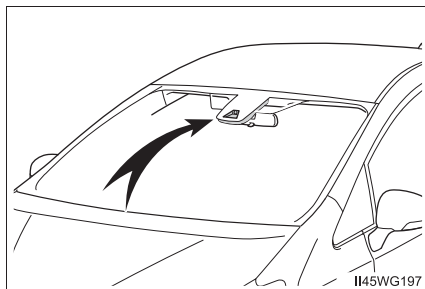
- 次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・ 炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
 - ・ 極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
 - ・ 前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
 - ・ カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき
(フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 278)
 - ・ ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき
- 状況が改善されても PCS 警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

LDA（レーンディパーチャーアラート※ [ステアリング制御機能付き]）

機能概要

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDA は、フロントウィンドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

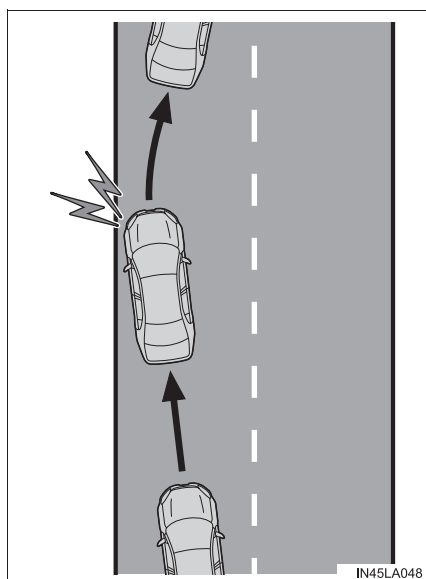


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。

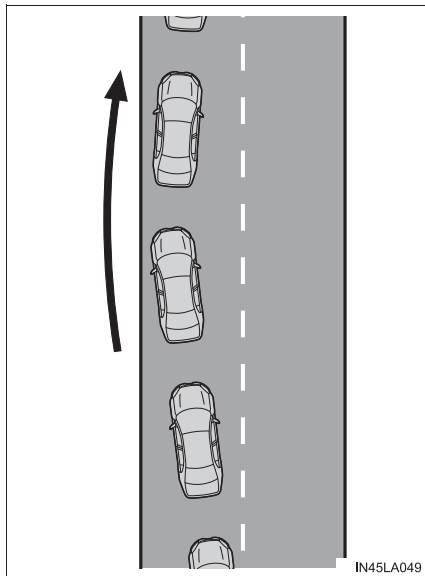


※：車線逸脱警報

◆ ステアリング制御機能

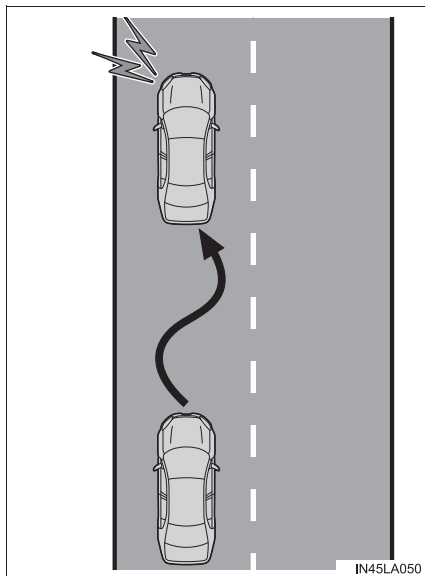
車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。



◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急用タイヤ★・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウィンドウガラスの修理が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

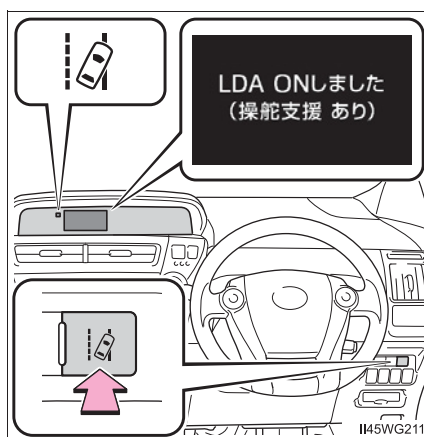
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

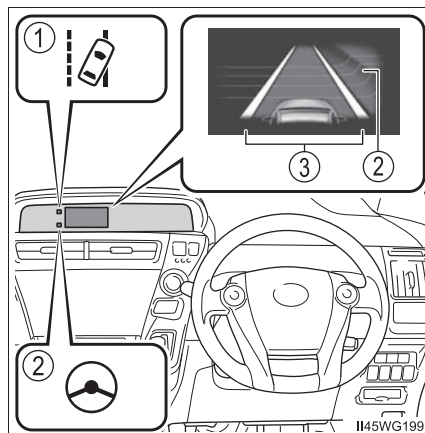
いったん LDA を ON / OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

① LDA 表示灯

システムがONになっているときに点灯します。



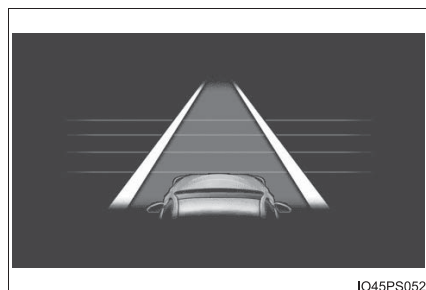
② ステアリング制御表示灯／ハンドル操舵支援作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中のとき、表示灯が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイの作動画面が表示されます。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを  画面 (→ P. 78) に切りかえると表示されます。

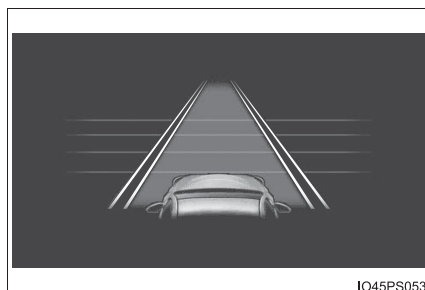
▶ 白線表示の内側が白いとき



IO45PS052

システムが白(黄)線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



IO45PS053

システムが白(黄)線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 198）

● ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 439）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を停止していないとき
- ・ 手放し運転警告（→ P. 197）が表示されていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイの  画面で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 439）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 198）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 196）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→ P. 196）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかったり、ステアリング制御機能が作動しなかったりすることがあります。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオ★の音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■手放し運転警告について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、警告メッセージが表示され、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様です。ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 370）

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報機能	警報感度
ステアリング制御機能	機能の ON / OFF
ふらつき警報機能	機能の ON / OFF
	警報感度

設定変更のしかたは、P. 439 を参照してください。

レーダークルーズコントロール

機能概要

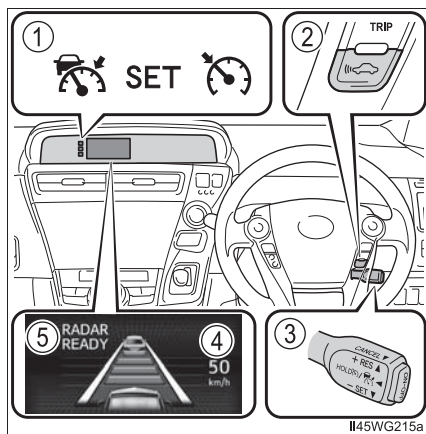
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

● 車間制御モード (→ P. 203)

● 定速制御モード (→ P. 208)

- ① 表示灯
- ② 車間距離切りかえスイッチ
- ③ クルーズコントロールスイッチ
- ④ 設定速度
- ⑤ マルチインフォメーションディスプレイ



 警告**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりするとおそれ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信するとおそれ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 警告**■ 誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

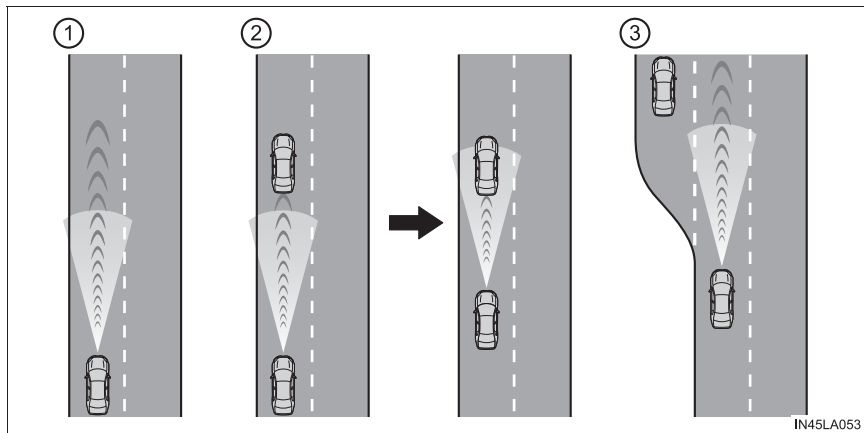
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行： 先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行 — 追従走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 加速走行： 設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

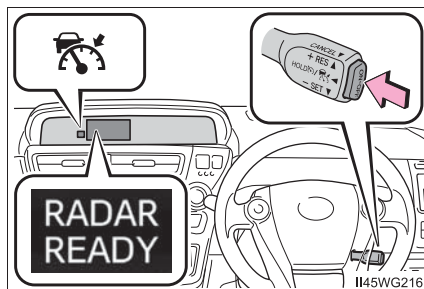
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFFにするには再度ON-OFFスイッチを押します。

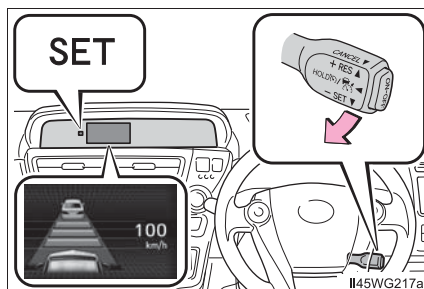
ON-OFFスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→ P. 208）



- 2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げた速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

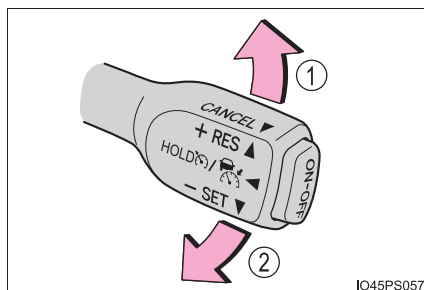
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 208）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

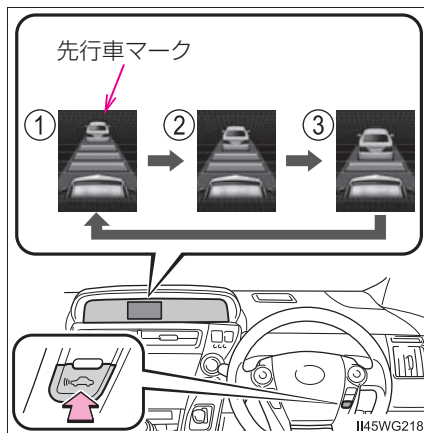
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

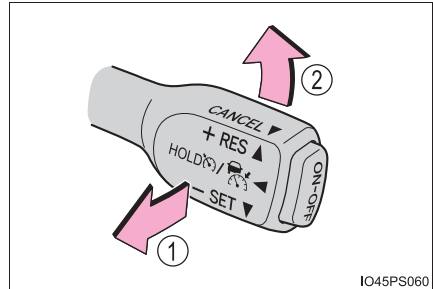
（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

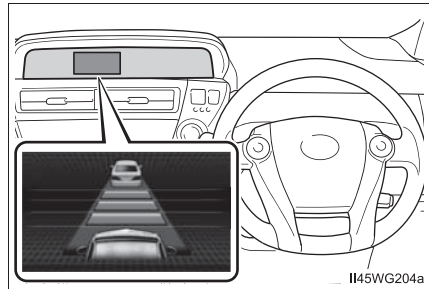
- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる
ただし、車速が約 40km/h 以下のときは、復帰しません。



I045PS060

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



II45WG204a

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

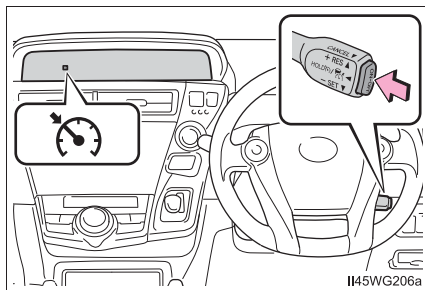
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1** クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



- 2** 希望の車速（約 40km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

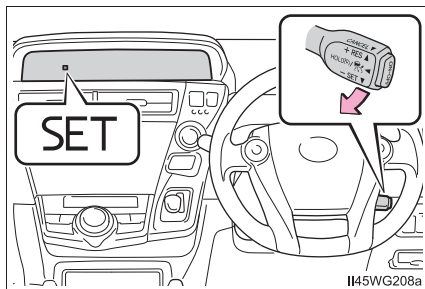
レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

→ P. 205

制御を解除する・復帰させる

→ P. 207



 知識

■ 設定条件について

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 車速は約 50 km/h 以上で設定できます。

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 40km/h 以下になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 40km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

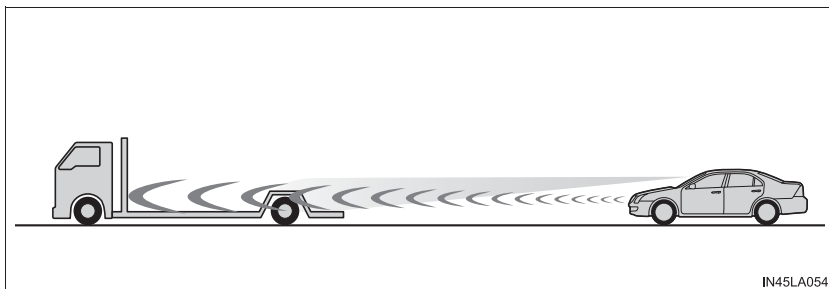
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

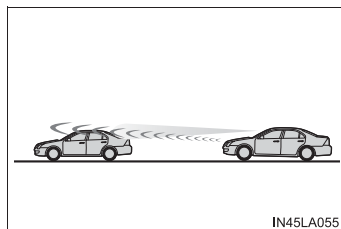
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 207）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

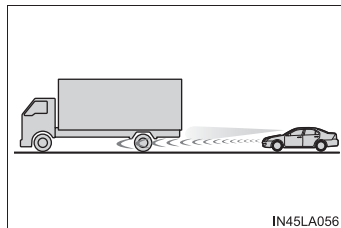


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

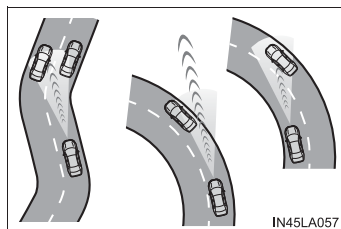


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

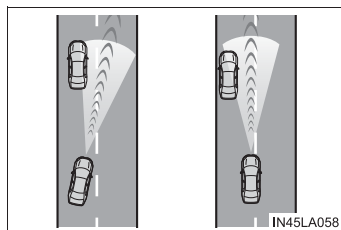
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合

インテリジェントパーキングアシスト★

機能概要

車両後方の映像に後退操作の参考になるガイド線を合成して表示することにより、後退駐車を補助するシステムです。インテリジェントパーキングアシストでは、ハンドルを自動で操作することにより、画面上で設定した目標駐車位置付近への後退駐車を補助します。(自動で後退、および速度調整は行いません)

- インテリジェントパーキングアシストは自動駐車装置ではありません。後退駐車を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近へアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置にアシストできない場合があります。

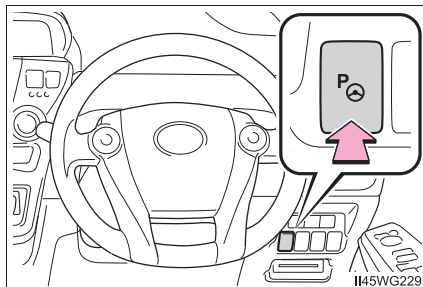
警告

- 後退するときは、必ず後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。(→ P. 253)
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPAスイッチを押してシステムを解除してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。(→ P. 254, 255)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

IPA（インテリジェントパーキングアシスト）スイッチ

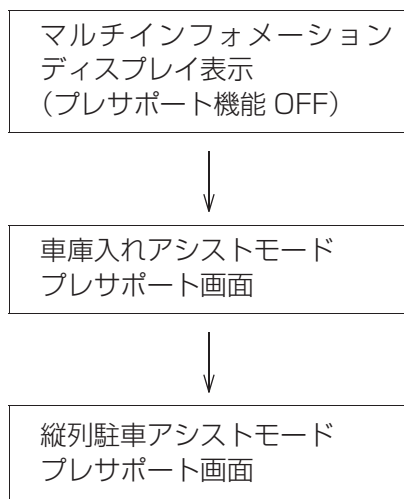
アシストの開始／キャンセルとプレサポート機能（→ P. 229, 242）のアシストモード（車庫入れ／縦列駐車）を切りかえます。



■ 画面の切りかえ

パワースイッチが ON モード、シフトポジションが P、R 以外で車速が約 15km/h 以下のとき、スイッチを押すごとに、次のように画面が切り替わります。

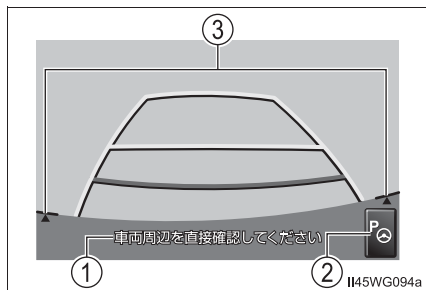
プレサポート機能が使用できないときは、「 “ ピピッ ” 」という音が出力されます。



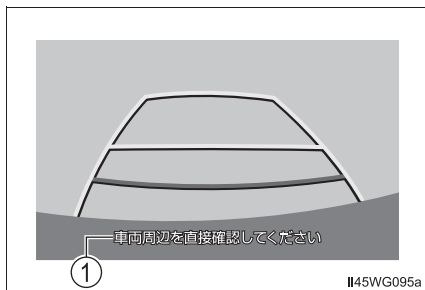
ガイド画面について

パワースイッチが ON モードのとき、シフトポジションを R にするとマルチインフォメーションディスプレイにガイド画面が表示されます。

▶ アシストモード ON 画面



▶ アシストモード OFF 画面



- ① 注意メッセージ
画面が表示されてからしばらくのあいだ点滅します。
- ② IPA スイッチアイコン
アシストモードの ON / OFF を示すアイコンです。
表示： アシストモード ON
非表示：アシストモード OFF
- ③ カメラ方向確認線
カメラの向きを確認する線です。

バックドアが開いているときは、ガイド線、IPA スイッチアイコン、カメラ方向確認線は表示されません。表示させるにはバックドアを閉じてください。

 知識

■ アシストモード ON のときのアイコン表示について



： IPAスイッチを押すとアシストを開始します。プレサポートを使用していない場合の車庫入れアシストモードで表示されます。
(→P. 229)



： IPAスイッチを押すとアシストをキャンセルします。プレサポートを使用している場合のアシスト開始前、または、アシスト中に表示されます。



： IPAスイッチを押すことができない場合にトーンダウン表示されます。
・ 青枠が表示されていない場合
・ ポップアップメッセージが表示されている場合

 注意

画面に映っているバンパーの端がカメラ方向確認線と一致していないときは、カメラの向きがずれています。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

システムの解除

シフトポジションを R 以外にすると、ハンドルの自動操作は解除されます。

- 車庫入れアシストモード、縦列駐車アシストモードでは、シフトポジションが R でも、次のときにハンドルの自動操作は解除されます。
 - ・ 画面が切りかわったとき
 - ・ ブレーキペダルから足を離したときに車両前方にずり下がったり、停車したりしているとき
 - ・ タイヤの摩耗や空気圧の低下などにより、正常にアシストできないとき
 - ・ システムの温度保護機能が働いたとき
 - ・ 目標駐車位置設定画面で目標駐車位置を確定せずに後退したとき
 - ・ システムが異常のとき
 - ・ ハンドルを操作したとき
 - ・ アクセルを踏みすぎたとき
 - ・ 後退速度が速すぎるとき

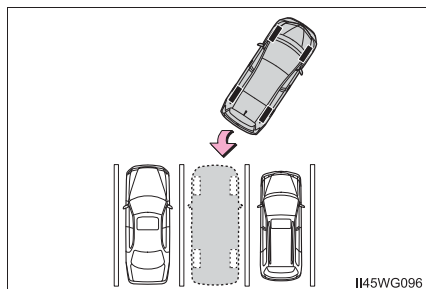


- ・ が表示されているときに IPA スイッチを押したとき
- ・ パーキングブレーキをかけたとき
- 後退中にシステムが解除されたときは、ハンドルをしっかりとって、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。すでにシステムは解除されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

並列駐車（車庫入れ）時に使用する

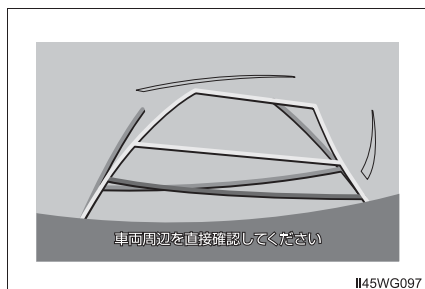
車庫入れなど並列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

車庫入れアシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。

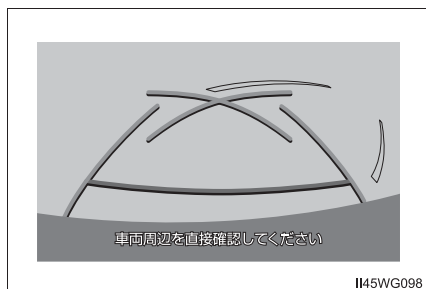


▶ 進路表示モード（→ P. 223）

▶ 駐車ガイド線表示モード（→ P. 227）



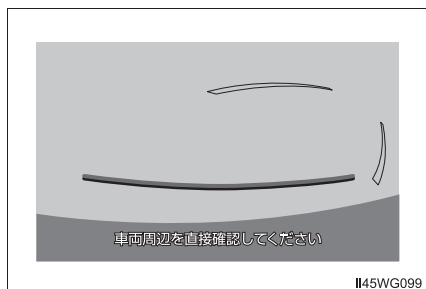
ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。



ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路表示モードや車庫入れアシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

▶ 距離目安線表示モード

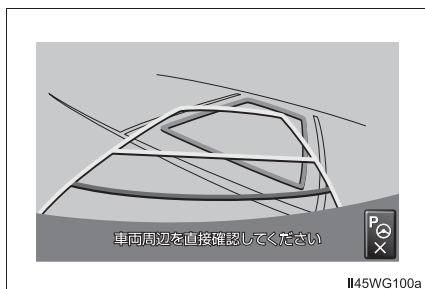


距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

■ モードの切りかえ方

→ P. 221

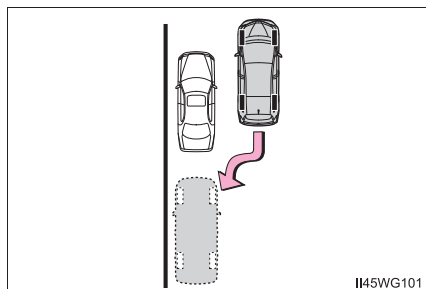
▶ 車庫入れアシストモード
(→ P. 229)

画面上で確認した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、車庫入れ駐車を補助するモードです。

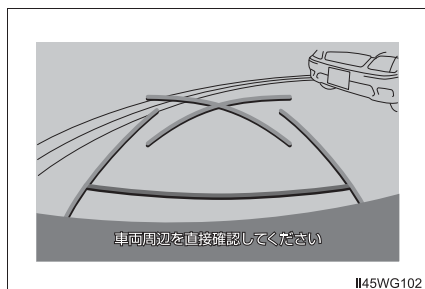
縦列駐車時に使用する

縦列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

縦列駐車アシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。



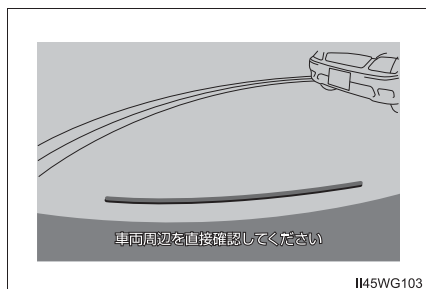
- ▶ 駐車ガイド線表示モード
(→ P. 241)



ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（縦列駐車アシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

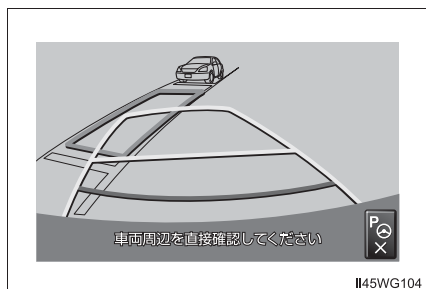
- ▶ 距離目安線表示モード



距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

▶ 縦列駐車アシストモード
(→ P. 242)



画面上で設定した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、縦列駐車を補助するモードです。

■ モードの切りかえ方

→ P. 221

モードの切りかえ方

■ アシストモードを ON / OFF するには

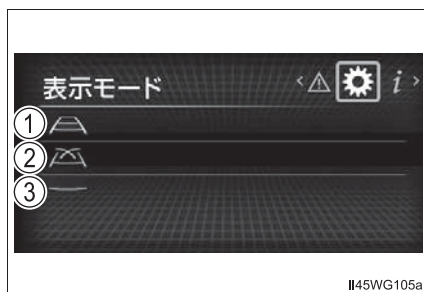
- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択し、
⊙ スイッチを押す
- 2 ▲ または ▼ を押して “IPA” を選択し、⊙ スイッチを押す
- 3 ▲ または ▼ を押して “アシストモード” を選択し、⊙ スイッチを押す
- 4 ▲ または ▼ を押して “ON” / “OFF” を選択し、⊙ スイッチを押す
アシストモード ON: シフトポジションを R にしたときにイーザーセット機能が使用できます。(→ P. 229)

アシストモード OFF: シフトポジションを R にしたときにイーザーセット機能が使用できません。

■ 進路表示モード、駐車ガイド線表示モードと距離目安線表示モードへの切りかえ

- 1 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して  を選択し、
⊙ スイッチを押す
- 2 ▲ または ▼ を押して “IPA” を選択し、⊙ スイッチを押す
- 3 ▲ または ▼ を押して “表示モード” を選択し、⊙ スイッチを押す
- 4 ▲ または ▼ を押してモードを選択し、⊙ スイッチを押す

- ① 進路表示モード
- ② 駐車ガイド線表示モード
- ③ 距離目安線表示モード

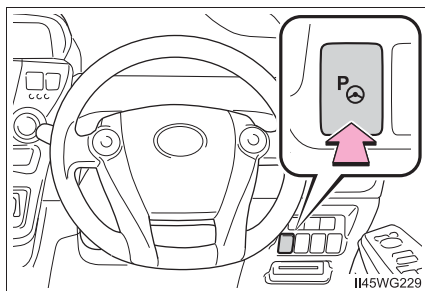


■ プレサポート機能の車庫入れアシストモードと縦列駐車アシストモードへの切りかえ

IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。

(→ P. 213)

縦列駐車のアシストモードは、プレサポート機能を利用したときのみ使用できます。



並列駐車のかた（進路表示モード）

■ 画面の見方

アシストモードの ON / OFF に関係なく、使用することができます。

① 予想進路線（黄色）

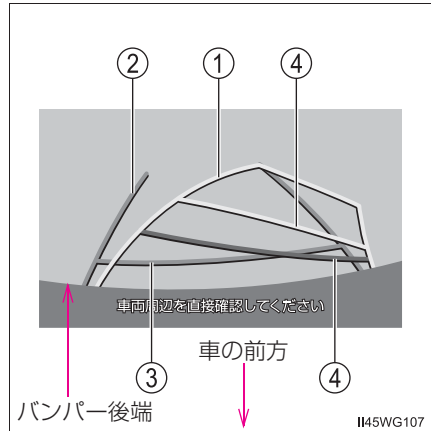
車が後退していく進路の目安を示します。

ハンドル操作と連動します。

② 車幅延長線（青色）

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。

- ・ 実際の車幅より広く表示しています。
- ・ ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときは、予想進路線と重なります。



③ 距離目安線（青色 約 0.5m）

車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。

- ・ 約 0.5m 先を示します。

④ 距離目安線（赤色 約 0.5m）（黄色 約 1m）

車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。

- ・ ハンドル操作と連動します。予想進路線とともに動きます。
- ・ それぞれの中心位置で、約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。
- ・ ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっていないときは誤差が生じます。

上の画面では、距離目安線が示す実際の距離（赤色：約 0.5m 先、黄色：約 1m 先）より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

⚠ 警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときに車幅延長線と予想進路線がずれる場合、初期化が正しく行われていないことが考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

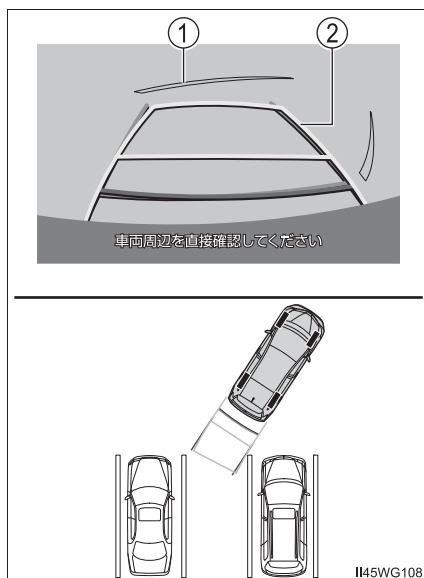
以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 進路表示モードにする (→ P. 221)

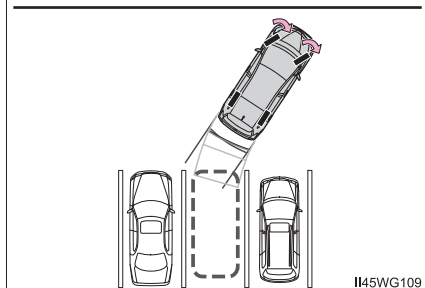
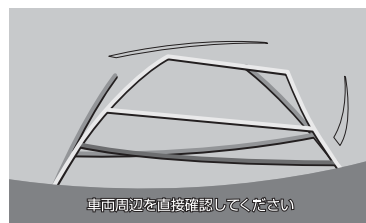
2 シフトポジションを R にする

① 駐車場の区画線

② 予想進路線

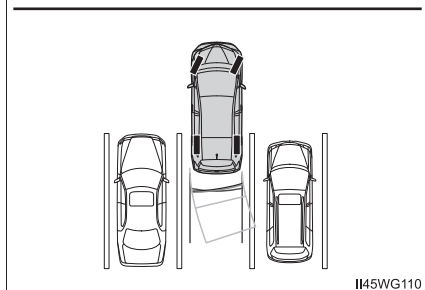
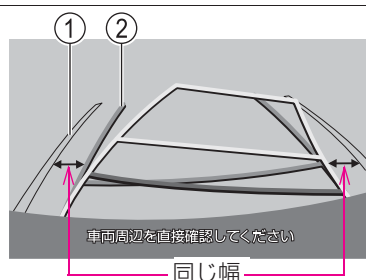


- 3 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



- 4 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線と駐車スペース左右の区画線との間隔が、車の近くの位置で同じくらいになるようにハンドルを操作する

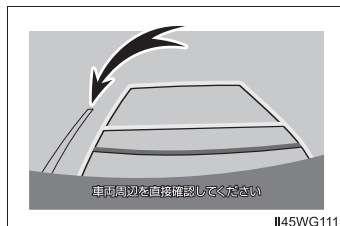
- ① 駐車場の区画線
- ② 車幅延長線



- 5 車幅延長線と駐車場の区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にして、車が駐車スペースに全部入るまで、ゆっくり後退する
- 6 適切な位置で停止し、駐車を終える

知識

- 駐車するときは、画面の映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず直接確認してください。
- 距離目安線と駐車スペースの後端が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。
- 駐車場の区画線が片側しかないときは、車幅延長線と駐車スペースの左端（右端）が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。

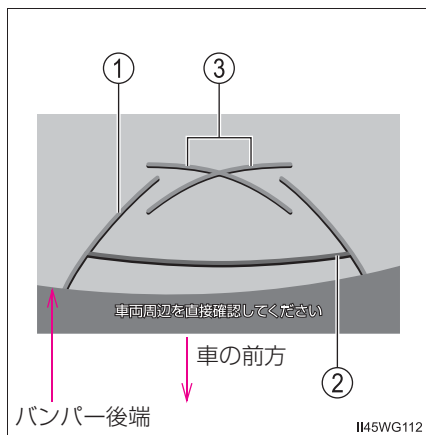


並列駐車のかた（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方

アシストモードの ON / OFF に関係なく、使用することができます。

- ① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの
進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示して
います。
- ② 距離目安線（青色 約 0.5m）
車の後方（バンパー後端から）
の距離を示します。
・ 約 0.5m 先を示します。
- ③ 駐車ガイド線（青色）
ハンドルをいっぱいまでまわ
して後退（もっとも小まわり）
したときの進路の目安を示し
ます。
・ 駐車時にハンドルを操作する位置の目安となります。



⚠ 警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

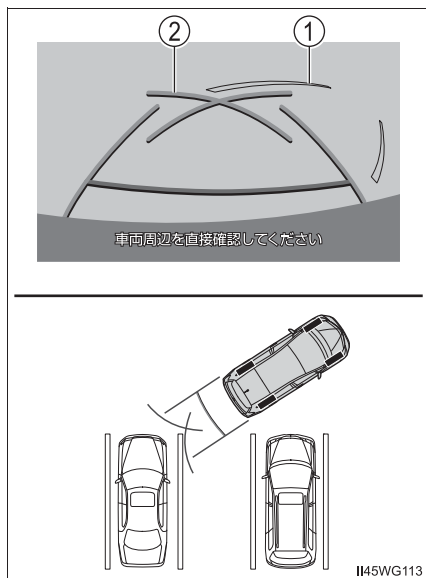
1 駐車ガイド線表示モードにする (→ P. 221)

2 シフトポジションを R にする

3 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる

① 駐車場の区画線

② 駐車ガイド線



4 ハンドルを右いっぱいにもわして、ゆっくり後退する

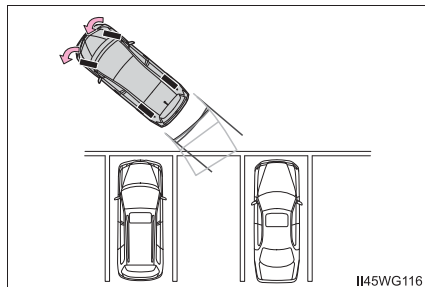
5 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする。画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

車庫入れアシストモード

■ イージーセット機能

駐車スペースに駐車枠（白線）がある場合、イージーセット機能を使用して目標駐車位置の調整をすることなく、駐車を開始できます。

- シフトポジションを R にしたときに駐車枠（白線）を検出できた場合に使用できます。
- 駐車枠（白線）を検出できなかった場合、駐車したい方向にハンドルを切ること、その方向にある駐車枠（白線）を検出し目標駐車位置を設定することができます。



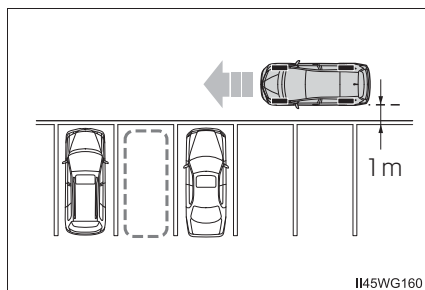
■ イージーセット機能を使用して駐車する

操作手順はコツをつかむまでの一例です。

ハンドルの操作方法と操作タイミングは、駐車場の環境に合わせて変更してください

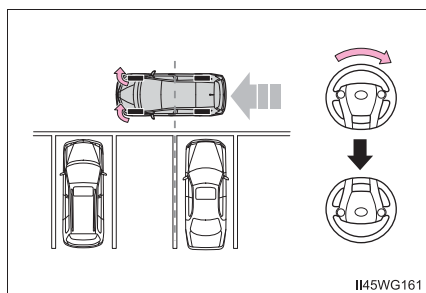
1 アシストモードを ON にする。(→ P. 221)

2 駐車スペースに垂直で、駐車車両と 1m 程度離れた位置に車両を移動させる

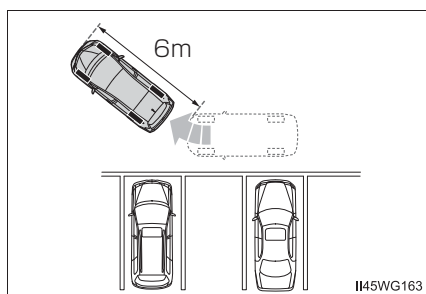


- 3 駐車スペース手前の白線が真横に見える位置まで車両を移動させ停止し、停止した位置でハンドルを 180° （半回転）きる

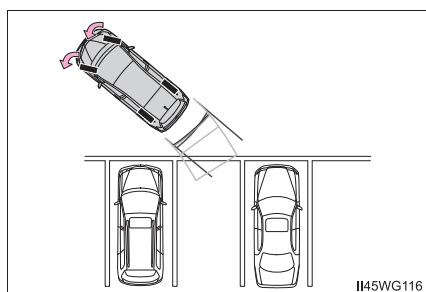
- 1m 程度離して駐車スペースに寄せ、上記のタイミングでハンドルを切ると駐車位置を特定しやすくなります。



- 4 駐車スペースに車両をいれるように車両を移動させ、停車する（停止位置から 6m 程度前進し停車する）

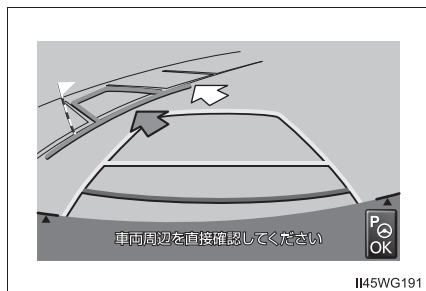
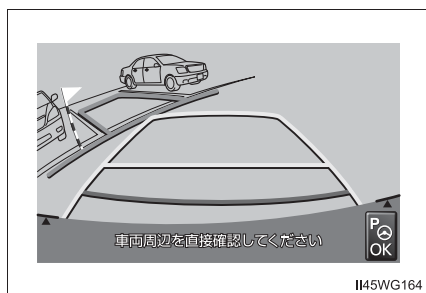


- 5 シフトポジションを R にする
 イージーセット機能により、駐車位置を特定できなかった場合は駐車したい方向にハンドルをきります。駐車位置を特定できれば、次の画面に切りかわります。



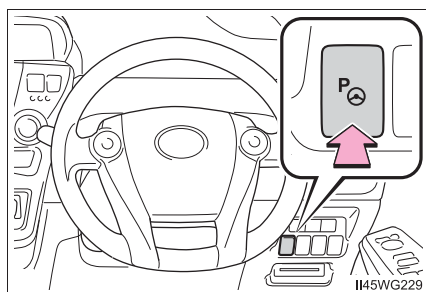
- 6 青枠が駐車したい場所に合っていることを確認する

- 案内できるスペースが他にあった場合は、次の画面が表示されます。このときハンドルセレクト機能が使用できます。(→ P. 239)



- 7 IPA スイッチを押してアシストを開始します。

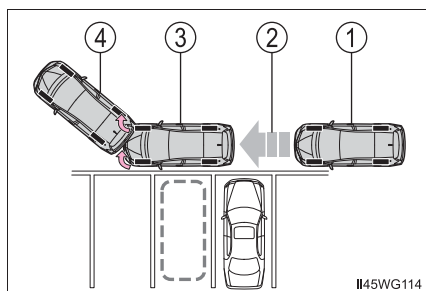
- IPA スイッチを押したあとの手順は「プレサポート機能を使用して駐車する」の手順7以降と同様です。(→ P. 233)



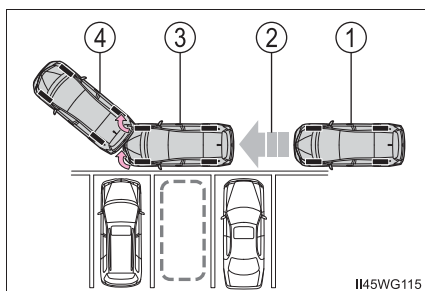
■ プレサポート機能

駐車スペースの手前側に駐車車両がある場合、プレサポート機能を使用することができます。この機能は、駐車スペースを検出したらハンドルをきるタイミングと後退開始位置に着いたことを音により案内し、アシスト可能な位置へ車両を誘導します。検出したスペースが狭い場合は案内されません。

▶ 駐車車両の奥に駐車する場合



▶ 駐車車両 2 台のあいだに駐車する場合



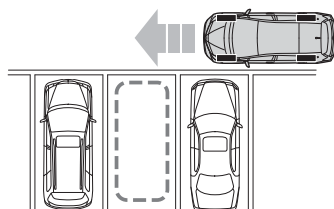
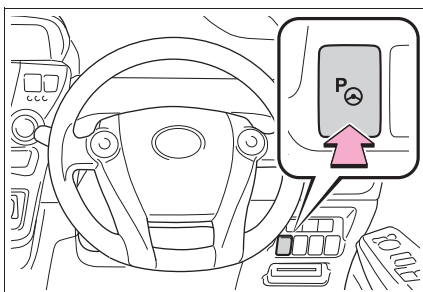
- ① IPA スイッチを 1 回押す
- ② 駐車スペースを検出
- ③ ハンドルをきるタイミングを音により案内
- ④ 後退開始位置に着いたことを音により案内

■ プレサポート機能を使用して駐車する

- 1 車速が約 15km/h 以下で、駐車スペースの手前で IPA スイッチを 1 回押し、画面が切りかわったことを確認する

- IPA スイッチは、押すごとにモードが切りかわります。
(→ P. 213)

- シフトポジションが P、R、または車速が約 15km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても画面は切りかわらず、「“ピピッ”」という音が出力されます。(シフトポジションが R のときは出力されません)



II45WG230

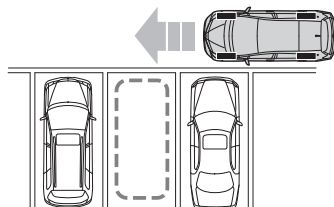
車庫入れモード



II45WG118

- 2 駐車スペースに垂直で、駐車車両にできるだけ接近した位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

- 「“ボン”」という音が出力されたらすぐにハンドルをきれるよう、できるだけゆっくり前進してください。

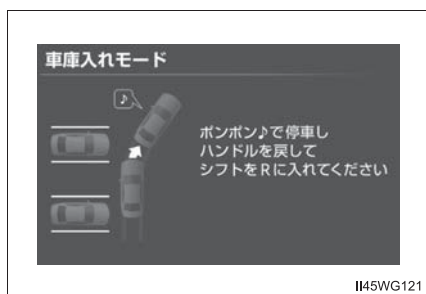
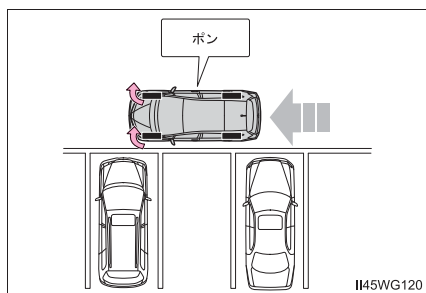


II45WG119

- 案内機能を中止する場合は、IPA スイッチを 2 回押して、プレサポート機能を OFF にしてください。

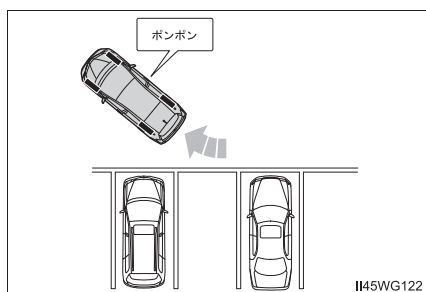
- 3 「“ポン”」という音が出力されたら、ハンドルを半～1回転きって前進する
 駐車スペースの中央がほぼ真横に見える位置で「“ポン”」という音が出力されます。

- 「“ポン”」と音が鳴ってハンドルを操作するか、しばらくすると画面が切りかわります。



- 4 「“ボンボン”」という音が出力されたら停車し、ハンドルをまっすぐにする。
 「“ボンボン”」という音が出力されたらすぐに停車できるよう、ハンドルを切ったあととはできるだけゆっくり走行してください。

- ハンドルをきったあと、後退開始位置に着かなかった場合、「“ボンボン”」という音は出力されません。
- 「“ボンボン”」という音が出力される前に停車しシフトポジションをRにした場合でも青枠が表示されることがあります。その場合、次の手順6に従って操作してください。

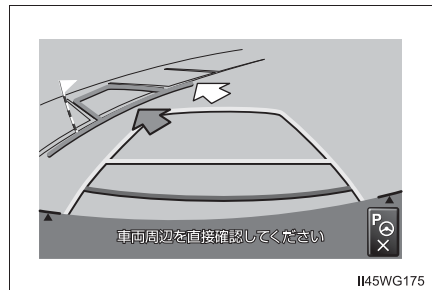
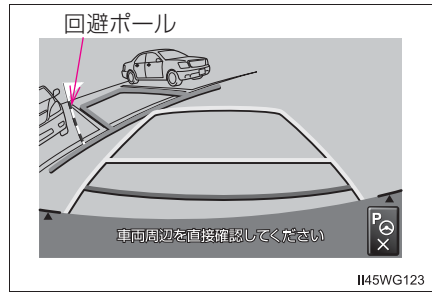


- 5 シフトポジションをRにする

- 6 青枠が駐車したい場所に合っていることを確認する

ブレーキペダルから足を離して後退するとアシストを開始します。

- アシストを使用しない場合は、IPA スイッチを押してアシストを中止してください。
- 案内できるスペースが他にあった場合は、次の画面が表示されます。このときハンドルセレクト機能が使用できます。(→ P. 239)



- 7 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退する

- アシスト開始時、ブザー「“ピー”」が1回鳴ります。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。
- 後退速度が速すぎると、警告音「“ピーピー”」が鳴ります。そのまま後退を続けるとシステムが解除されます。警告音が鳴らないような速度で後退してください。

- 8 車両がほぼ目標駐車位置に入ったら、ブザー「“ピー”」が1回鳴り、車庫入れアシストモードが終了する

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で鳴ります。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 距離目安線(→ P. 227)を参考に、必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

 知識

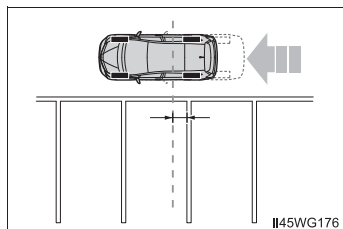
■ イージーセット機能の作動条件

- 縦列駐車をしているときは、イージーセット機能は作動しません。
- アシストモードを使用して駐車を完了させたときは、イージーセット機能は作動しません。
- IPAスイッチを押してアシストを中止したときは、イージーセット機能は作動しません。
- 次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができず、青枠が表示されない場合があります。
 - ・ 白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロック等でつくられている場合）
 - ・ 白線がかすれや汚れ等によってはっきり見えないとき
 - ・ 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に黄色線等）
 - ・ 路面の駐車枠線が黄色など白以外の色のとき
 - ・ 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ・ 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
 - ・ 積雪や融雪剤があるとき
 - ・ 路面補修痕、路面表示等やポール等の障害物があるとき
 - ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・ カメラにお湯や水をかけたとき等、レンズが曇っているとき
 - ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- 次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
 - ・ 路面補修痕、路面表示等やポール等の障害物があるとき
 - ・ 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・ 勾配がついている駐車場
 - ・ 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップ等）
 - ・ 白線がかすれや汚れ等によってはっきり見えないとき

■車両向かい側に車両を移動するだけのスペースがないとき（イージーセット機能）

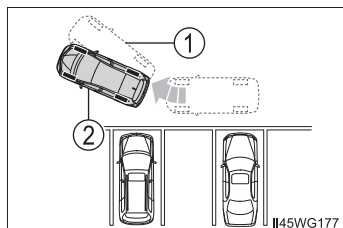
操作方法を次のように変更することで案内することができます。

- 1 停止位置を手前の白線より奥へ移動する
（白線から中央くらい）



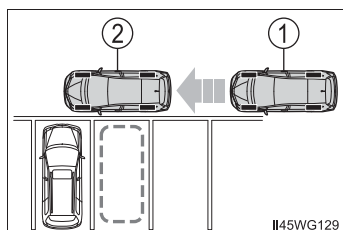
- 2 ハンドルを浅めにきる（90° から 180° ）

- ① ハンドルを 180° きったとき
- ② ハンドルを浅くきったとき



■プレサポート機能の作動条件

- プレサポート機能を正しく動作させるために、できるだけゆっくり（すぐに停車できる速度で）走行してください。
- 駐車車両が 1 台しかない場合、その手前の駐車スペースではプレサポート機能を使用することができません。
- ① IPA スイッチを 1 回押す
- ② 案内音は出力されない



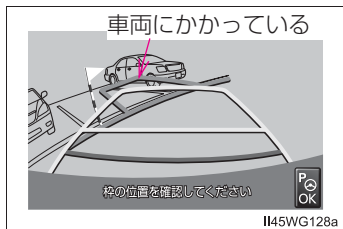
- シフトポジションが P、R、または車速が約 15km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントバンパー両側にあるセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 257）は、案内されません。
- 車速が約 15km/h 以上になる、またはハンドル右側の IPA スイッチによりプレサポート機能を OFF にするまで、駐車スペースの探索と案内が継続されます。

⚠ 警告

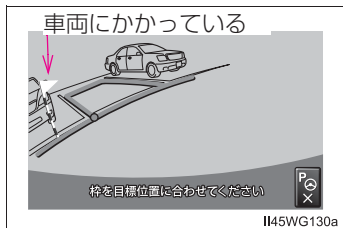
回避ポールは目安です。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら、慎重に後退してください。

注意

- 青枠や回避ポールが駐車車両にかかっている等、目標駐車位置を誤認識している場合は、アシストモードを使用しないでください。



- 青枠の中や自車と駐車スペースとのあいだに障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。青枠の中や自車と駐車スペースのあいだに障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため車庫入れアシストモードは使用しないでください。



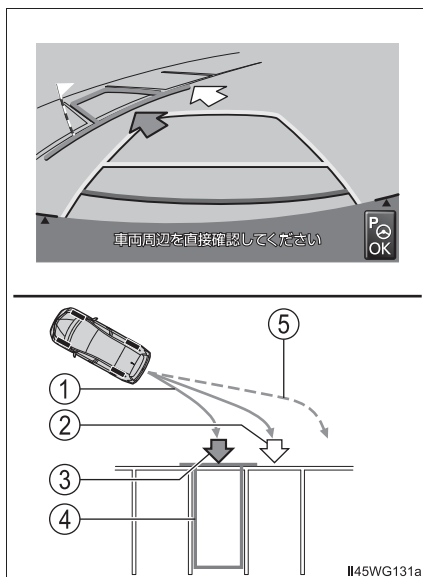
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れアシストモードは使用しないでください。

ハンドルセレクト機能（車庫入れのみ）

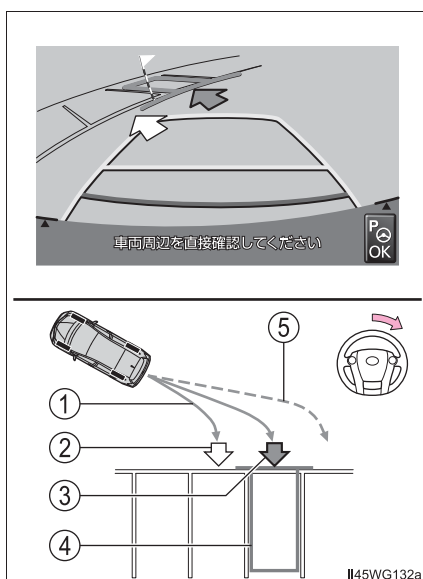
複数の駐車区画線から目標を選択・変更することができます。

ハンドル操作を浅くきる、またはまっすぐ進むと候補が表示されやすくなります。

- 1 イージーセット機能を使用し、シフトポジションを R にしたときに枠を認識する
- 2 目標設定時にその駐車枠の候補を表示する
 - ① 支援可能
 - ② 候補位置
 - ③ 目標位置
 - ④ 目標駐車枠
 - ⑤ 支援不可能



- 3 ハンドルを変更したい枠の方向に軽く力を加えることで駐車目標を変更する（この画面のように変更する場合は右に力を加えます）
 - ① 支援可能
 - ② 候補位置
 - ③ 目標位置
 - ④ 目標駐車枠
 - ⑤ 支援不可能



▶ イージーセット機能を使用する場合

4 IPA スイッチを押すことで目標を確定し、アシストを開始します。

▶ プレサポート機能を使用する場合

4 後退することで目標を確定し、アシストを開始します。



知識

■ 駐車枠の候補位置について

ハンドルセレクト機能は、駐車区画線が複数あっても、停車した車の位置とハンドルの角度によっては、候補を表示できない場合があります。次の操作を行うことで候補を表示できる場合があります。

- ハンドルを左右に操作する
- 車の位置を変更する

縦列駐車（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方

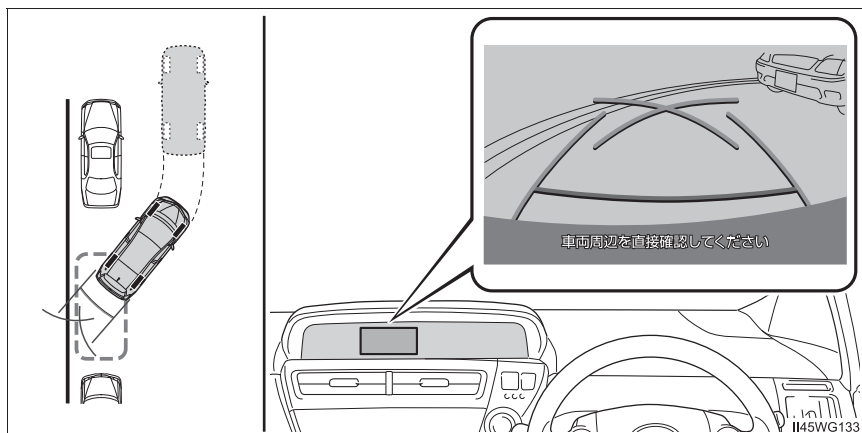
→ P. 219

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以降の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

- 1 駐車ガイド線表示モードにする（→ P. 221）
- 2 シフトポジションを R にする
- 3 駐車ガイド線が駐車したい位置の左端に合うまで後退したら止まる



- 4 ハンドルを右いっぱいにもわして、ゆっくり後退する
- 5 車が路肩と平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする
画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

⚠ 注意

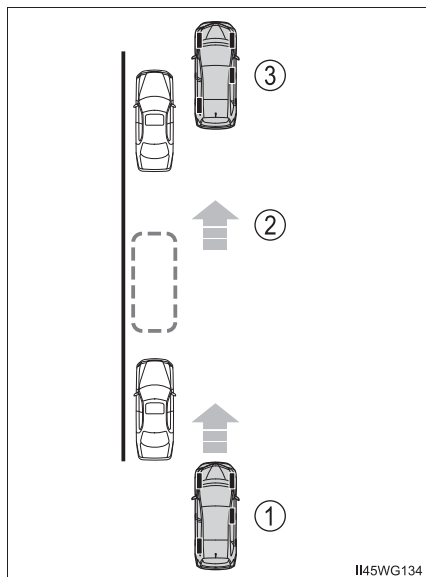
車の左前端を前方に駐車している車にぶつけないよう注意して、ゆっくり後退してください。

縦列駐車アシストモード

■ プレサポート機能について

駐車車両 2 台のあいだに駐車スペースがある場合、プレサポート機能を使用することができます。この機能は、駐車スペースを検出したら後退開始位置に着いたことを音により案内し、アシスト可能な位置へ車両を誘導します。検出したスペースが狭い場合は案内されません。

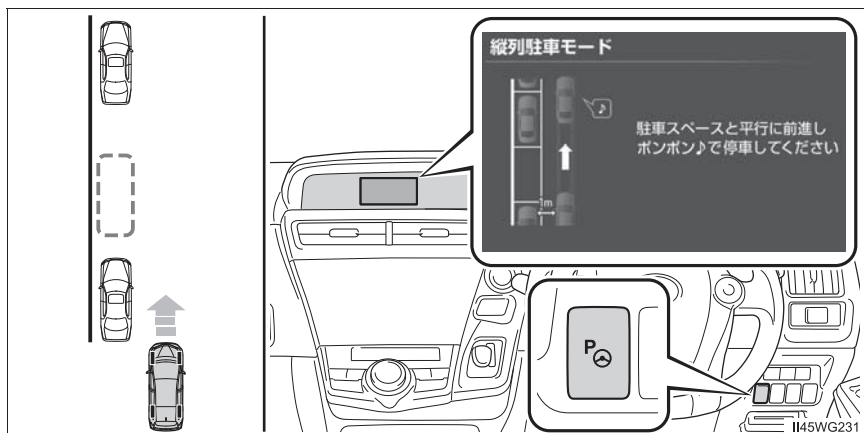
- ① IPA スイッチを 2 回押す
- ② 駐車スペースを検出
- ③ 後退開始位置に着いたことを音により案内



II45WG134

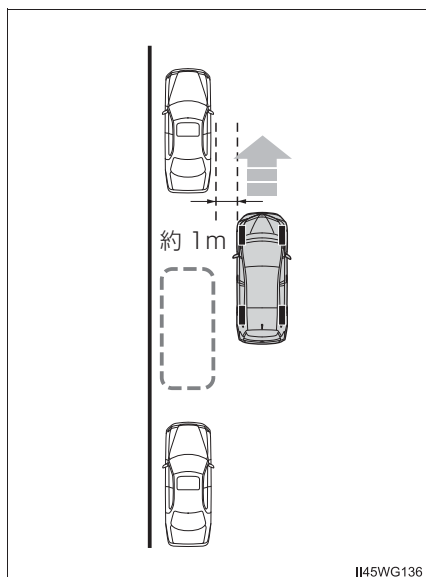
■ 駐車する

- 1 車速が約 15km/h 以下で、駐車スペースの手前で IPA スイッチを 2 回押し、画面が切りかわったことを確認する
 - IPA スイッチは、押すごとにモードが切りかわります (→ P. 213)
 - シフトポジションが P、R、または車速が約 15km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても画面は切りかわらず、「“ピピッ”」という音が発生されます。(シフトポジションが R のときは出力されません)



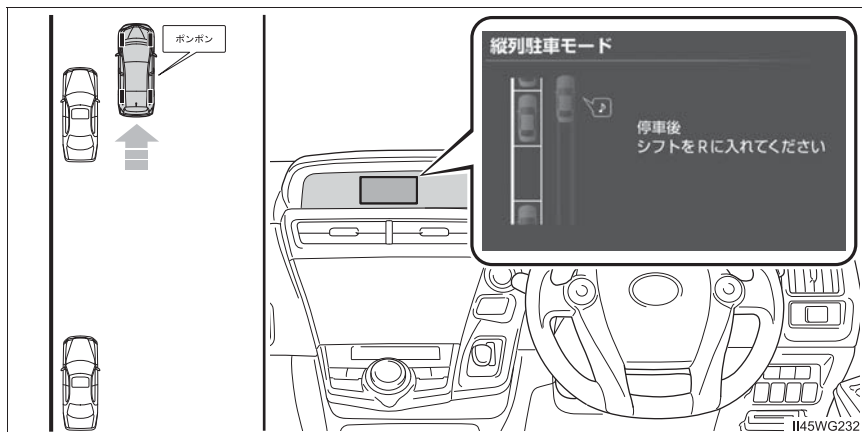
- 2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約 1m の位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

案内機能中止する場合は、IPA スイッチを 1 回押し、プレサポート機能を OFF にしてください。



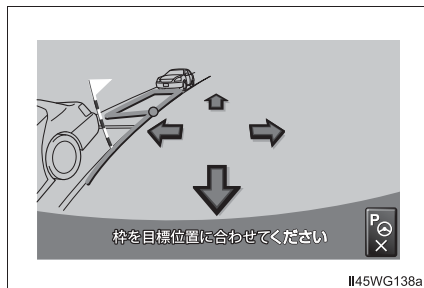
3 「“ポンポン”」という音出力されたら停車する

- 前方の駐車車両の前端がほぼ真横に見える位置で「“ポンポン”」という音出力されます。駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。
- 「“ポンポン”」という音出力されたらすぐに停車できるよう、できるだけゆっくり前進してください。



4 シフトポジションを R にする

枠が赤く表示されているときは、その位置へアシストモードを使用して駐車することはできません。「アシストモードで赤枠が表示されたときは」(→ P. 252)を参照してください。



- 5 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退する
- アシスト開始時、ブザーが 1 回鳴ります。
 - アシストを中止するには IPA スイッチを押します。
 - 後退速度が速すぎると、警告音「“ピピピィ”」が出力されます。そのまま後退を続けるとシステムが解除されます。警告音が鳴らないような速度で後退してください。
 - 画面に表示されている青枠は自車の大きさとほぼ同じサイズで表示されます。(目標駐車位置設定時に表示される青枠は、一般的な路面の駐車枠の大きさで表示されます)

知識

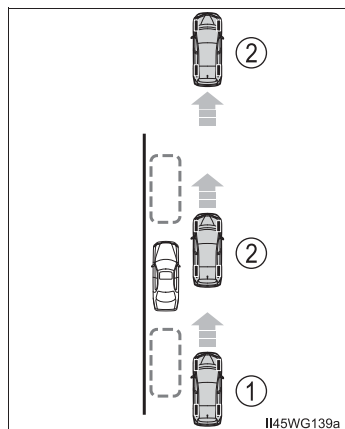
■ プレサポート機能の作動条件

- プレサポート機能を正しく動作させるために、できるだけゆっくり（すぐに停車できる速度で）走行してください。
- 駐車車両が 1 台しかない場合、その手前または奥の駐車スペースではプレサポート機能を使用することができません。

① IPA スイッチを 2 回押す

② 案内音は出力されない

この場合、シフトポジションを R に入れて、青枠をステアリングスイッチで調整します。(→ P. 247)



- シフトポジションが P、R、または车速が約 15km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントバンパー両側にあるセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合 (→ P. 257) は、案内されません。
- 车速が約 15km/h 以上になる、またはハンドル右側の IPA スイッチによりプレサポート機能を OFF にするまで、駐車スペースの案内が継続されます。

■ 駐車位置の変更について

画像の歪みのため、青枠が路面の駐車枠に一致しない場合があります。このような場合には、回避ポールと青の延長線を用いて目標駐車位置を設定してください。(→ P. 248)

⚠ 警告

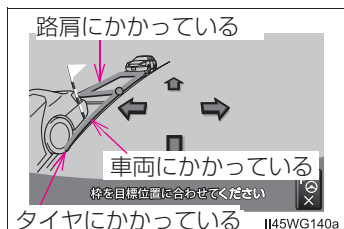
回避ポールは目安です。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら、慎重に後退してください。

⚠ 注意

- 青枠の中や自車と駐車スペースとのあいだに障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。

青枠の中や自車と駐車スペースのあいだに障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため縦列駐車アシストモードは使用しないでください。

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。

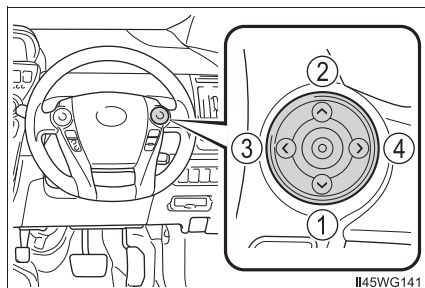


青枠の合わせかた（縦列駐車のみ）

ステアリングスイッチを利用して、目標駐車位置（青枠）を移動することができます。

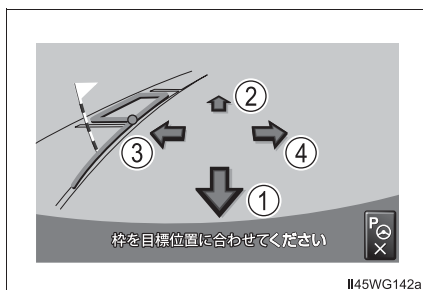
横方向を手前から先に合わせると、合わせやすくなります。

▶ ステアリングスイッチ



II45WG141

▶ 青枠の動き

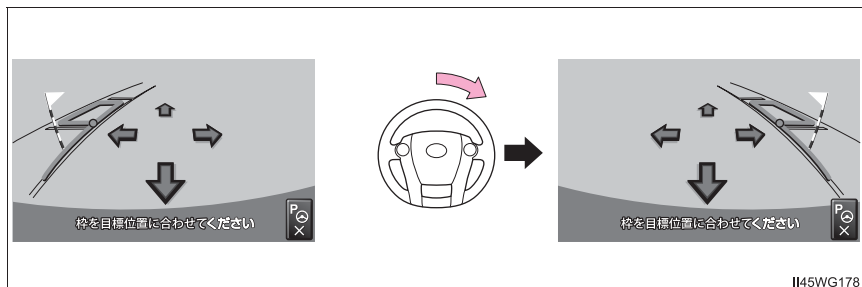


II45WG142a

- ① 下
- ② 上
- ③ 左
- ④ 右

■ 駐車位置の左右を切りかえるとき

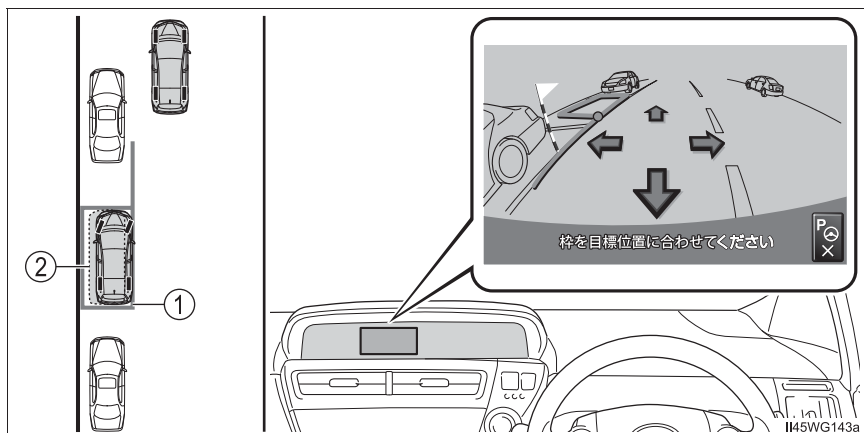
変更したい方向へ向けて、ハンドルに軽く力を加えることで切りかえることができます。（図のように変更する場合は、右に力を加えます）



II45WG178

■ 路面に傾斜がついているとき

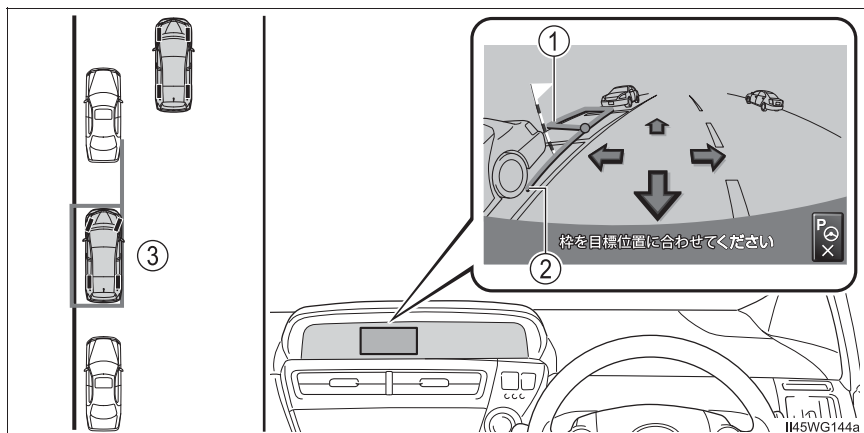
路面に傾斜がついているときは、アシストされる位置が画面で設定した目標駐車位置よりも道路中央寄り（路肩から離れた位置）になります。



① アシストされる位置

② 目標駐車位置

このような場合は、目標駐車位置を設定する際、回避ポールを駐車車両の後端、青の延長線を駐車車両の後輪の下端に合わせると、駐車車両の右側と自車の右側がほぼ並んだ位置にアシストされます。（道路の反対側に縦列駐車するときは左右逆になります）



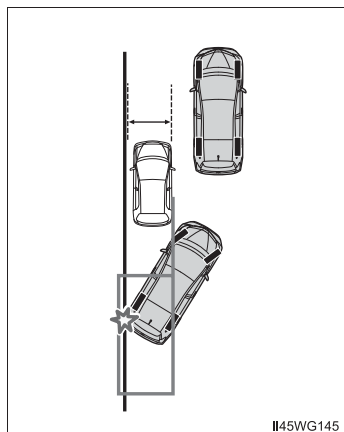
① 車両後端に合わせる

② 車両後輪の下端に合わせる

③ 前方駐車車両の右側とほぼ並んだ位置

 注意

駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを解除してください。



こんなメッセージが表示されたときは

■ メッセージと警告音

アシストモードで駐車位置を設定中のときやハンドル制御中に次のメッセージが表示されたときは、表示と同時に警告音が出力されます。(メッセージが表示された原因によっては、出力されないこともあります)

メッセージ／警告音	原因	処置
「IPA システムチェック販売店で点検を受けて下さい」／「“ピピッ”」	システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。	ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
「この環境では使用できません」／「“ピピッ”」	システム作動中だけに表示されるときは、タイヤの摩耗、空気圧の低下のおそれがあります。	タイヤの摩耗、空気圧を確認してください。
	常に表示されるときは、故障のおそれがあります。	パワースイッチを一度OFFにしてから、再度ハイブリッドシステムを始動してください。それでも表示されるときは、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。
「パーキングブレーキが解除されていません」／「“ピピッ”」	パーキングブレーキがかかっている	パーキングブレーキを解除してください。
「速度が速すぎます」／ 「“ピィピィ”」 「“ピピッ”」	後退速度が速い	ブレーキペダルを踏みながら、警告音が鳴らない速度で、ゆっくり後退してください。速度が速すぎると、システムが解除されます。
「ハンドルが操作されました」／「“ピピッ”」	アシストモード作動中にハンドルを操作した	システムが解除されますので、最初からやり直してください。
「アクセルを踏み過ぎました」／「“ピピッ”」	アシストモード作動中にアクセルを過剰に操作した	システムが解除されますので、最初からやり直してください。

メッセージ／警告音	原因	処置
「平坦な場所でご使用下さい」／「“ピピッ”」	坂道で前方向にすり下がった	このような環境では使用しないでください。
	ブレーキペダルから足を離しても停止している	

■ メッセージのみ

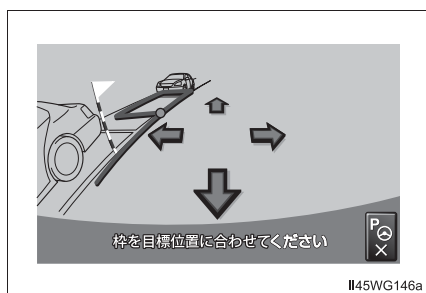
メッセージ	原因	処置
「IPA 現在使用できません」	パワーステアリング装置の一時的な過熱	パワースイッチを一度OFF にしてから、再度ハイブリッドシステムを始動し、しばらくしてからお使いください。
	ハイブリッドシステムが始動していない	ハイブリッドシステムを始動してください。
	関連システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。	ダイハツサービス工場での点検を受けてください。
	補機バッテリー脱着のときなどにシステムが初期化されていない	システムを初期化してください。(→ P. 262)
「システム初期化中」	補機バッテリー脱着のときなどにシステムが初期化されていない	システムを初期化してください。(→ P. 262)
「ハンドルに力が加わっています」	ハンドルを持っている力が強い	ハンドルを持っている力を抜いてください。
「ハンドルを左(右)に回して直進状態に戻して下さい」	ハンドルが直進状態でない	ハンドルを直進状態にしてください。
「駐車枠を認識できませんでした」	駐車枠が認識できていない	駐車スペースを検出する位置に移動して IPA スイッチを押してください。
「停止位置を大きく外れました」	後退開始位置から離れすぎている	再度プレサポート機能を利用して最初からやり直してください。

メッセージ	原因	処置
作動中に画面が黒くなった	無線の電波による影響を受けているか、システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。	無線のアンテナをカメラの近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースwitchを一度 OFF にしてから、再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。

アシストモードで赤枠が表示されたときは

次の条件によっては、枠が赤く表示されることがあります。

- シフトポジションを R にしたときの位置
- 前回アシストモードで駐車したときに設定した目標駐車位置



II45WG146a

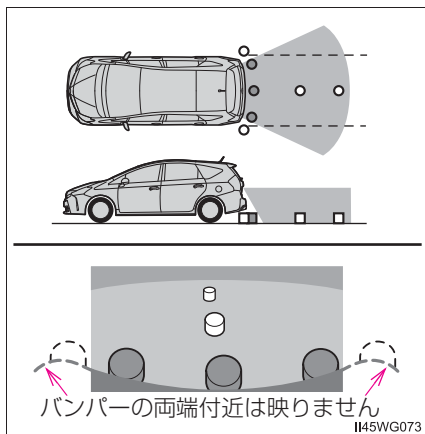
また、青枠が表示されていても、アシストモードを使用して駐車できない位置に枠を移動させると、枠が赤く表示されます。

使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

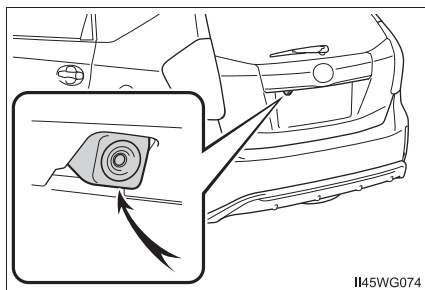
バンパー後端から車の後方（下図の範囲）が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラに映る範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- インテリジェントパーキングアシストのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。



■ カメラについて

ナンバープレートの上側に取り付けられています。



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像をみることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

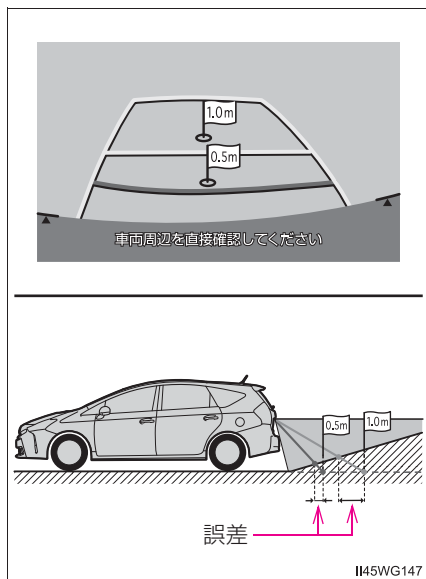
■ 画面と実際の路面との誤差について

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面で設定した目標駐車位置や、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂に障害物があった場合には、実際より遠くにあるように見えます。

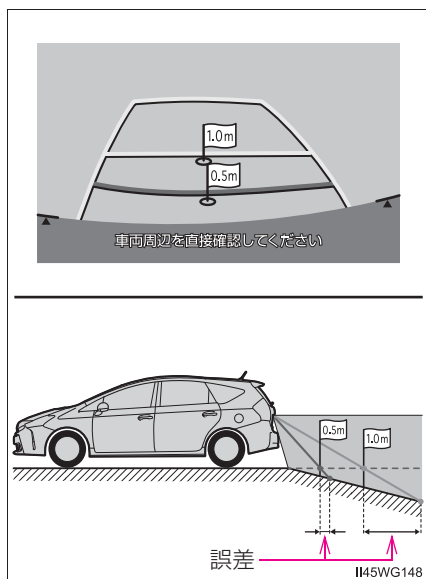
同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。



● 下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂に障害物があった場合には、実際より近くにあるように見えます。

同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。



■ 立体物が近くにあるとき

画面のガイドは平面物（道路など）を対象にしています。

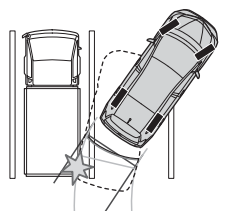
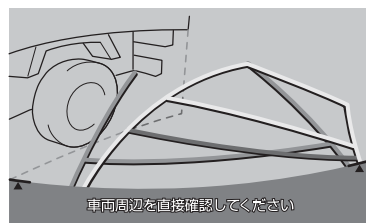
張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことに注意して、ぶつからないようにしてください。

● 予想進路線について

予想進路線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。

画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えますが、実際には荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

このように予想進路線が障害物の近くを通るときは、後方や周辺の安全を直接確認してください。

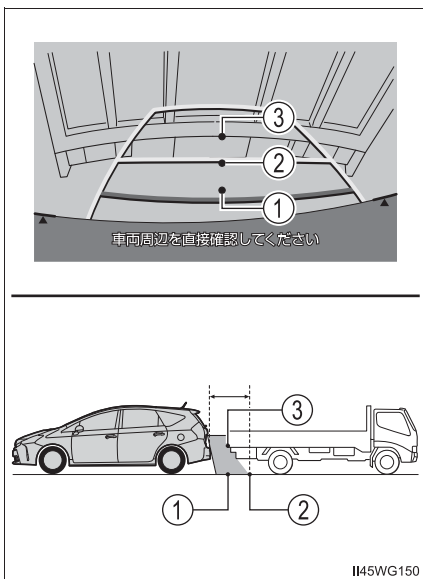


II45WG149

● 距離目安線について

距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。

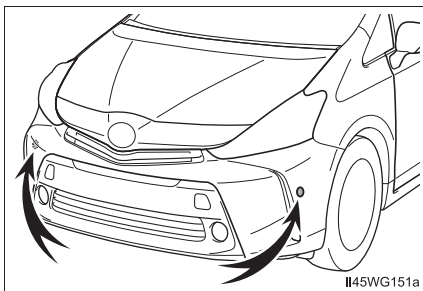
後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①、②、③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



II45WG150

■ センサーについて

フロントバンパーの両側にあるセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

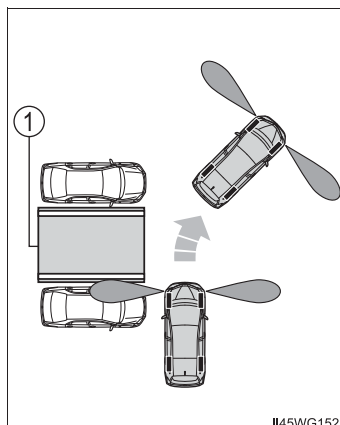


II45WG151a

知識

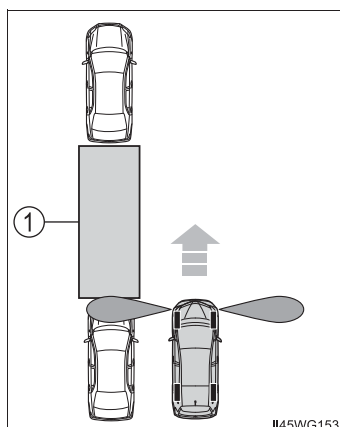
- 車庫入れアシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



- 縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

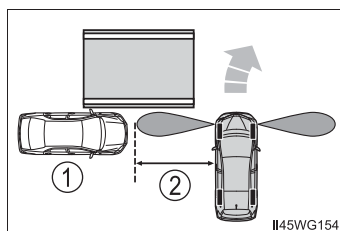


- 駐車車両が駐車スペースの奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

- センサーの感知範囲は、最大で約 1.6m です。

① 駐車車両

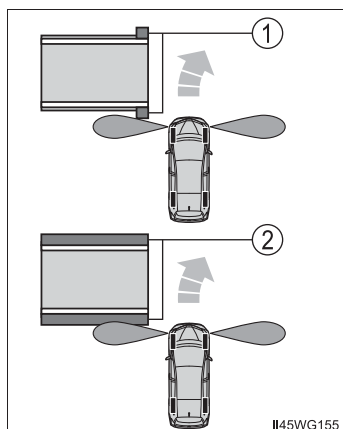
② 最大約 1.6m



- 柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

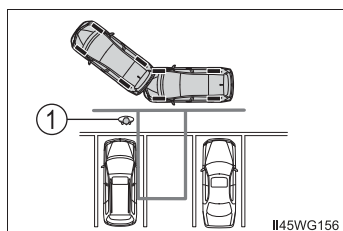
① 柱

② 壁



- 歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



 警告

- インテリジェントパーキングアシストを過信しないでください。
一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に後退してください。
- 画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。
画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 後退するときは、ブレーキペダルを踏んで速度調整しながら、ゆっくり後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを解除してください。
- 駐車区画のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お様がハンドルに近付かないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを解除してください。
- 駐車するときは、必ず駐車スペースに車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 駐車場以外の場所
 - ・ 砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
 - ・ 傾斜、段差のある平坦でない駐車場
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき
 - ・ 目標駐車位置（青枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
 - ・ 人や車両などの通行量の多いとき
 - ・ 駐車不可能な場所（車両が入らないほど狭い・崖など）
 - ・ カメラのレンズの汚れ、西日、影、雪などで画面が見にくいとき
 - ・ タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
 - ・ バックドアが完全に閉まっていないとき

 警告

- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。
また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
 - ・ タイヤが極端に磨耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・ 極端に重いものを積んでいるとき
 - ・ 車両の片側にだけ荷物等を積んで車両が傾いているとき
 - ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
 - ・ タイヤを縁石などに強くあてて、ホイールアライメントが正常でないとき上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- インテリジェントパーキングアシストが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・ カメラ部に有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・ カメラ部をぶつけたときや、画面に表示されるカメラ方向確認線（→P. 214）がバンパー端に一致していないときは、カメラの位置、取り付け角度がずれているおそれがあります。早めにダイハツサービス工場点検を受けてください。
 - ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

 警告

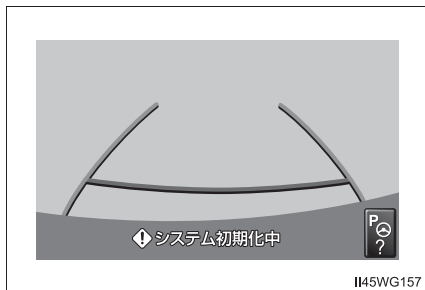
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - ・ 高压洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ センサーに氷、雪、泥などが付着したときは、画面に「ソナー汚れ センサを拭いて下さい」と表示されることがあります。センサー部に付いた異物を取り除いてください。
- 次の場合、装置が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
 - ・ センサーを手でふさいだとき
 - ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - ・ 炎天下や寒冷時
 - ・ 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
 - ・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
 - ・ 雨や水しぶきがかかったとき
 - ・ 市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に付けたとき
 - ・ センサーに駐車車両が近付きすぎたとき
 - ・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ センサーが感知する範囲には、アクセサリ用品などを取り付けしないでください。

システム初期化について

■ 初期化が必要なとき

次の場合には、必ず初期化作業を行ってください。

- バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき
- ステアリングセンサーを脱着したとき
- ステアリングセンサーの信号に異常が発生したとき
- シフトポジションをRにして、システム初期化中画面が表示されたとき（補機バッテリー能力の低下など）

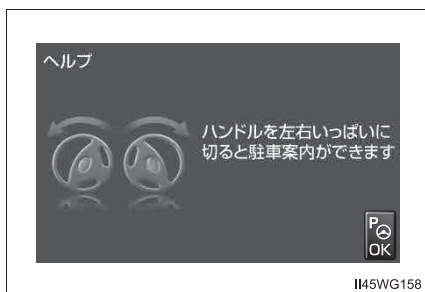


II45WG157

■ 初期化の作業

車を止めた状態で、ハンドルを左いっぱいにもわしたあと、右いっぱいにもわします。（左右どちらが先でも可）

通常の画面にもどれば、設定終了です。システム初期化中画面で、IPA スイッチを押すと、操作方法を表示することができます。



II45WG158

- 画面に表示された操作をして通常の画面にもどれば設定終了です。
- システム初期化中画面、またはヘルプ画面が表示されたままのときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- IPA スイッチを押すと、もとの画面にもどります。

⚠ 注意

- 上記操作を行っても、画面が切りかわらないときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 上記操作を行って、通常の画面にもどったときは、一度アシストモードを使用して、目標駐車位置に以前と同じようにアシストされることを確認してください。平坦路で使用しても、以前より斜めになったり、横方向にずれる場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

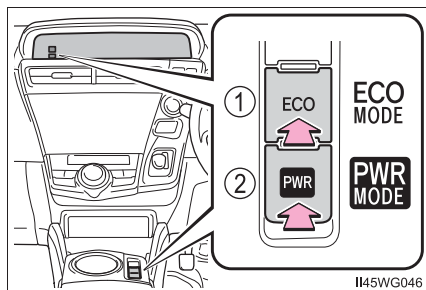
ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

① エコドライブモード※

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。



② パワーモード※

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを押すと、メーター内のパワーモード表示灯が点灯します。

※ エコドライブモード・パワーモード共に解除された状態のときは、通常の走行に適した通常走行モードになります。

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 282）空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

■エコドライブモード／パワーモードを解除するときは

- 再度スイッチを押します。なお、パワースイッチを OFF にするとパワーモードは自動的に解除されますが、エコドライブモードはスイッチを押して解除するまで、パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません。
- エコドライブモードのときにパワーモードスイッチを押す、またはその逆の操作を行うと、あとから押したスイッチのモードに切りかわります。

■EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→ P. 147

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

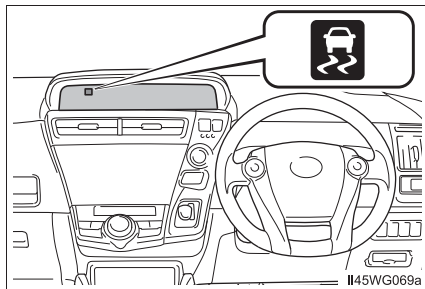
上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC・ABS が作動しているとき

VSC・TRC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



知識

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 369

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC・TRC・ABS が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■タイヤを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 437）異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 263）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 84）

◆ シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を抑え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→ P. 331）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

 警告**■ タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）を使用しない

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

ダイハツ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

ダイハツ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

オートエアコン 276

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 284

- ・フロントインテリア
ランプ 285
- ・パーソナルランプ 285
- ・リヤインテリアランプ 286

5-3. 収納装備の使い方

- 収納装備一覧 287
- ・グローブボックス 288
- ・コンソールボックス 288
- ・カップホルダー／
ボトルホルダー／
ドアポケット 289
- ・小物入れ 291
- ・カードホルダー 292
- ラゲージルーム内装備 293

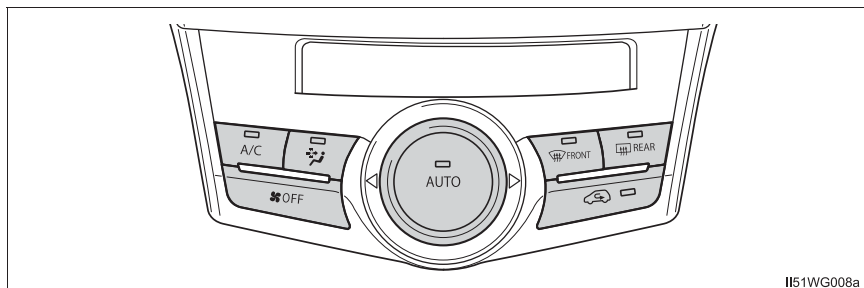
5-4. その他の室内装備の使い方

- その他の室内装備 296
- ・サンバイザー 296
- ・バニティミラー 296
- ・時計 297
- ・アクセサリースOCKET 298
- ・アクセサリー
コンセント 299
- ・アームレスト
(リヤシート) 305
- ・コートフック 305
- ・アシストグリップ 306
- ・パノラマルーフ
シェード 307
- ・ステアリングスイッチ 310

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



II51WG008a

■ 機能の切りかえと設定のしかた

- 1  を左右に倒して設定を行

う機能を選択する

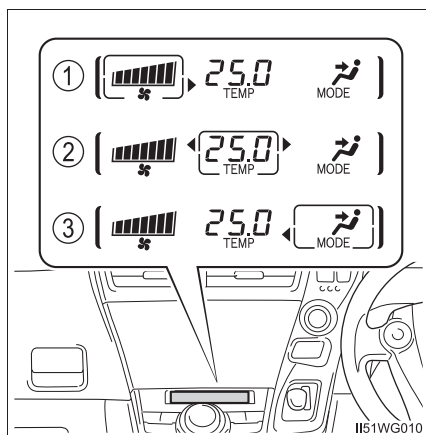
選択中の機能が枠で囲まれます。
枠の横に表示される矢印は、次に枠を
移動できる方向を表しています。

- ① 風量
- ② 設定温度

 が押されていない場合は、送
風または暖房で使用できます。

- ③ 吹き出し口

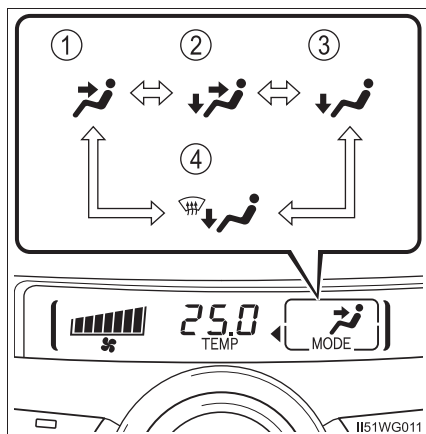
- 2  をまわして設定を変更する



II51WG010

■ 吹き出し口を切りかえる

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

- 1  を押す ※

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON / OFF を切りかえるには  を押します。（押すたびに機能の ON / OFF が切りかわります）

※  を押すと、自動で設定温度表示（）が選択されます。

- 2 設定温度を上げるときは  を右にまわし、下げるときは左にまわす
- 3 ファンを止めたいときは  を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スwitchの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。
内気循環を選択しているときは、スイッチの表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには



除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

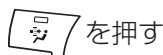
■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。



リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ 花粉除去機能を使用するには



内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

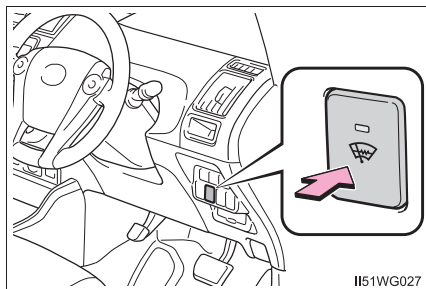
■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

スイッチを押す

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの表示灯が点灯します。

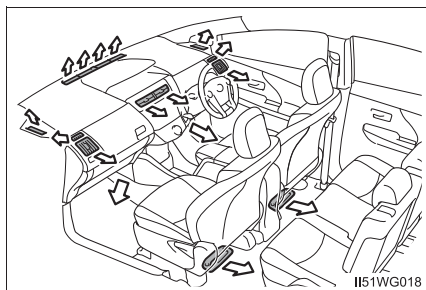
フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

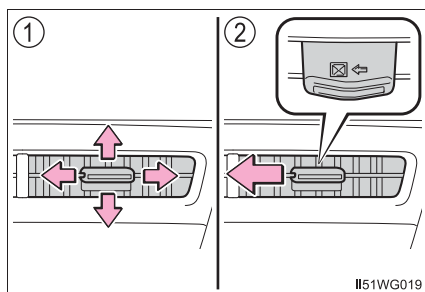
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



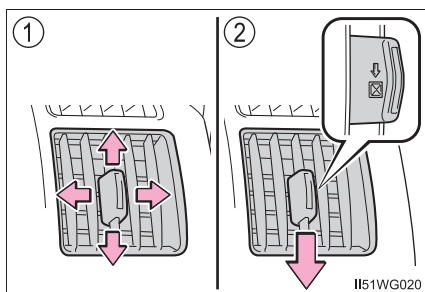
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央



▶ 左右



 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTOスイッチをONにした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ を押したとき

選択枠が自動で風量表示に移動します。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A / C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A / C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

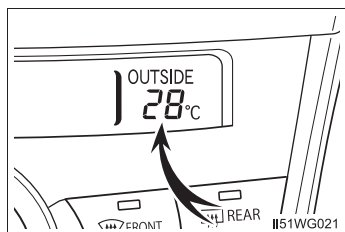
■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約25km/h以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入口付近など）



■エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・風量を調整する
 - ・エコドライブモードを解除する（→ P. 263）

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

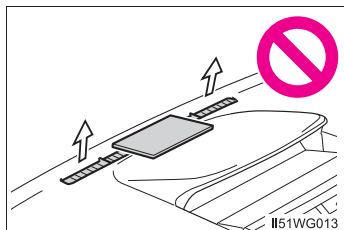
→ P. 326

■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

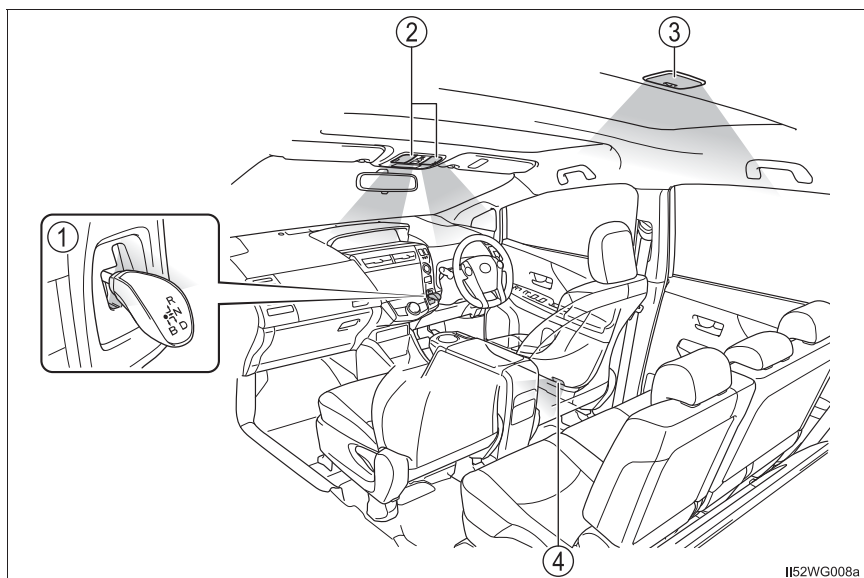
**■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー作動中の警告**

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター装着車)
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

⚠ 注意**■ 補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

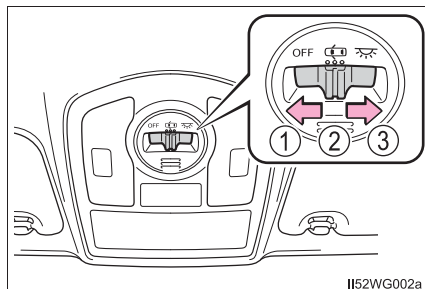
室内灯一覧



- ① シフトレバー照明
- ② フロントインテリアランプ・パーソナルランプ (→ P. 285)
- ③ リヤインテリアランプ (→ P. 286)
- ④ ドアカーテシ照明

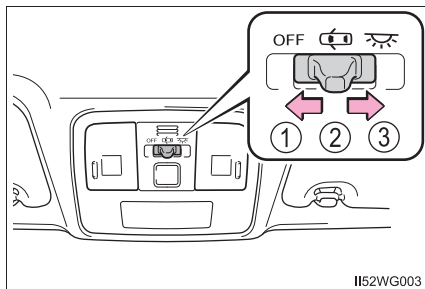
フロントインテリアランプ

▶ パノラマーフ非装着車



- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする
- ③ ランプを点灯する

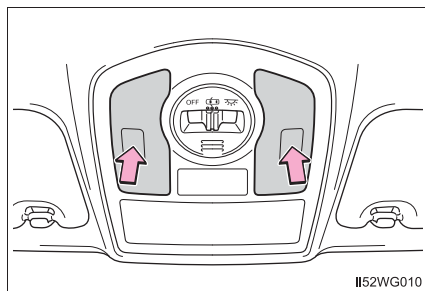
▶ パノラマーフ装着車



- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする
- ③ ランプを点灯する

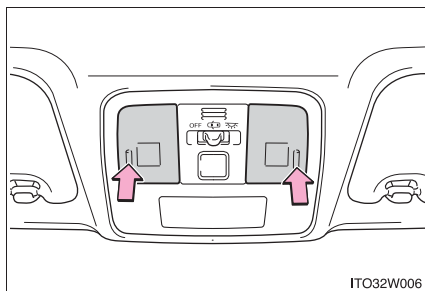
パーソナルランプ

▶ パノラマーフ非装着車



ランプを点灯・消灯する

▶ パノラマーフ装着車



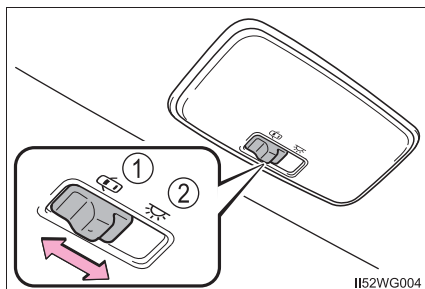
ランプを点灯・消灯する

リヤインテリアランプ

- ① ドアポジション（ドア連動）をONにする※

※ フロントインテリアランプメインスイッチに連動して作動し、メインスイッチがOFFのときはランプが点灯しません。

- ② ランプを点灯する



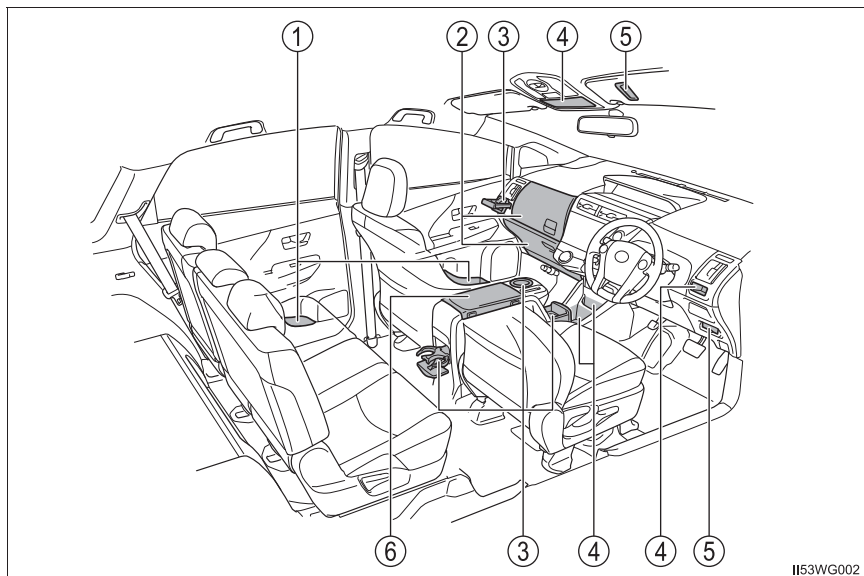
知識

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチがOFFの場合、各部の照明が点灯したままのときは約20分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 439）

⚠ 注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



I153WG002

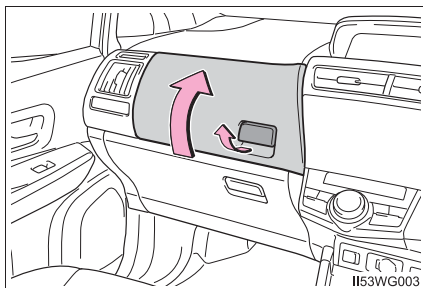
- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ① ボトルホルダー／ドアポケット
(→ P. 290) | ④ 小物入れ (→ P. 291) |
| ② グローブボックス
(→ P. 288) | ⑤ カードホルダー (→ P. 292) |
| ③ カップホルダー (→ P. 289) | ⑥ コンソールボックス
(→ P. 288) |

⚠ 警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

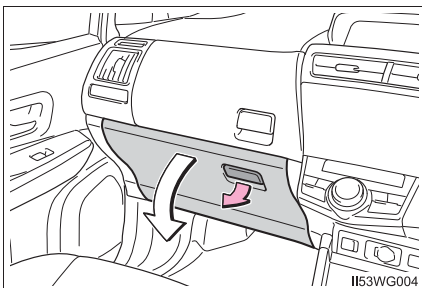
グローブボックス

▶ アッパーグローブボックス



グローブボックスを開けるには、
レバーを引き上げる

▶ ロアグローブボックス

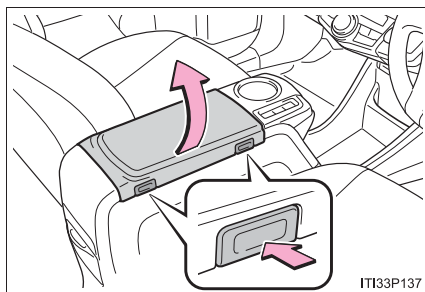


グローブボックスを開けるには、
レバーを引き上げる

コンソールボックス

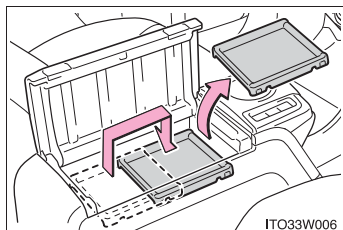
ボタンを押してフタを開ける

前後どちらかのボタンを押すと開きます。



知識

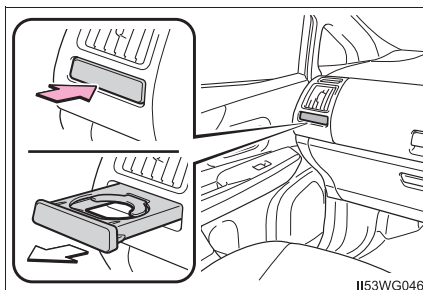
- 車幅灯が点灯しているときにロアグローブボックスを開くと、ランプが点灯します。
- コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。



カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット

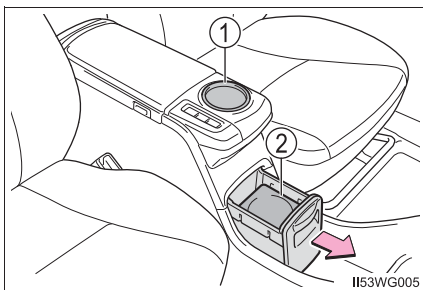
■ カップホルダー

▶ 助手席前



押して開ける

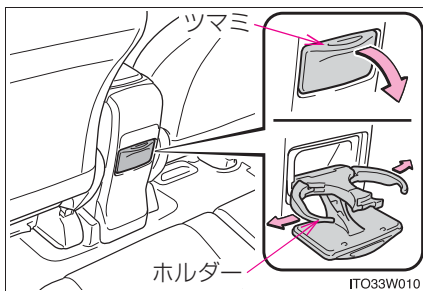
▶ コンソール部前側



① フロント上面

② フロント側面

▶ コンソール部後側

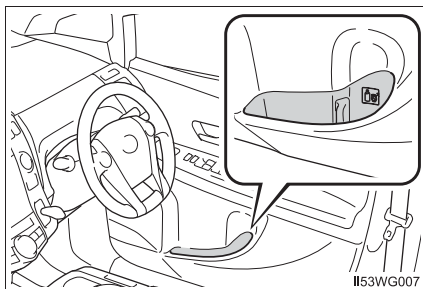


ツマミを引いてフタを開け、ホルダーを調整して使用する

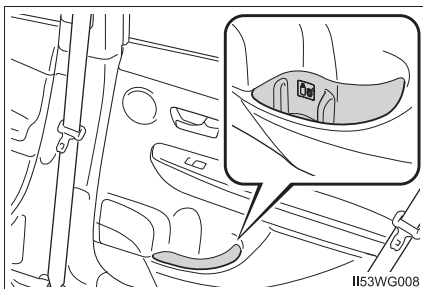
閉じるときは、ホルダーを格納してからフタを閉じてください。

■ ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロントシート

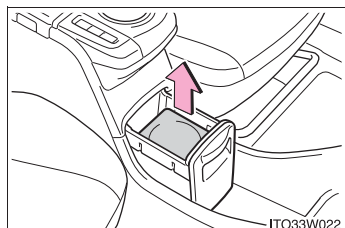


▶ リヤシート



□ 知識

- フロント側面のカップホルダーは、中のトレイを取りはずし、小物入れとして使用することができます。



- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

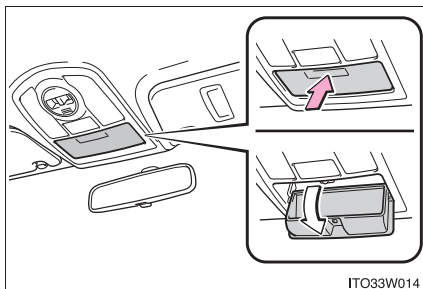
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

⚠ 注意

ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

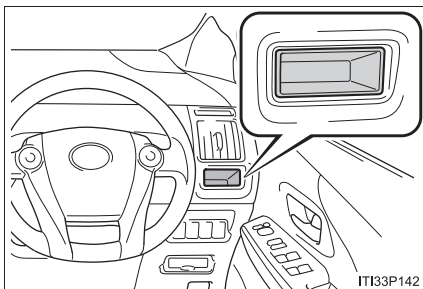
小物入れ

▶ A タイプ★



ITO33W014

▶ B タイプ★

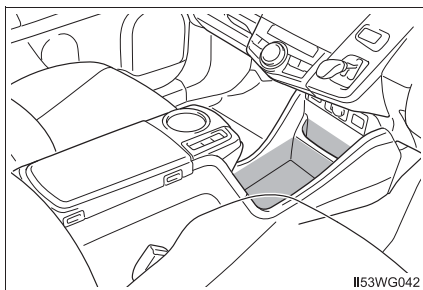


ITI33P142

フタを押す

小物を一時的に収納できます。

▶ C タイプ



II53WG042

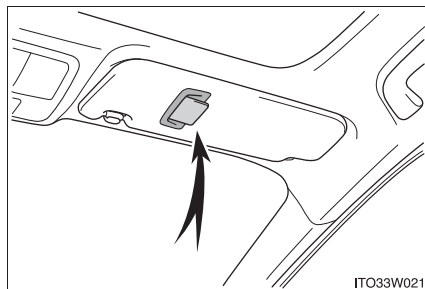
⚠ 警告

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとホルダーが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。(A タイプ)

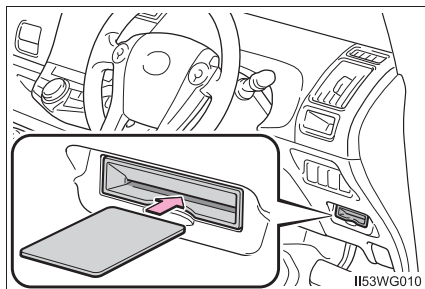
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カードホルダー

▶ サンバイザー



▶ 運転席横★



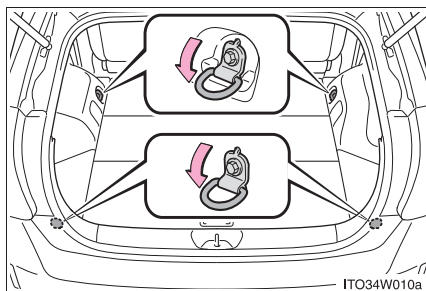
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

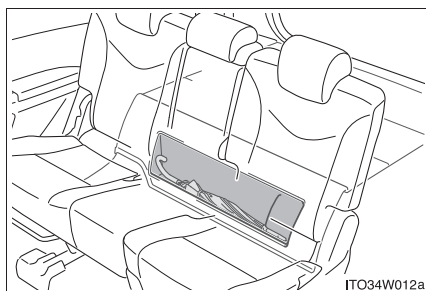
フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



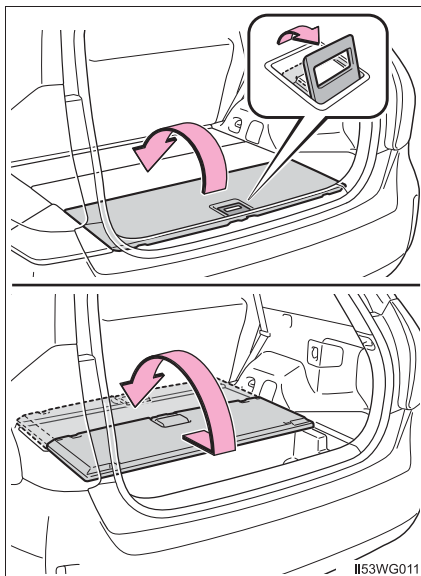
ラゲージトレイ

シートの後方に傘（77cm 以下）などを収納できます。



デッキアンダーボックス

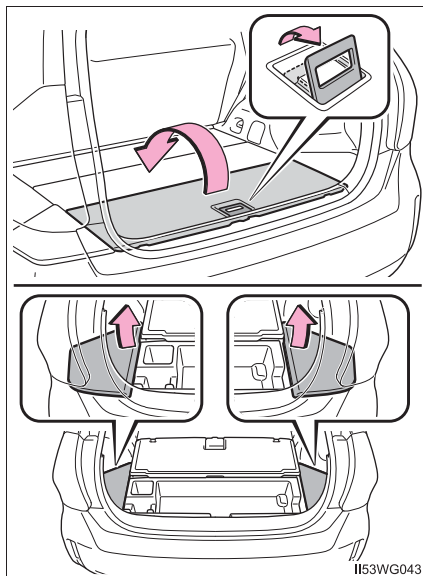
▶ 中央



レバーを起こして引き上げる

車両前側のデッキアンダーボックスを使用するときは、デッキボードを折りたたみ、持ち上げて車両前方へ動かしてください。

▶ 横側



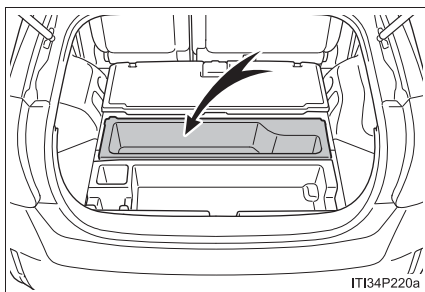
デッキボードを開いてから、フタを持ち上げて取りはずす

デッキフックにあたらないように、車両前側からフタを持ち上げてください。

三角表示板等収納スペース

デッキアンダーボックスに三角表示板等を収納することができます。

イラストはタイヤパンク応急修理キット装着車で代表しています。



知識

三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

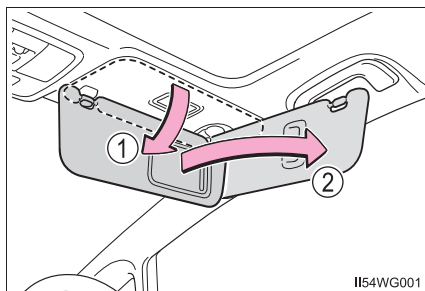
警告

- 三角表示板等を収納するときは、確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージトレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。

その他の室内装備

サンバイザー

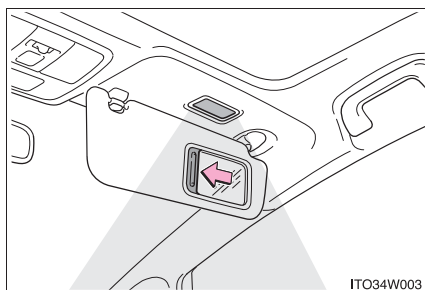
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。



知識

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

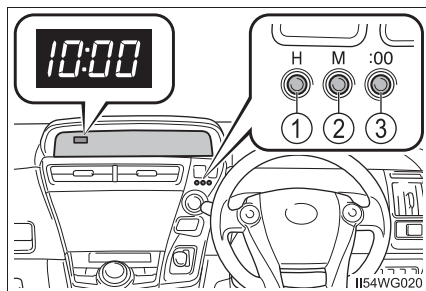
補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を 00 にする ※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



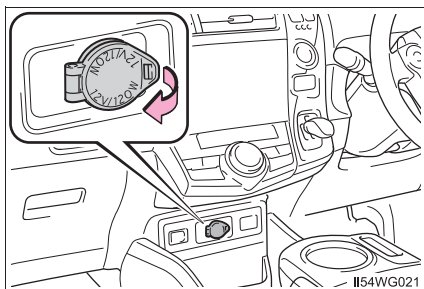
知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モード
- パワースイッチを OFF にしたあとも、約30秒間またはドアを施錠するまでのあいだ、時刻は表示されています。
- 補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリースOCKET

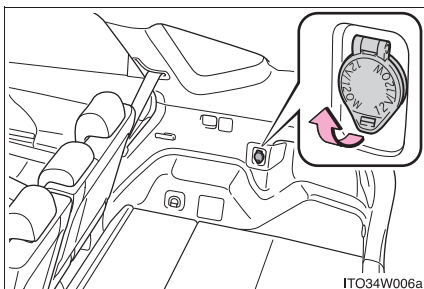
DC12V / 10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

▶ フロント



フタを手前に引いて開ける

▶ リヤ★



フタを手前に引いて開ける

知識

作動条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モード

⚠ 注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

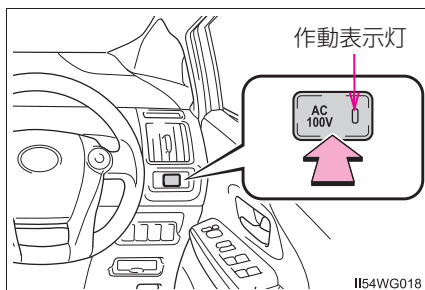
アクセサリコンセント★

AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

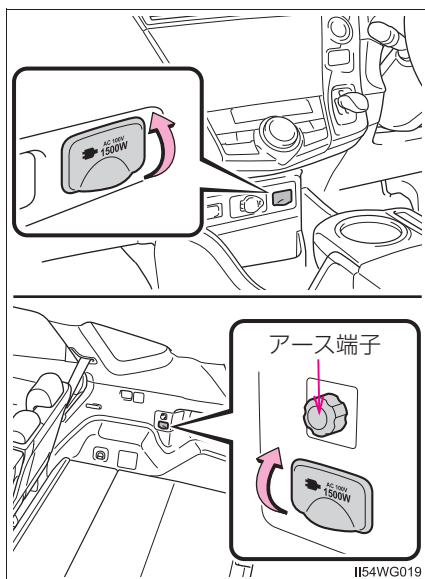
スイッチを押すたびに電源の ON / OFF が切りかわります。



2 フタを開けて使用する

コンセントは、フロントコンソールとラゲージルームの2ヶ所にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、アース線を接続してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するとき

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■使用しないとき

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチをONにした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないとき

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 81）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するとき

外気温が -15℃ 以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- めれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されているAC100V インバーターを、市販のAC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

 警告**■ 駐車中または停車中に使用するとき**

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPにしてください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。(→ P. 57)
- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近づけないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■ 接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。

なお、次のような機器は使用しないでください。

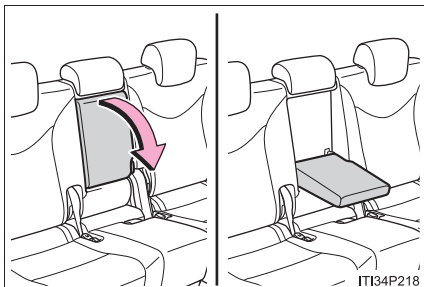
- 医療用機器
車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。
また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

アームレスト (リヤシート) ★

手前に倒して使用します。

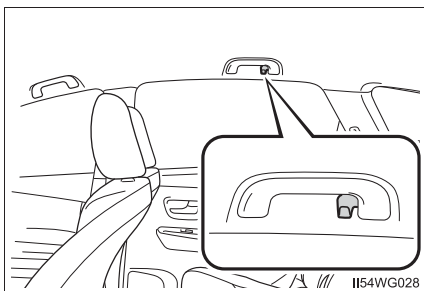


⚠ 注意

破損を防ぐために、アームレストに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤドアのアシストグリップに付いています。



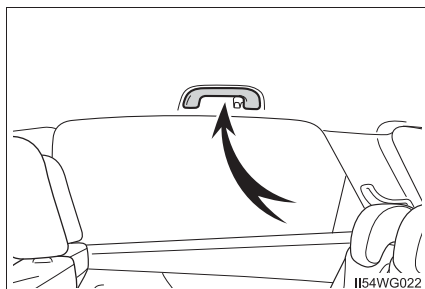
⚠ 警告

ハンガーなどの硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

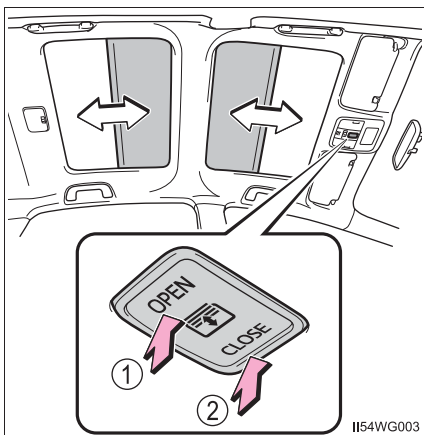
パノラマーフシェード★

頭上のスイッチでパノラマーフシェードを開閉することができます。

① 開ける ※

② 閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モード

■ 挟み込み防止機能

- パノラマーフシェードを閉めるときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの CLOSE 側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。
- パノラマーフシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■ ドアロック連動自動閉機能

パワースイッチが OFF のとき、ドアを車外から施錠、または車内からワイヤレスリモコンで施錠すると、パノラマーフシェードが自動で閉まります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パノラマーフシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 パノラマーフシェードが止まっている状態で、スイッチのCLOSE側を10秒以上（パノラマーフシェードが完全に閉まるまで）押し続ける

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動自動閉機能を非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 439）

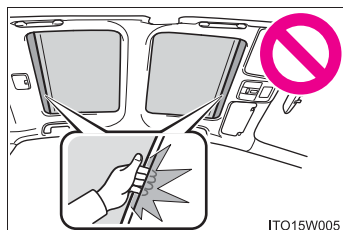
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パノラマーフシェードを開閉するとき

- 開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、操作をさせないでください。
パノラマーフシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください
- 挟み込み防止機能は、パノラマーフシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側とパノラマーフシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

 注意

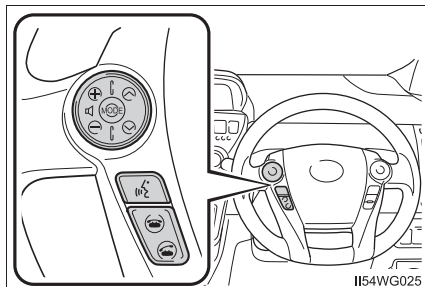
パノラマルーフは樹脂でできています。ルーフの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

- お手入れするときは中性洗剤を使用して、やわらかい布やスポンジで汚れを落とし、十分な水で洗い流してください。(→ P. 316)
- 荷物を載せるときは、必ずこの車専用のルーフラックを使用してください。(→ P. 139)

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	312
内装の手入れ.....	317

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	320
ガレージジャッキ	323
エンジンルームカバー	325
エアコンフィルターの 交換	326
ワイパーゴムの交換	328
ウォッシャー液の補充	330
タイヤについて	331
タイヤ空気圧について	335
電子キーの電池交換	337
ヒューズの点検、交換	339
電球（バルブ）の交換	342

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

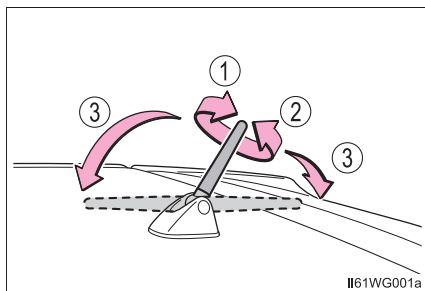
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ダイハツケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、脱着または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うとき

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
(電子キーの盗難に注意してください)
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する (→ P. 105)

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車場でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■ パノラマルーフ★の水アカについて

水アカを落とすきれない場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**■ ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- 駆動系部品
- ステアリング部品
- サスペンション部品
- ブレーキ部品

 注意**■ アルミ部品の清掃について**

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

■ パノラマルーフ★の損傷を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パノラマルーフの表面を損傷したり、コーティングの劣化を早めたりするおそれがあります。

- 洗車前にはあらかじめルーフ表面についたほこりや泥、砂などの異物を水で取り除いておく
- 硬いブラシやたわし、先のとがったものなどは使用せず、やわらかい布・スポンジなどを使って清掃する
- 汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ガラスコート・カーワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類・研磨剤の入ったものは使用しない
洗淨後は、洗剤が残らないように水を十分にかけて洗い流してください。
- 鉄粉が付着したときは、乾いた布でこすらず、水を流しながら軽くふきとるようにして取り除く
- ステッカーなどの粘着物や吸盤などを貼り付けない
パノラマルーフに貼り付けられているインフォメーションラベルは、内容を確認したらすみやかににはがしてください。
- ルーフ上に雪が積もったときは、ルーフ表面に傷が付かないように注意して取り除く
ルーフに霜・氷が付いたときも、スクレーパー・解氷剤は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水に浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 63)

駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→ P. 34)

電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

フロアカーパーット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→ P. 177)

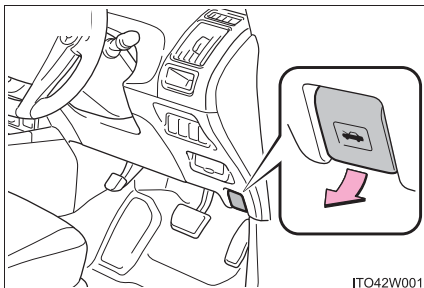
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するとき

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

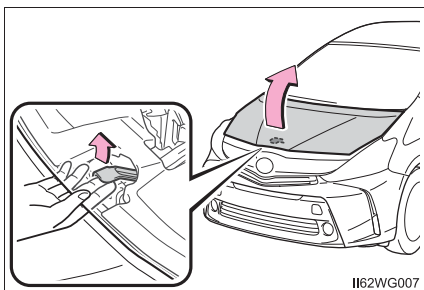
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1** ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

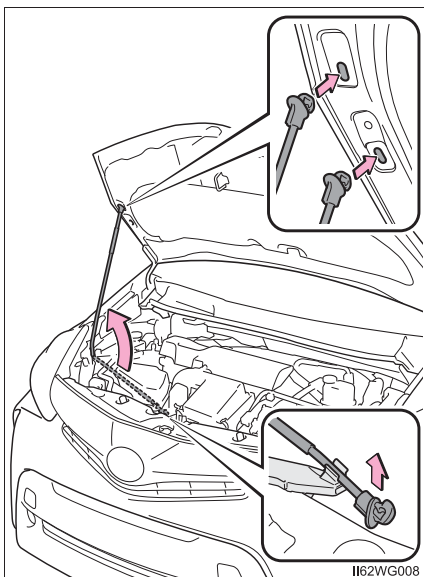


- 2** レバーを引き上げてボンネットを開ける



- 3** ボンネットステーをステー穴に挿し込む

通常は上側の穴を使用し、ボンネットを大きく開けたい場合は、下側の穴に挿し込みます。

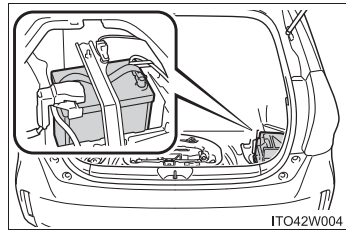


 知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のデッキサイド小物入れ下部にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 422）

 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずダイハツサービス工場にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ボンネットを開けるとき

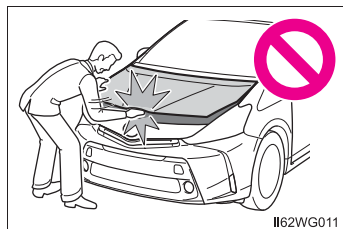
ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告**■ ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■ 補機バッテリーの交換について

交換する際はメビウス専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。補機バッテリーの交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるとき

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

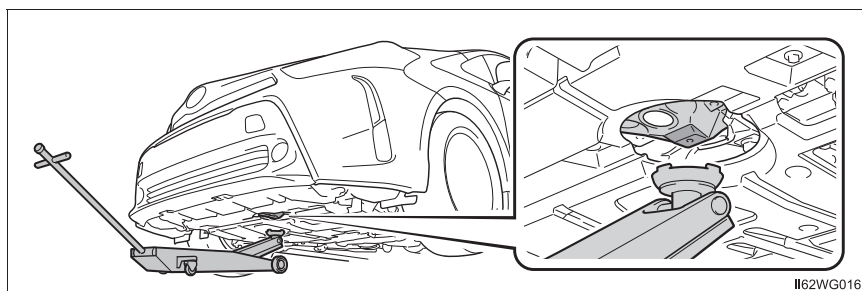
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

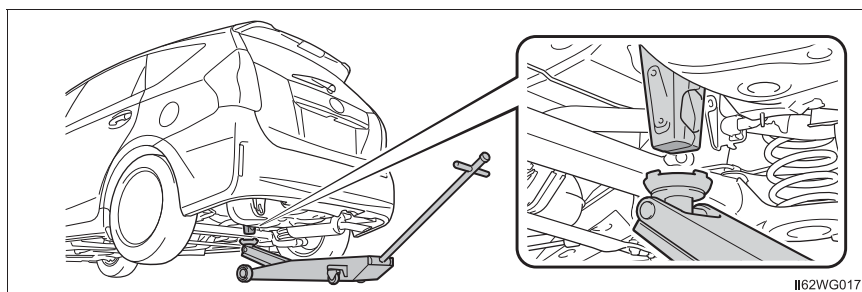
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

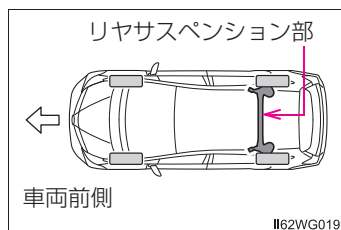


◆ リヤ側



警告

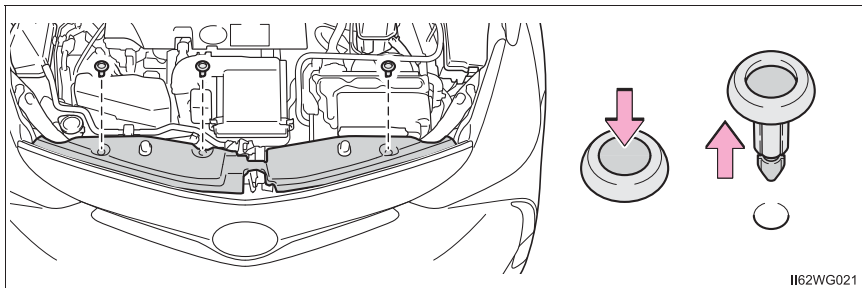
車両を持ち上げるときは、リヤサスペンション部などで行わないでください。



エンジンルームカバー

電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

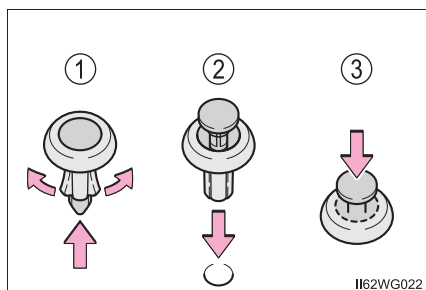
エンジンルームカバーの取りはずし方



II62WG021

クリップの取り付け方

- ① クリップの中央部分を押し上げる
- ② 挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押し



II62WG022

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ エンジンルームカバー取り付け後の確認

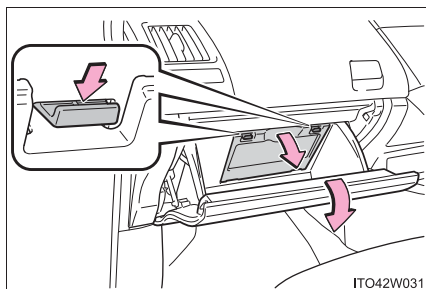
もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

エアコンフィルターの交換

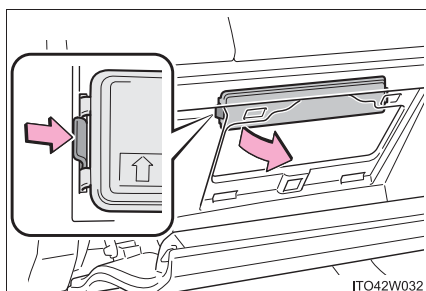
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

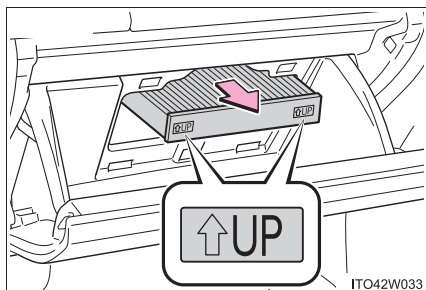
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 □アグローブボックスを開き、フィルター交換用のカバーをはずす



- 3 フィルターカバーを取りはずす



- 4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは 20,000km [5,000km※] ごとを目安に交換してください。

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したとき

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

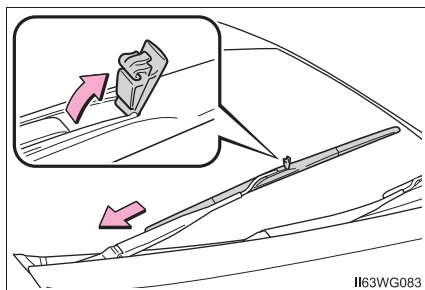
ワイパーゴムの交換

交換のしかた

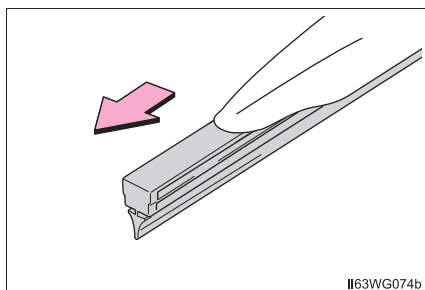
■ フロント

- 1 ストッパーをはずし、ワイパーアームを少し浮かせた状態でワイパーブレードをスライドさせて取りはずす

ワイパーアームはフロントウインドウガラスにあたる位置までゆっくりもどしておいてください。

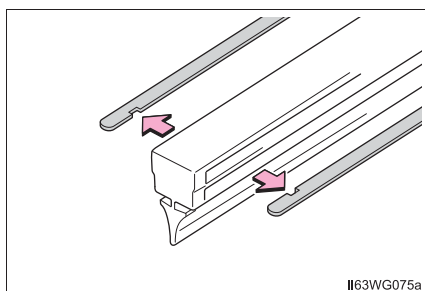


- 2 ワイパーゴムをスライドさせて引き抜く



- 3 取りはずしたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を交換するワイパーゴムに付けかえる

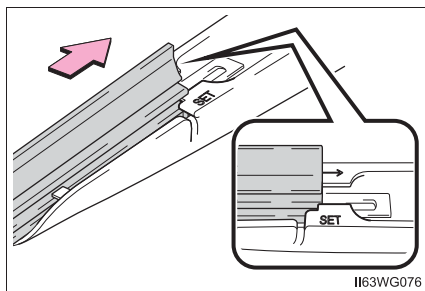
金属プレートの切り欠きが内側にくるように取り付けてください。



- 4 取り付けるときは、取りはずした時と逆の方向に、ワイパーゴムがロックされて動かなくなるまで挿し込む

ワイパーゴムには挿し込める向きがあるため、取り付ける前に確認してください。

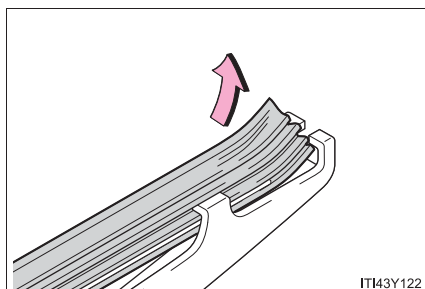
ワイパーゴムを取り付けたあとは、ワイパーブレードをワイパーアームに取り付けてストッパーを確実に取り付けてください。



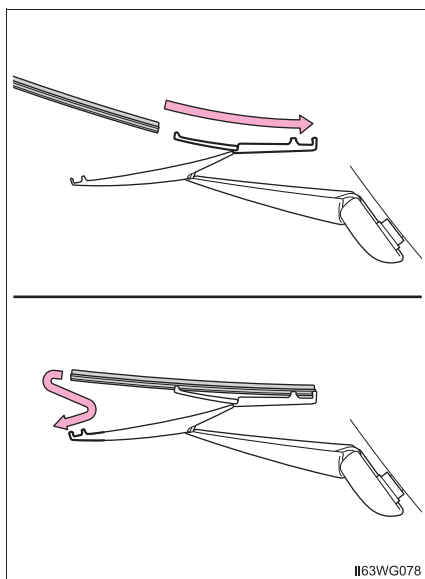
■ リヤ

- 1 ワイパーを立てた状態で、ワイパーゴムを抜き取る

取りはずしたワイパーゴムから、金属プレート2枚を切り欠きが内側にくるように、交換するワイパーゴムに付けかえてください。



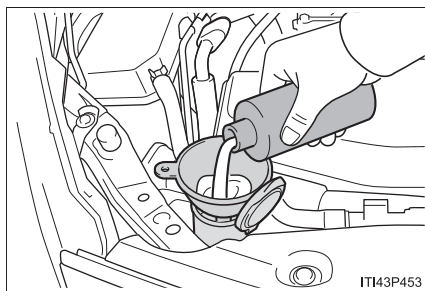
- 2 取り付けるときは、図のようにワイパーゴムを挿し込む



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたら
ウォッシャー液を補充する



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

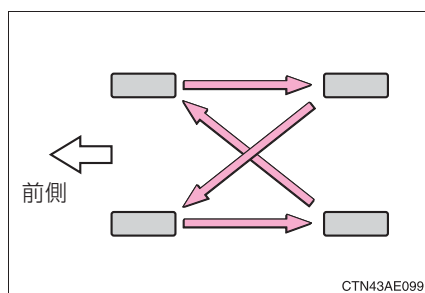
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、ダイハツは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

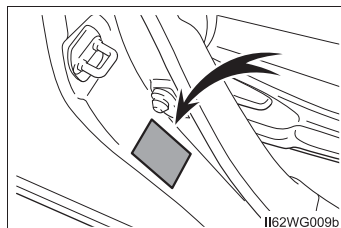


 知識■ **タイヤ空気圧の数値**

▶ 205/60R16 92V

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

▶ 215/50R17 91V

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※後輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※▶ 応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■ **タイヤ関連の部品を交換するとき**

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

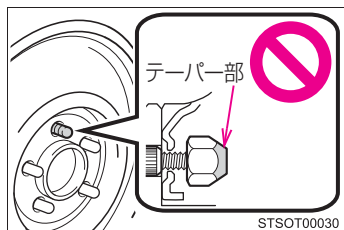
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。(→ P. 437)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、ダイハツサービス工場でのタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

電子キーの電池交換

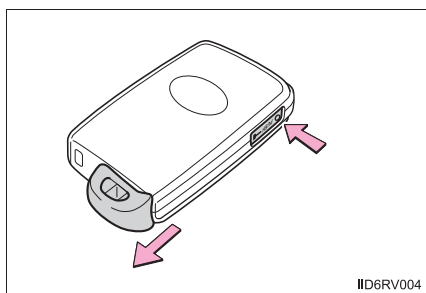
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

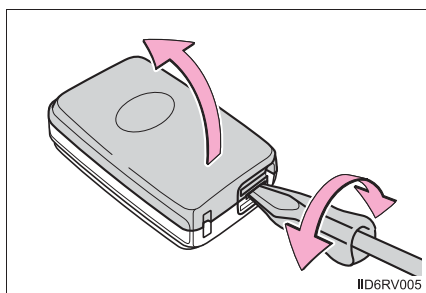
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

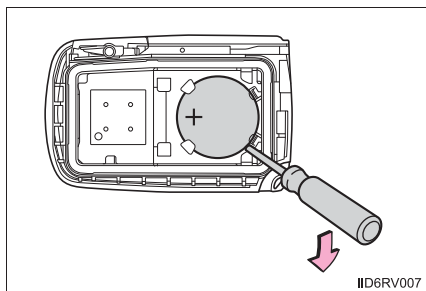
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーモジュールがはりつき、電池面が隠れている場合があります。この場合は、電子キーモジュールをひっくり返し、電池が見える状態で作業をしてください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

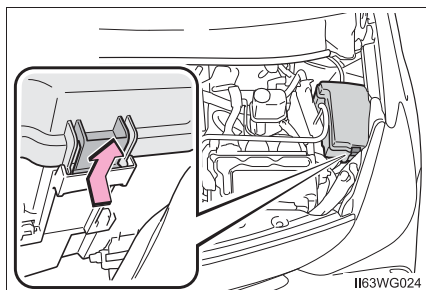
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

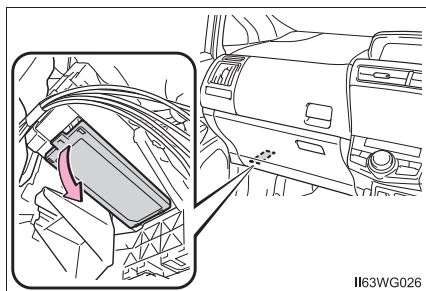
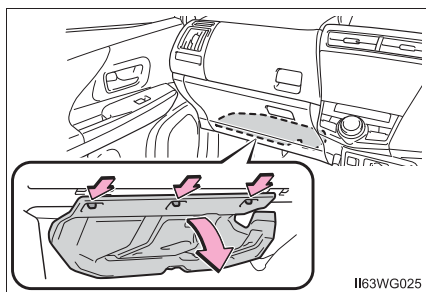
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

閉めるときは、奥にあるツメ（2ヶ所）を先に引っかけてから閉めてください。



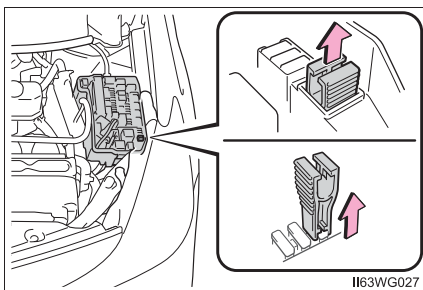
▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずして、ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

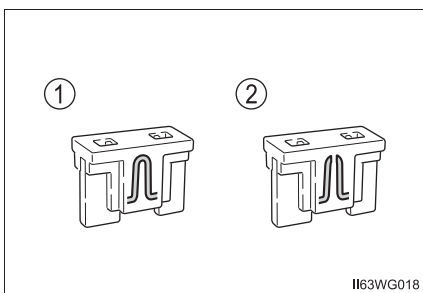
ヒューズは必ずヒューズを引抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 342)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているダイハツ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のダイハツ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 438）

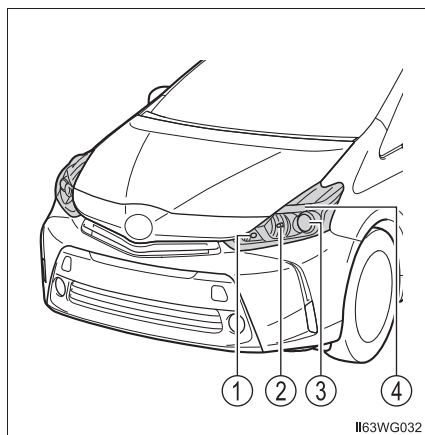
エンジンルームカバーの取りはずし

→ P. 325

バルブ位置

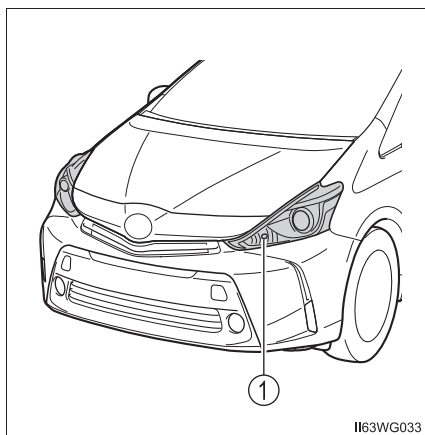
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



- ① フロント方向指示灯／
非常点滅灯
- ② ヘッドランプハイビーム
- ③ ヘッドランプロービーム
- ④ 車幅灯

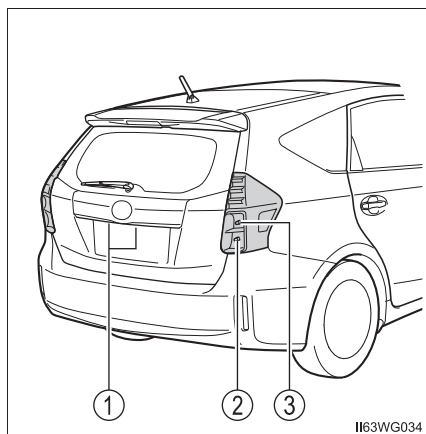
▶ LED ヘッドランプ装着車



- ① フロント方向指示灯／
非常点滅灯

■ リヤ

- ① 番号灯
- ② 後退灯／リヤフォグランプ★
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

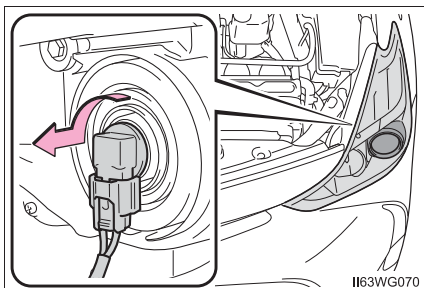


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

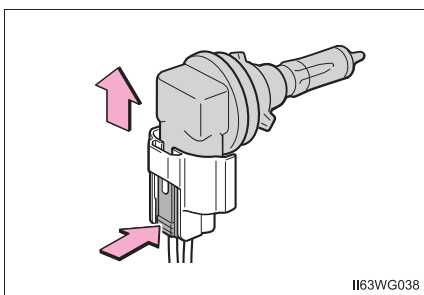
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

- 1 ソケットを取りはずす

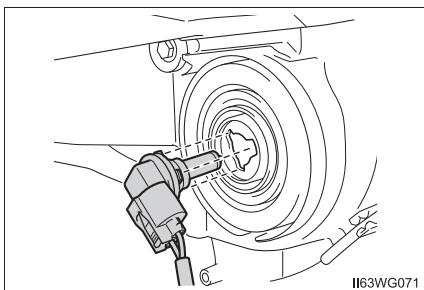


- 2 電球を取りはずす



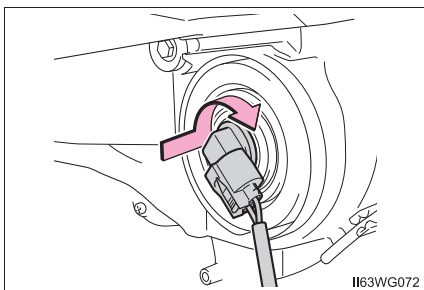
- 3 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。



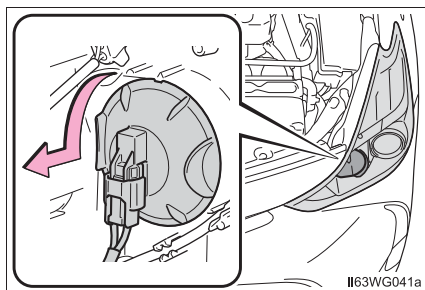
- 4 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

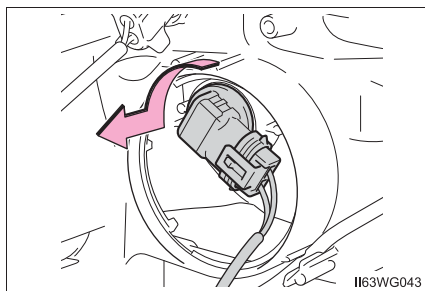


■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

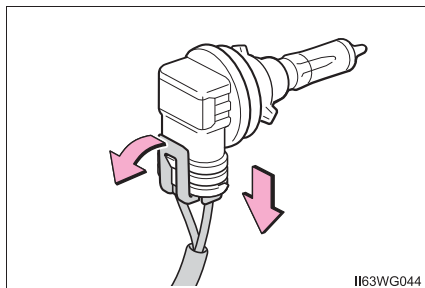
- 1 カバーをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

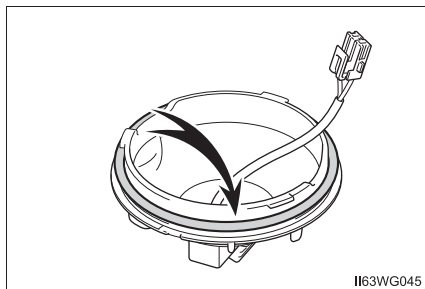


- 3 コネクターを取りはずす

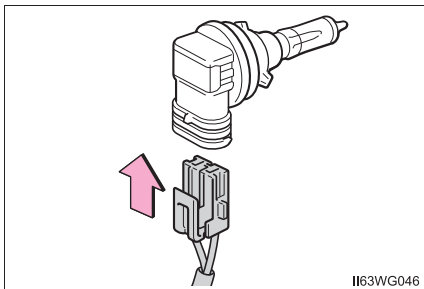


- 4 カバーの O リングがはずれていないことを確認する

O リングがはずれている場合は、正しい位置に取り付ける。



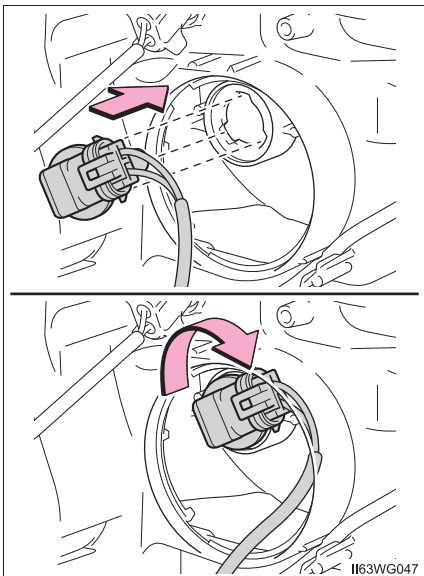
- 5 電球を交換し、コネクターを取り付ける



- 6 ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定する。

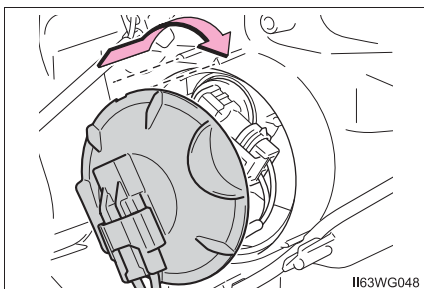
コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



- 7 カバーをまわして取り付ける

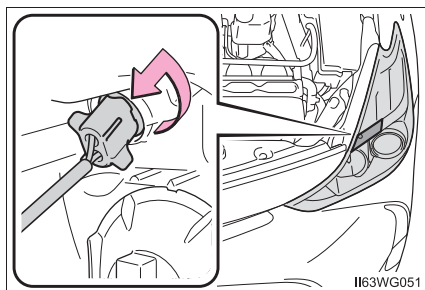
カバーとランプ本体のマークを合わせて挿し込み、まわします。

取り付けマークはランプ本体の外側にあります。

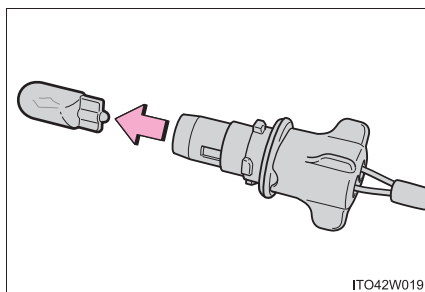


■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす

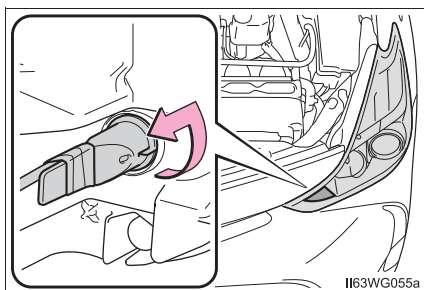


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

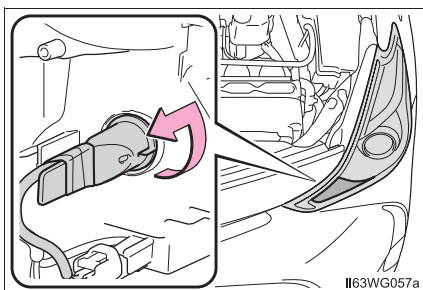
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす

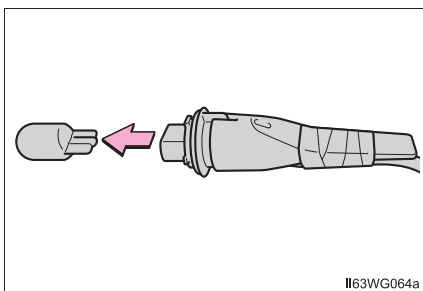
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車



2 電球を取りはずす

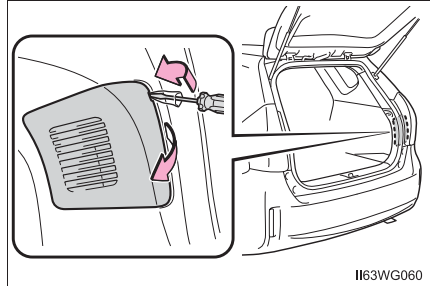


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯／後退灯／リヤフォグランプ★

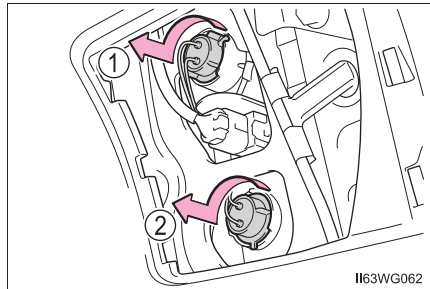
- 1** バックドアを開け、カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



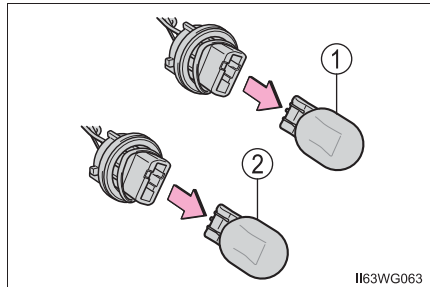
- 2** ソケットを取りはずす

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
② 後退灯／リヤフォグランプ



- 3** 電球を取りはずす

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
② 後退灯／リヤフォグランプ



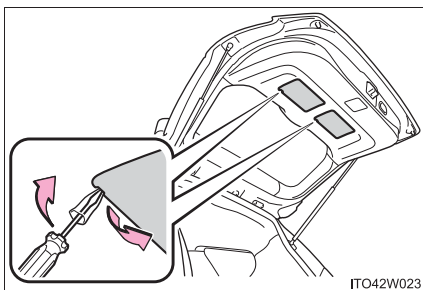
- 4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

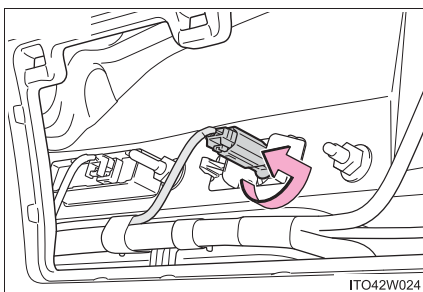
■ 番号灯

- 1 バックドアを開けて、図の位置にある切り欠きにマイナスドライバーを挿し込んで、カバーをはずす

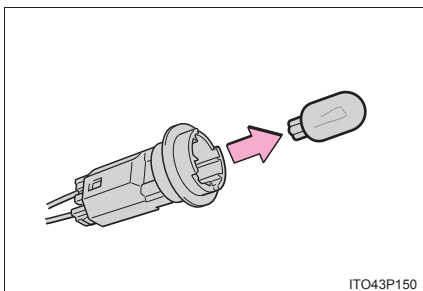
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- LED デイライト
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ



知識

■ LED ランプについて

ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）・LED デイライト・フロントフォグランプ★・尾灯・制動灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 341

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■電球を交換するとき**

- 必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	354
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	355
発炎筒.....	356
車両を緊急停止するには.....	358

7-2. 緊急時の対処法

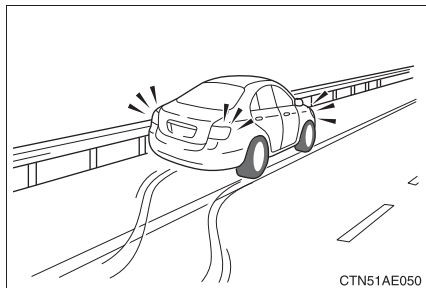
けん引について.....	359
警告灯がついたときは.....	366
警告メッセージが 表示されたときは.....	370
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）.....	389
パンクしたときは （タイヤパンク応急修理 キット装着車）.....	401
ハイブリッドシステムが 始動できないときは.....	418
電子キーが正常に 働かないときは.....	420
補機バッテリーが あがったときは.....	422
オーバーヒート したときは.....	427
スタックしたときは.....	432

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

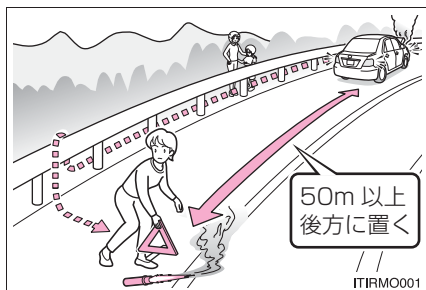
非常点滅灯（→ P. 355）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

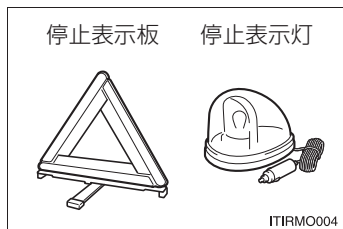
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 356）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。

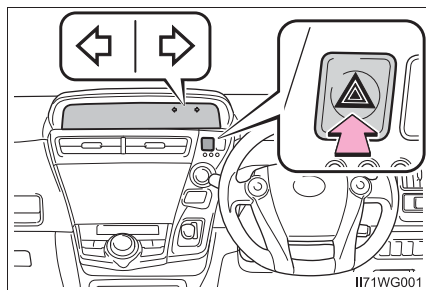


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

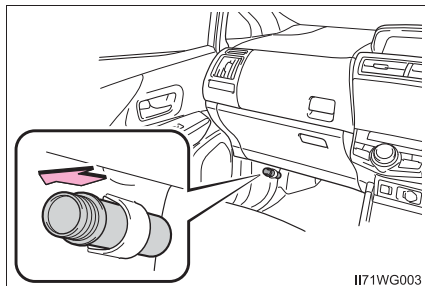
■ 非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

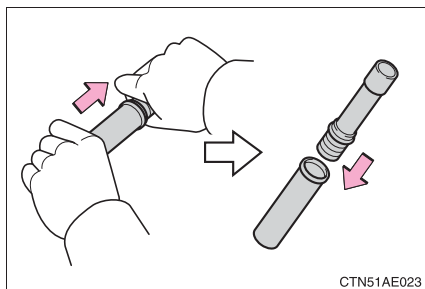
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

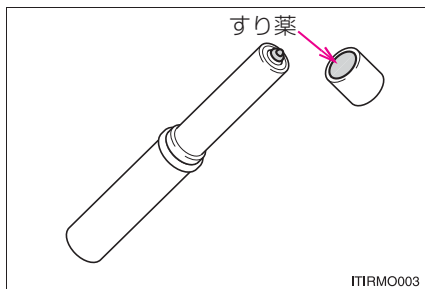


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、ダイハツサービス工場でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

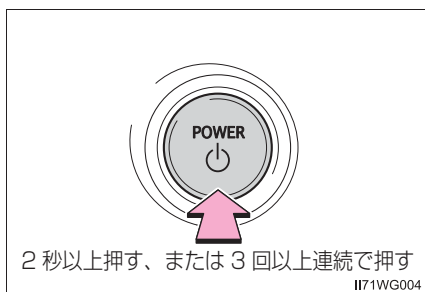
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトポジションを N にする
▶ シフトポジションが N になった場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
▶ シフトポジションが N にならない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけダイハツサービス工場または専門業者に依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があります。そのため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。ダイハツサービス工場または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 372）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 67）
- スマートエントリー & スタートシステムに異常があるとき（→ P. 420）
- 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 422）

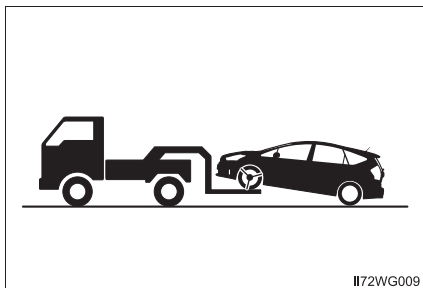
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにハイブリッドシステムの異常を示すメッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

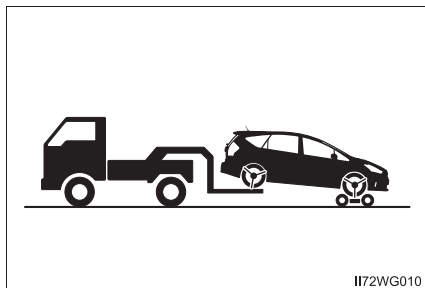
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

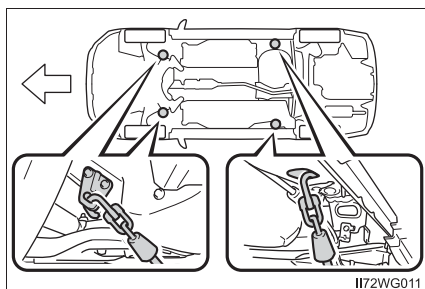
▶ うしろ向きにけん引するときは



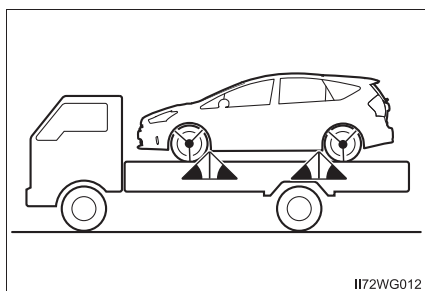
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する

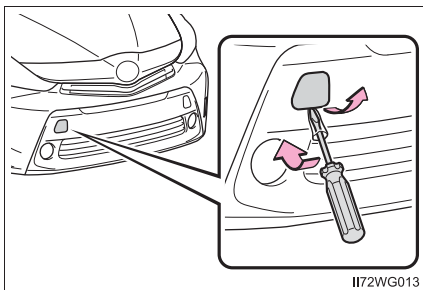


他車にけん引してもらおうとき

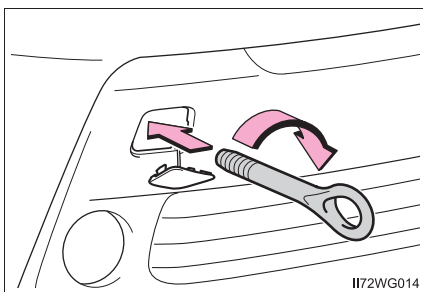
1 けん引フックを取り出す (→ P. 390,403)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

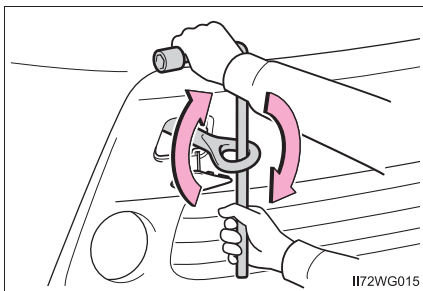
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



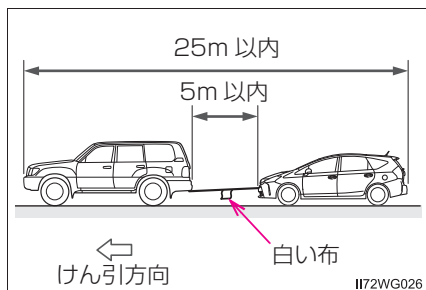
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引してもらうときに

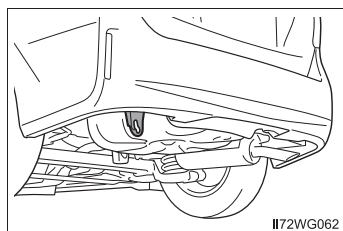
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。(→ P. 390,403)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



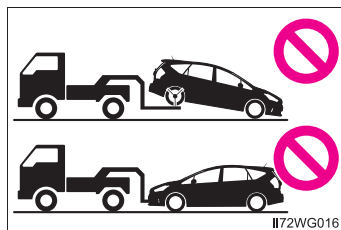
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

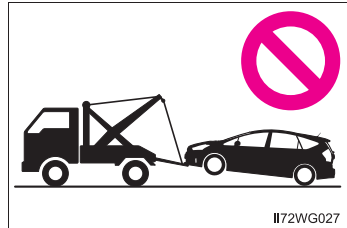
- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

- けん引フックは、搭載されている車両専用です。他の車のけん引フックを使用したり、この車のけん引フックを他の車に取り付けたりしないでください。
- 指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等で過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	エンジン警告灯 ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 OFF (点滅または点灯)	PCS 警告灯 炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。(→ P. 190, 370)
	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC の異常 ・ TRC の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。 ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。
	LDA 表示灯 (警告ブザー) LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) システムの異常または、一時的に使用不可時に黄色点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 198
	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかかります。 → 車両を停車して点検する (→ P. 427)

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2） いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6L 以下になった → 燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 370

※1 ブレーキ警告ブザー：

ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

※2 半ドア走行時警告ブザー：

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

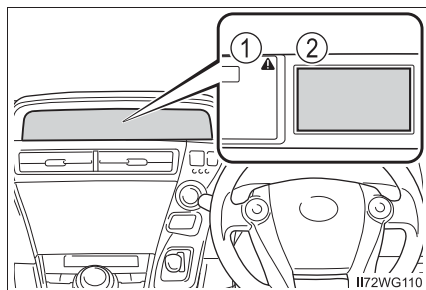
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

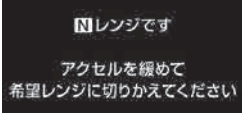
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。



警告メッセージ一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	衝突の可能性が高い プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム） 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速する
	（レーダークルーズコントロールの車間制御中）衝突の危険性 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速する
  （黄色） （点滅）	（LDA [レーンディパーチャーアラート<ステアリング制御機能付き >] 制御中）車線逸脱警報 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が橙色で点滅します。 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす
  （点滅）	シフトポジションがN のとき、アクセルペダルを踏んだ 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをD または R にする

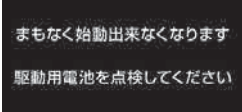
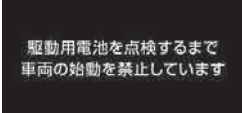
警告メッセージ	警告内容・対処方法
停車時は ブレーキを踏んでください  (点滅)	上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持している 警告ブザーが鳴ります。そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
ハイブリッド充電量低下のため システム停止 Pレンジにして再始動  (点滅)	一定時間シフトポジションがNになっているため駆動用電池の残量が低下 警告ブザーが鳴ります。 → 車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する
Pロック異常 駐車時は確実に パーキングブレーキを かけてください 	シフト制御システムの異常 この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。シフト制御システムが故障すると、パワースイッチをOFFにできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけるとOFFにすることができます。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください
ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認 	ハイブリッドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください
ハイブリッド充電量低下 Nレンジ以外にすると 充電されず  (点滅)	駆動用電池の残量が低下 警告ブザーが鳴ります。 → シフトポジションがNの状態では充電できないため、停車するときはシフトポジションをPに入れる

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 アクセルを戻してください  (点滅)	アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにアクセルペダルを離してください
 LDA ハンドルを保持してください	LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) 操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断 運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。 → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください。
LDA 操舵支援停止 ハンドルを保持してください 	LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) 操舵支援「有」中にシステムが手放し運転と判断したため、操舵支援が一時停止 運転者のハンドル操作が小さいとき、システムがハンドル操作を検知できず、警告が表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドルをしっかりと持ちなおしてください
クルーズコントロール使用不可 レーダーの汚れを取ってください 	レーダークルーズコントロールのセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 → 汚れおよび氷などを取り除く
クルーズコントロール 現在使用できません 	レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
クルーズコントロール故障 販売店で点検を受けてください 	レーダークルーズコントロールシステムの異常 ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください
LDA故障 販売店で点検を受けてください   (黄色)	LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください   (黄色)	カメラセンサーの作動条件 (温度など) が満たされていない → カメラセンサーの作動条件 (温度など) が満たされると、次のシステムが使用可能になります。 ・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) ・ オートマチックハイビーム
LDA現在利用できません   (黄色)	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している 警告ブザーが鳴ります。 → いったん LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) を OFF にし、しばらくしてから再度 LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) を ON にしてください
前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取り除いてください   (黄色)	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) ・ オートマチックハイビーム → いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度システムを ON にしてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュセーフティ故障 販売店で点検を受けてください  	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください
 エンジン油圧不足 	エンジンオイル圧力の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください
 ドライブスタートコントロール故障 販売店で点検してください 	ドライブスタートコントロールの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ブレーキオーバーライドシステム故障 販売店で点検してください 	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ハイブリッドシステム高温 出力制限中です 	ハイブリッドシステムの過熱 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行する、後退しながら上り坂を登るなど）のときにメッセージが表示され、システム保護のため、一時的にハイブリッドシステムの出力が低下する場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 → 車両を停車して点検する（→ P. 427）
ヘッドランプシステム故障 販売店で点検を受けてください 	オートマチックハイビームの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください
アクセルとブレーキが 両方踏まれています  （点滅）	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動（→ P. 130） → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください  （点滅）	補機バッテリーが充電不足 → 数秒後※に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 → 表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 422）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。 ※ 約 6 秒間表示されます。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ヘッドランプがロービームの状態オートマチックハイビームスイッチを押した → ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームスイッチを押す
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の一時停止 → 状況が改善されると作動可能状態になります。表示されたままのときは、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。
	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 → 汚れおよび氷などを取り除く
	駆動用電池の点検・交換時期 → すみやかにダイハツサービス工場にて駆動用電池の点検を実施してください。
	まもなくハイブリッドシステムの再始動不可 → このまま車を使用し続けると、まもなくハイブリッドシステムの再始動ができなくなります。ただちにダイハツサービス工場にて駆動用電池の点検を実施してください。
	ハイブリッドシステムの再始動不可 → ただちにダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
補機バッテリー充電不足 シフト切りかえできません 取扱書を確認  (点滅)	補機バッテリーの電圧が低下した状態でシフトポジションを切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 → ハイブリッドシステムが作動できないときは「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 422) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。 → ひんぱんに表示されるときは補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておく、補機バッテリーあがりをおこすおそれがあるため、ダイハツサービス工場に補機バッテリーの点検を受けてください。
シフト切りかえ一時不可 しばらくしてから 再度操作してください  (点滅)	シフトポジションを P から P 以外、および P 以外から P に切りかえる操作を短時間にくり返した 警告ブザーが鳴ります。 → 約 20 秒待ってからシフトポジションを切りかえる
B レンジにできません 切りかえる場合は D にしてからシフト操作  (点滅)	シフトポジションが P または N のときに B に切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → シフトポジションを D にしてから B に切りかえる
駆動レンジにできません ハイブリッドシステムを 始動後に操作  (点滅)	パワースイッチが ON モードのとき (READY インジケーター消灯中) に、シフトポジションを R・D または B に切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → ハイブリッドシステムを始動後、シフトポジションを R・D または B[*] に切りかえる [*] B に切りかえるときは、D にしてから B に切りかえてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
シフト切りかえ不可 切りかえる場合は ブレーキを踏みシフト操作  (点滅)	ブレーキペダルを踏まずにシフトポジションをPから切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 → シフトポジションをPから切りかえるときは、ブレーキペダルを踏んで切りかえる
Nレンジに切りかえました Rにする場合は Dにしてからシフト操作  (点滅)	シフトポジションがRのときにBに切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 シフトポジションがNに切りかわります。 → シフトポジションをDにしてからBに切りかえる
Nレンジに切りかえました Dにする場合は 停車しシフト操作  (点滅)	車両が後退しているときにシフトポジションをDに切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 シフトポジションがNに切りかわります。 → 車両を停車させてからシフトポジションを切りかえる
Nレンジに切りかえました Rにする場合は 停車しシフト操作  (点滅)	車両が前進しているときにシフトポジションをRに切りかえようとした 警告ブザーが鳴ります。 シフトポジションがNに切りかわります。 → 車両を停車させてからシフトポジションを切りかえる
Nレンジに切りかえました Pにする場合は 停車しPスイッチ操作  (点滅)	走行中にPポジションスイッチを押した 警告ブザーが鳴ります。 シフトポジションがNに切りかわります。 → シフトポジションをPにする場合は、車両を完全に停車させてからPポジションスイッチを押す → 走行を続ける場合は、シフトポジションをDまたはRに切りかえる

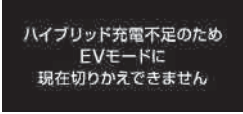
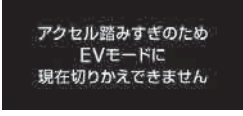
警告メッセージ	警告内容・対処方法
補機バッテリー充電不足 駐車時 パーキングブレーキをかけ 取扱書確認 	補機バッテリーが充電不足 パーキングロック機構が働かない可能性があります。 ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合はパーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 → 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください → 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。 → ハイブリッドシステムが作動できないときは「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 422) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。 → 表示が消えないときは補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりをおそれがあるため、ダイハツサービス工場では補機バッテリーの点検を受けてください。
シフト系故障 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書を確認 	シフト制御システムの故障 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場にて点検を受けてください ・ ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 ・ パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・ パワースイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
シフト系故障 取扱書を確認 	シフト制御システムの故障 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場にて点検を受けてください - 放置すると、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
シフト系通信故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認 	シフト制御システムの通信故障 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください ・ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。 ・シフトポジションをPに切りかえられない可能性があります。駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・自動Pポジション切り換え機能（→ P. 151）が働かない可能性があります。パワースイッチをOFFにする前に確実にPポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯またはPポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションがPであることを必ず確認してください。 ・パワースイッチをOFFにできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけるとOFFにすることができます。
ヘッドランプシステムチェック  (点灯または点滅)	LEDヘッドランプシステム★の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで、消灯させることができます。

表示メッセージ	表示内容・対処方法
	駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期 フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 → ダイハツサービス工場で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受ける
    	EV ドライブモードに切りかえできない状況 ※ EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示が出る場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 → EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 146 を参照してください。

表示メッセージ	表示内容・対処方法
EVモードが解除されました ハイブリッド充電不足のためEVモードが解除されました EV速度域超過のためEVモードが解除されました アクセル踏みすぎのためEVモードが解除されました  (3 回点滅)	EV ドライブモードが自動解除された ※ EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示が出る場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく走行する
LDA 約50km/h以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）が使用できない → 約 50km/h より速い車速で走行する
LDA 現在の車速では 使用できません	車速が LDA（レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）の作動可能範囲を超えたため、使用できない → 車速を落として走行する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 146 を参照してください。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

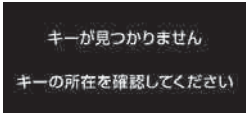
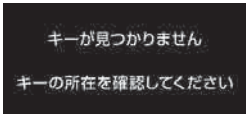
■ 警告ブザーについて

→ P. 369

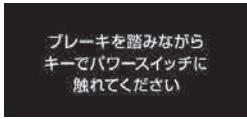
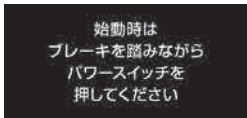
 注意

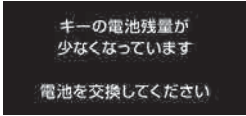
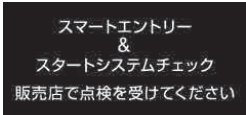
■ 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」がひんばんに表示されるとき

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、ダイハツサービス工場で補機バッテリーの点検を受けてください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
なし	なし		自動電源 OFF 機能が作動した → 次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電する
連続音	なし	  (点滅)	シフトポジションがP以外の状態でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた → シフトポジションを P にする
連続音	連続音	  (交互に表示)  (点滅)	シフトポジションがP以外の状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → シフトポジションを P にする → 電子キーを車内にもどす
1 回	なし	  (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした → 電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する 正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	3 回	キーが見つかりません キーの所在を確認してください  (点滅)	パワースイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトポジションがPの状態でパワースイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → パワースイッチを OFF にする → 電子キーを車内にもどす
1 回	5 秒間 吹鳴	キーが見つかりません キーの所在を確認してください 電源をOFFしてください (交互に表示)  (点滅)	パワースイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	5 秒間 吹鳴	  (点滅)	・ 車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした ・ 車内に電子キーを置いたままフロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	  (点滅)	・ メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できなかった ・ パワースイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた → ブレーキを踏みながら電子キーでパワースイッチにふれる
1 回	なし	  (点滅)	パワースイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリモードに2回した → ブレーキを踏んでパワースイッチを押す 電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法 (→ P. 420) でパワースイッチに電子キーをふれた → ブザーが鳴ってから10秒以内にパワースイッチを押す

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	  (点滅)	シフトポジションが N の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている → シフトポジションを P にしてからハイブリッドシステムを始動する
1 回	なし	 	電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→ P. 337)
1 回	なし	  (点滅)	スマートエントリー & スタートシステムの異常を検知した → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けて下さい

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 384

■ 警告ブザーについて

→ P. 369

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 331 を参照してください）

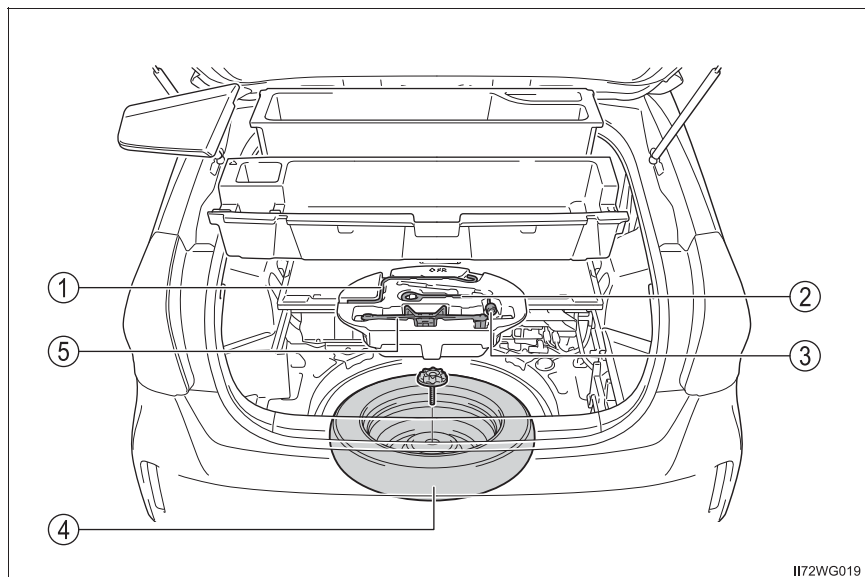
警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 355）

工具とジャッキ位置

1172WG019

① ジャッキハンドル

④ 応急用タイヤ

② けん引フック

⑤ ジャッキ

③ ホイールナットレンチ

 警告**■ ジャッキの使用について**

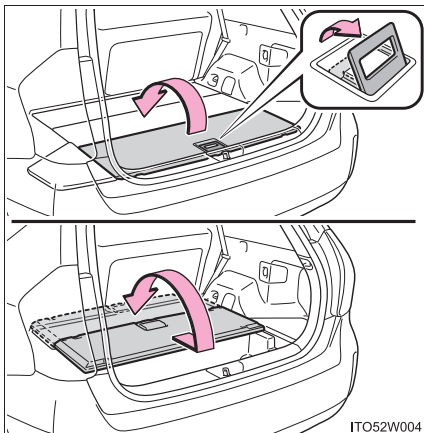
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

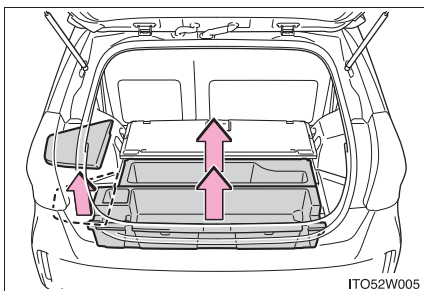
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

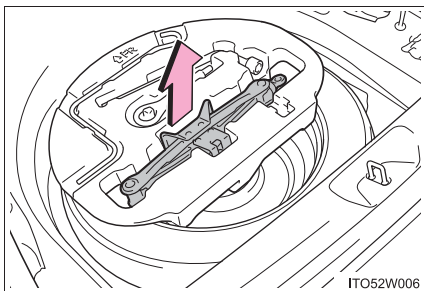
- 1 デッキボードを開け、車両前方へ動かす



- 2 助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダーボックスを取りはずす

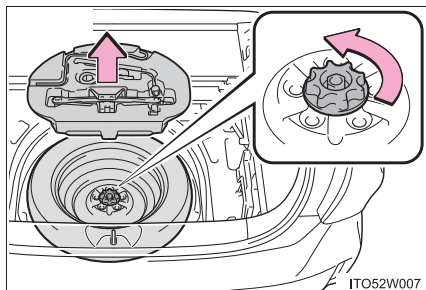


- 3 ジャッキを取り出す



応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードとデッキアンダーボックスを取りはずす (→ P. 392)
- 2 ツールホルダーを車両から降ろし、留め具を取りはずして応急用タイヤを取り出す



⚠ 警告

■ サービスプラグについて

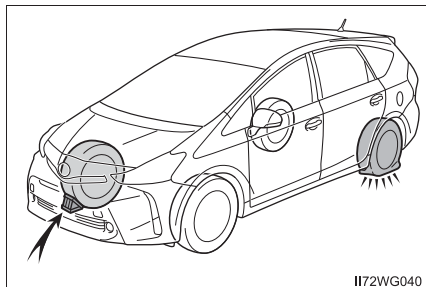
ツールホルダーや応急用タイヤを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。(→ P. 62)

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

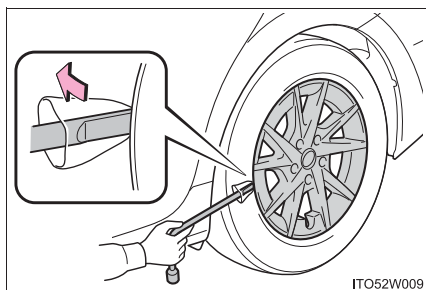


II72WG040

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

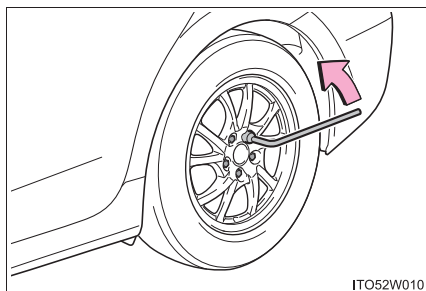
※ 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入することができます。

- 2 ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。



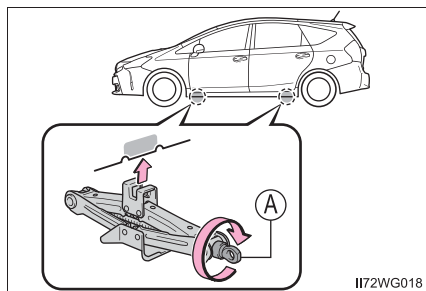
ITO52W009

- 3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

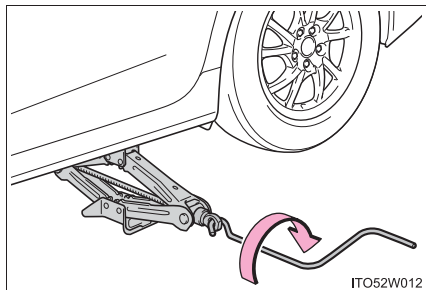


ITO52W010

- 4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

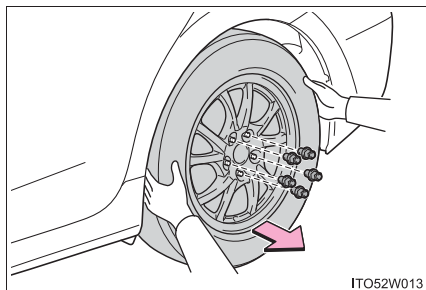


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



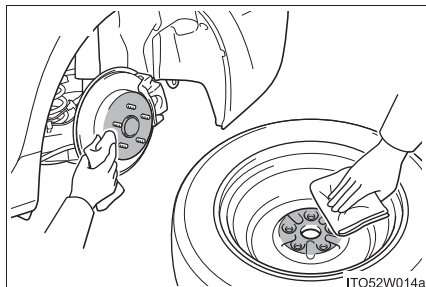
 警告**■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 333)

タイヤの取り付け

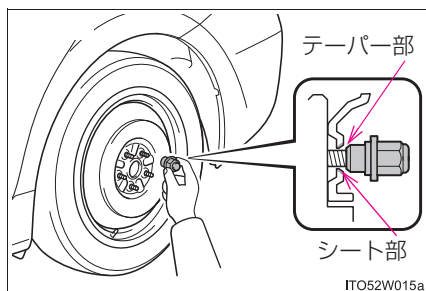
- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

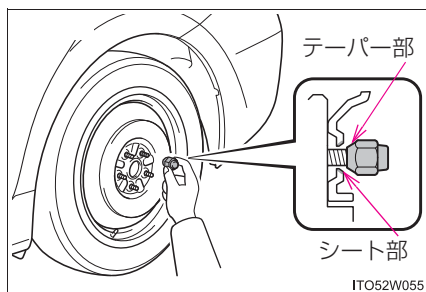


- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

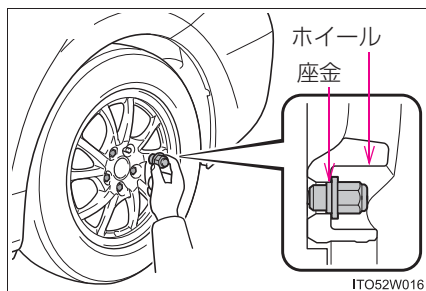
アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

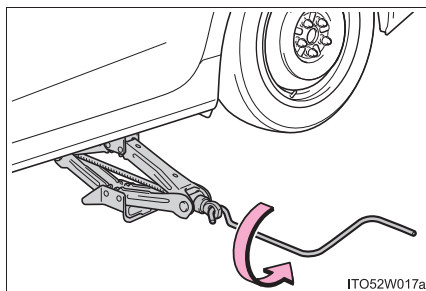


スチールホイールからスチールホイール（応急用タイヤを含む）にかえるときは、ホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



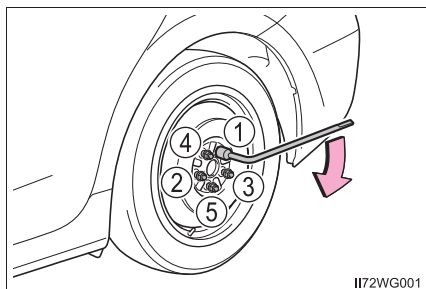
アルミホイールからアルミホイールにかえるときは、ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

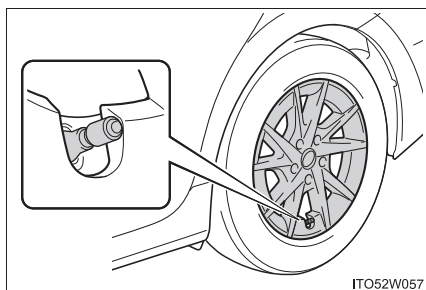
締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)

**5** ホイールキャップ装着車は、ホ
イールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを
合わせてホイールキャップを確実に
取り付けます。

※ 応急用タイヤには取り付けること
はできません。

**6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 437)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

 警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| ・ ABS | ・ EPS |
| ・ ブレーキアシスト | ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) |
| ・ VSC | ・ IPA (インテリジェントパーキングアシスト) ★ |
| ・ TRC | ・ オートマチックハイビーム |
| ・ レーダークルーズコントロール | |
| ・ プリクラッシュセーフティシステム | |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 402）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

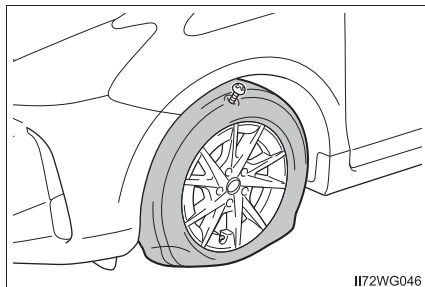
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとける
- シフトポジションをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



I172WG046



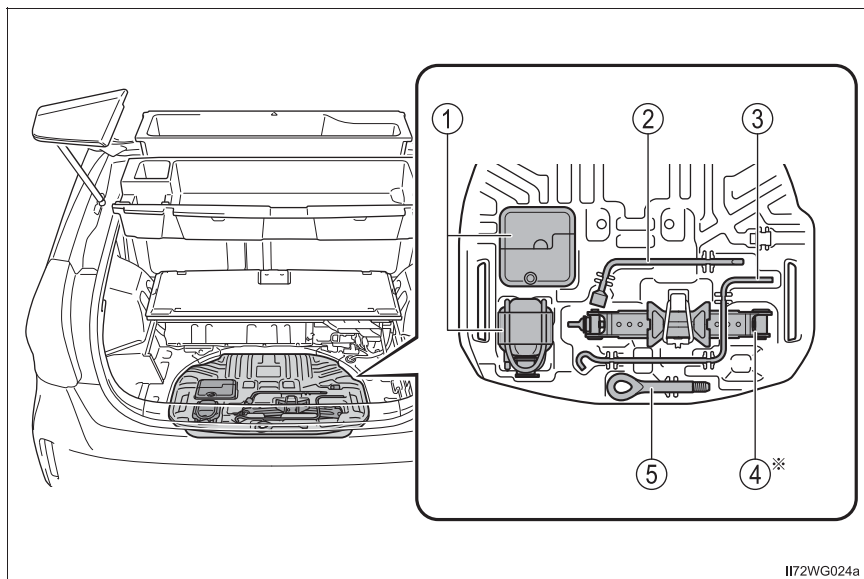
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

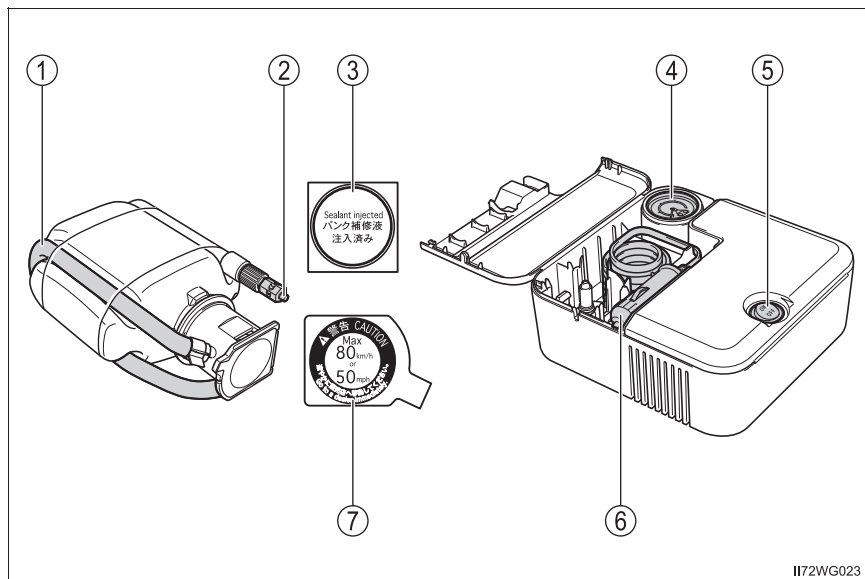
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- ① タイヤパンク応急修理キット
- ② ホイールナットレンチ
- ③ ジャッキハンドル
- ④ ジャッキ
(※ 使用方法：→ P. 395)
- ⑤ けん引フック

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

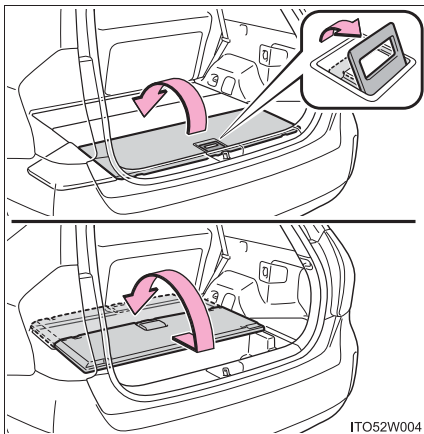


I172WG023

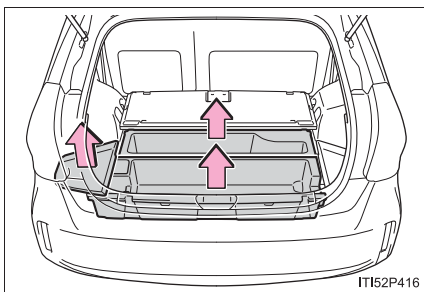
- | | |
|-----------------|-----------|
| ① ホース | ⑤ スイッチ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑥ 電源プラグ |
| ③ パンク補修液注入済みラベル | ⑦ 速度制限ラベル |
| ④ 空気圧計 | |

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

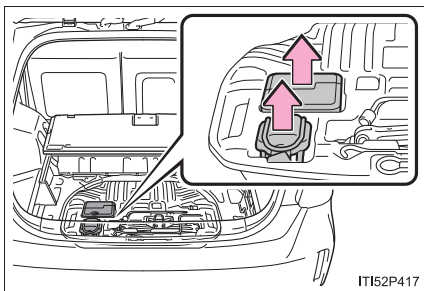
- 1** デッキボードを開け、車両前方へ動かす



- 2** 助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダーボックスを車両から降ろす



- 3** 応急修理キットを取り出す



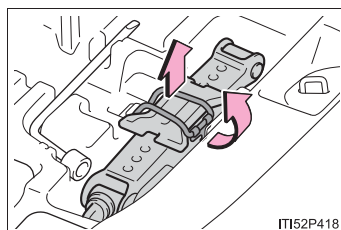
 知識

■ ジャッキ・工具の取り出し方

1 ジャッキハンドルを取り出す

2 ジャッキを取り出す

バンドのフックをはずしてください。

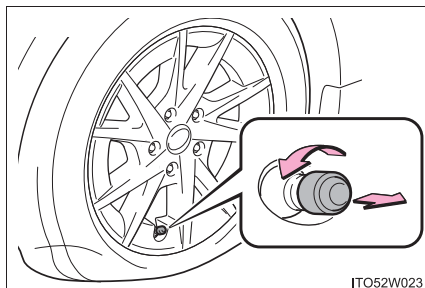
 警告

■ サービスプラグについて

タイヤパンク応急修理キットを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。(→ P. 62)

応急修理するときは

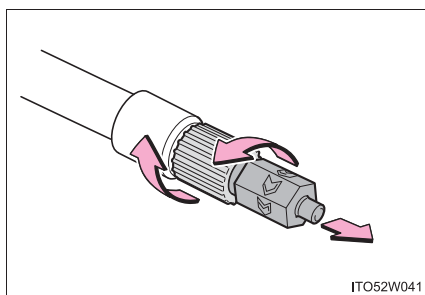
- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



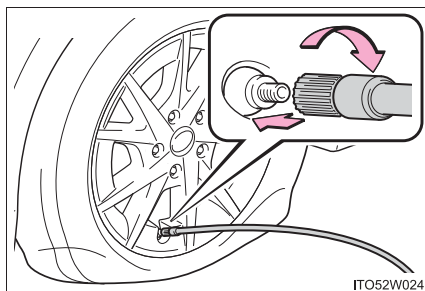
- 3 ボトルの保護フィルムをはがし
ホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がし
キャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液
注入済ラベルは所定の位置へ貼り付け
ます。(手順9へ)

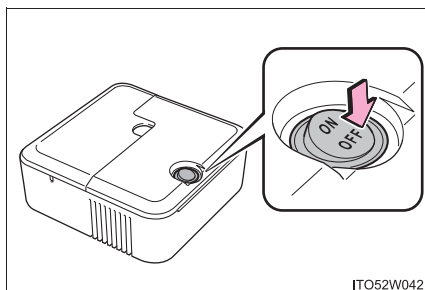
空気逃がしキャップは再度使用するた
め、なくさないように保管してくださ
い。



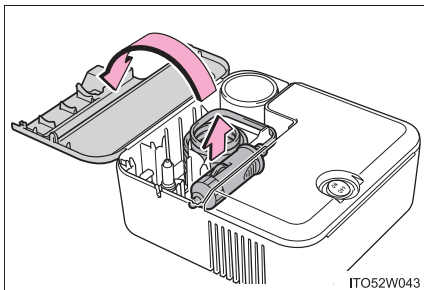
- 4 ボトルのホースをパンクしたタ
イヤのバルブに接続する
ホース先端を時計まわりにまわして
しっかりと最後までねじ込みます。



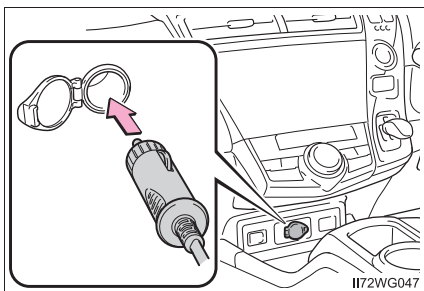
- 5 コンプレッサーのスイッチが
OFFであることを確認する



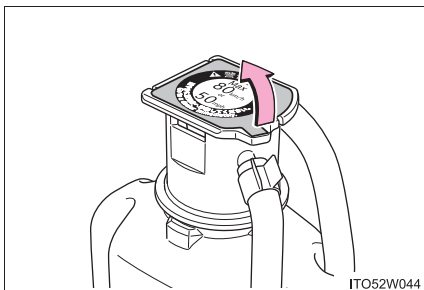
- 6 フタを開けてコンプレッサの電源プラグを取り出す



- 7 コンプレッサの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→ P. 298)

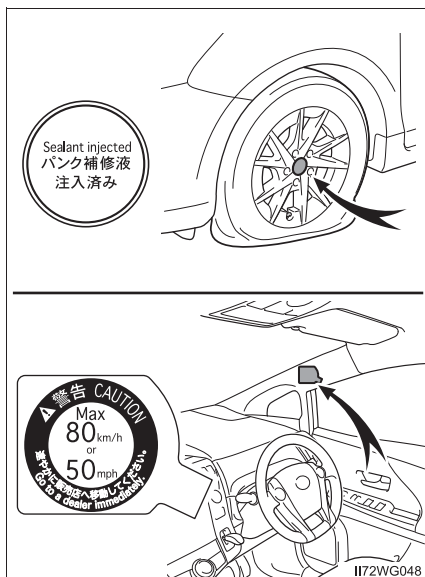


- 8 速度制限ラベルをはがす



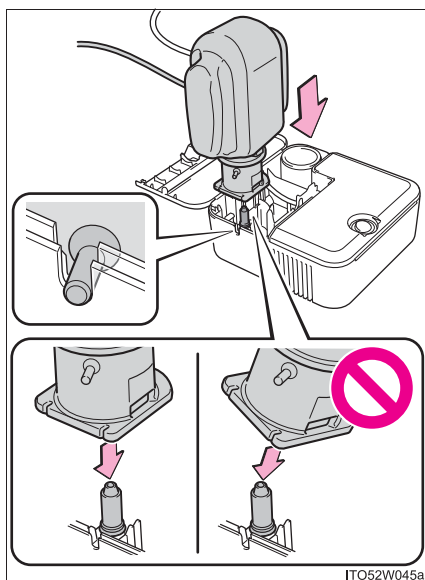
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができなかった場合は、ダイハツサービス工場にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

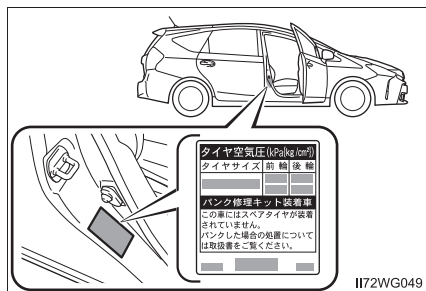


10 ボトルをコンプレッサーに接続する

左の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



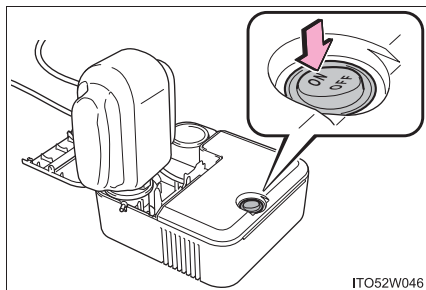
- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 332)



I172WG049

- 12 ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 140)

- 13 コンプレッサーのスイッチをONにする



ITO52W046

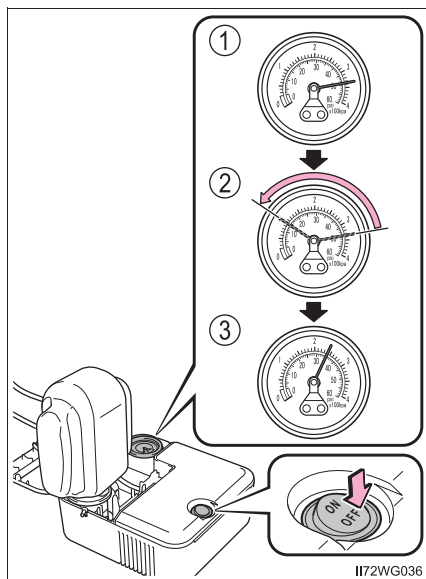
- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が急上昇する
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 413）



I172WG036

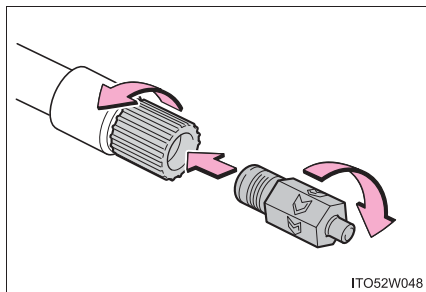
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

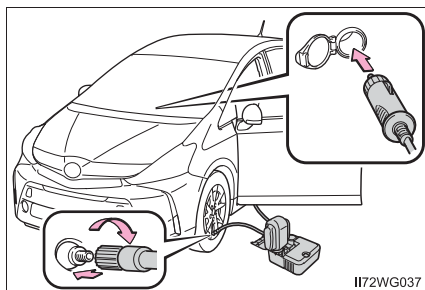
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



ITO52W048

- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する
- 20** 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



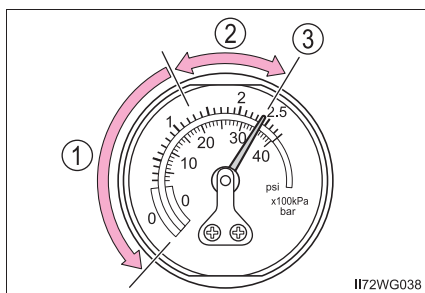
I172WG037

- 21** コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 437）の場合：手順**23**へ

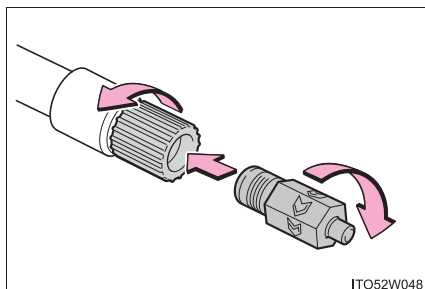


I172WG038

- 22** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順**20**から実施する

- 23** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



I172WG048

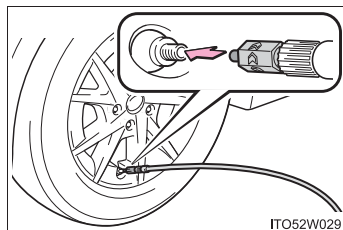
- 24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する
- 25** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してダイハツサービス工場へ行く

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

 知識

■ 空気を入れすぎてしまったときは

- 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす
- 2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはダイハツサービス工場にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温が－40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

 警告**■ タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

 警告

- パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・再度空気圧を測ってください。130kPa未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

**注意****■ 応急修理をするときは**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認ください、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 140）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。＊（→ P. 420）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。（→ P. 64）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。＊（→ P. 67）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。＊
（→ P. 143, 372）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 419）

＊ シフトポジションをPから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 422）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 321）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 422）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
（→ P. 321）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

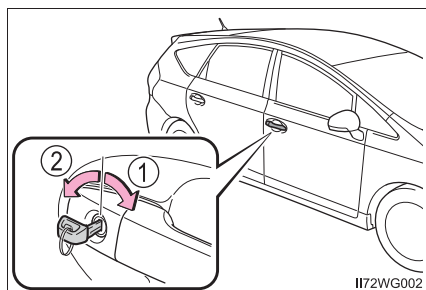
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→ P. 106)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー (→ P. 89) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



1172WG002

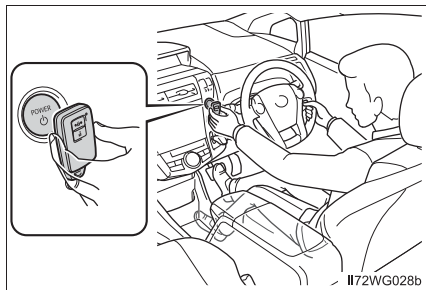
ハイブリッドシステム始動の方法

- 1 シフトポジションがPの状態ブレーキペダルを踏む

- 2 電子キーのダイハツエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



1172WG028b

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する

- 4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

 知識**■ ハイブリッドシステム停止のしかた**

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、パワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 337)

■ パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順³で、ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 142)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 439)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 105)

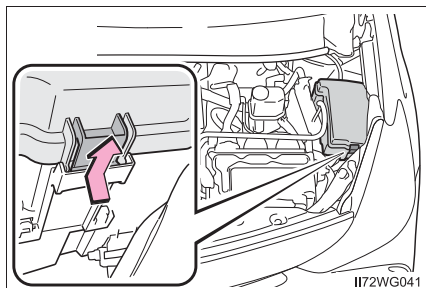
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

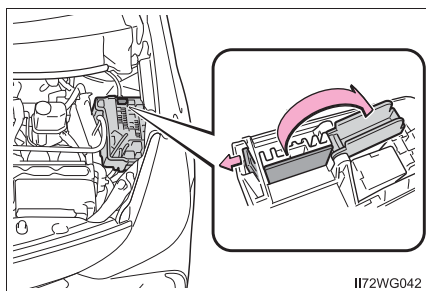
- 1 ボンネットを開けて(→P. 320)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

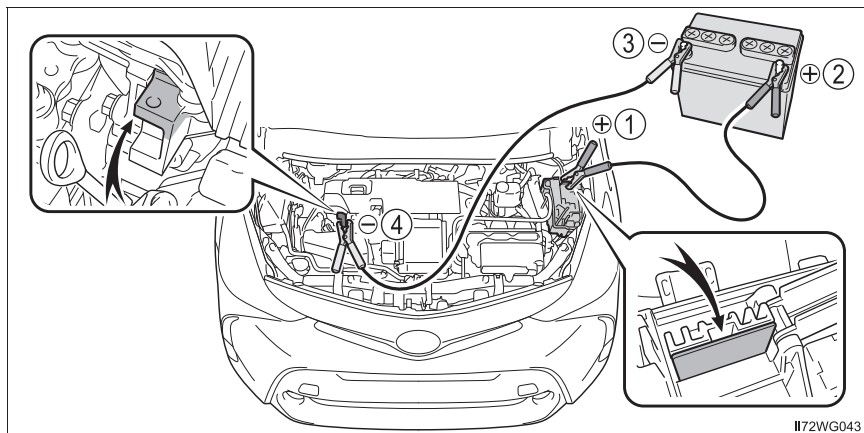


- 2 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



1172WG043

- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ
- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はダイハツサービス工場にご連絡ください。
- 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける
ヒューズボックスのカバーは、奥にあるツメ（2箇所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにダイハツサービス工場での点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- シフトポジションがPの状態で補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジション表示灯で確認してください。

■補機バッテリーについて

→ P. 321

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

警告**■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

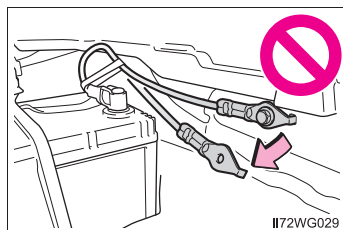
早めにダイハツサービス工場で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

→ P. 322

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 367）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒートに関する警告メッセージが表示される（→ P. 376）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

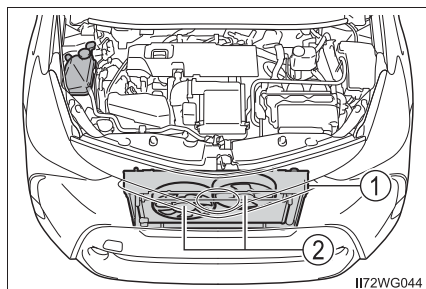
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

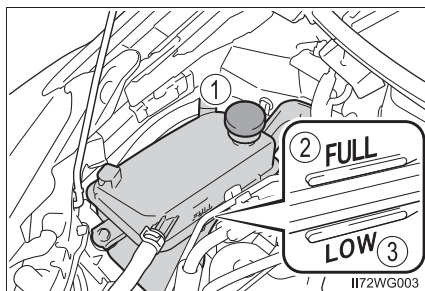
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



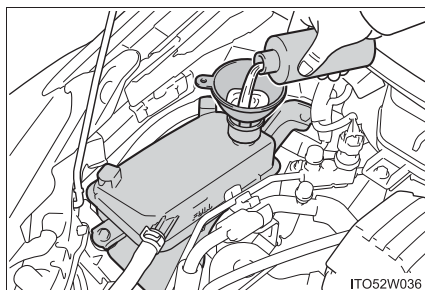
- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバタンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

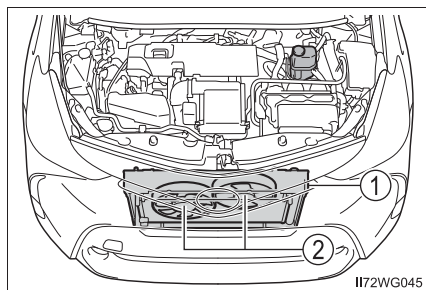
■ マルチインフォメーションディスプレイにオーバーヒートに関する警告メッセージが表示されたとき (→ P. 376)

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部(放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。

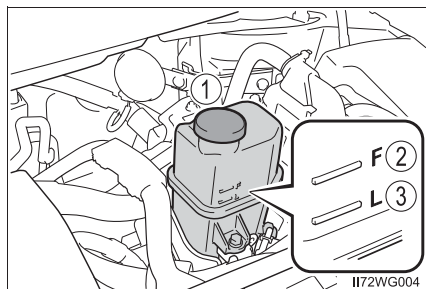


- 4 冷却水の量がリザーバタンクの “F” (上限) と “L” (下限) のあいだにあるかを点検する

① リザーバタンク

② “F” (上限)

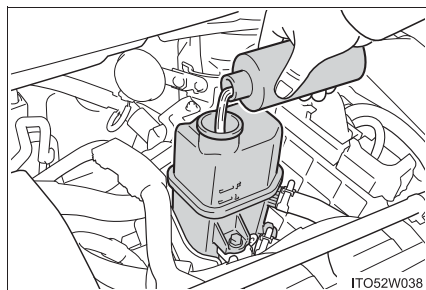
③ “L” (下限)



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くダイハツサービス工場 で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してダイハツサービス工場に連絡する

表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です
ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、ダイハツサービス工場に連絡してください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、パワースイッチ上のインジケーターとREADY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ （指定燃料・オイル量 など）	434
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	439
--------------------------	-----

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。ダイハツ車には最も適した純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	45

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
アミックス EXTRA 0W-20※ ² アミックス 5W-30 SN	3.9	4.2

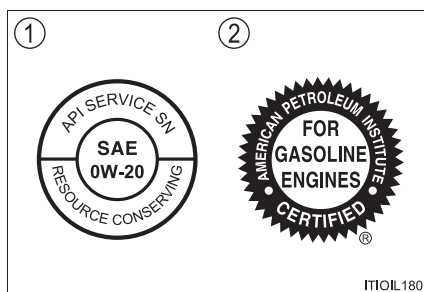
※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

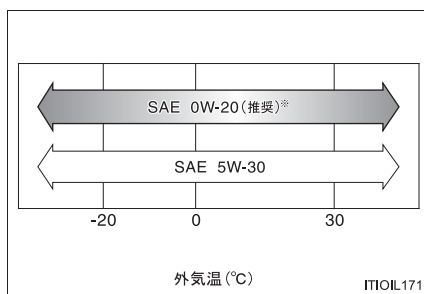
API規格SN／RC、SM／ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
 粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)		
	ガソリンエンジン		パワー コントロール ユニット
	廃熱回収器 付き ※	廃熱回収器 なし	
アミックスロングライフ クーラント (高防錆力タイプ) 凍結保証温度 濃度 30% - 12 ℃ 濃度 50% - 35 ℃	6.9	6.5	2.7

※ 寒冷地仕様車に装着されています。

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正オートフルード WS※	3.4

※ 交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	79

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、196N (20kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (31kgf) のときのノッチ ※ 数	8 ~ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	205/60R16 92V	16×6 1/2J	240 (2.4)	230 (2.3)
	215/50R17 91V	17×7J	230 (2.3)	220 (2.2)
応急用 タイヤ★	T145/70D17 106M	17×4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	55 60
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	21
	番号灯	5
	リヤフォグランプ★	21
車内	バニティランプ	8
	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ ・ パノラマルーフ非装着車 ・ パノラマルーフ装着車	5 8
	リヤインテリアランプ	8
	ドアカーテシランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ZVW41	2ZR-FXE (1.8L ガソリン)	5JM	FF（前輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択し、**⊙** スイッチを押す
- 2 **▲** または **▼** を押して変更する項目を選択し、**⊙** スイッチを押す
- 3 **▲** または **▼** を押して設定したい項目を選択し、**⊙** スイッチを押す

設定を終了する場合は、**↶** スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ② ダイハツサービス工場で設定変更可能
- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→ P. 88, 92, 103)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	—	○
作動の合図音量 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF ~ レベル 7	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの 自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 88, 92, 103)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
スマートエントリー&スタート システム	あり	なし	—	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 88, 92)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 155)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ライトセンサーの感度調整	標準	- 2 ~ 2	—	○
LED デイライトの作動	あり	なし	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

■ イルミネーション (→ P. 284)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	—	○
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	○

■ メーター (→ P. 74)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
周囲の明るさにより、ディスプレイ照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	レベル 0	レベル - 2 ~ +2	—	○
周囲の明るさにより、減光したディスプレイ照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	レベル 0	レベル - 2 ~ +2	—	○
言語	日本語	英語	○	○
割り込み表示	する	しない	○	○
IPA (インテリジェントパーキングアシスト) ★アシストモード	ON	OFF	○	○
IPA (インテリジェントパーキングアシスト) ★アシスト表示モード			○	○
		—	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ LDA (レーンディパーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]) (→ P. 191)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ステアリング制御機能 (操舵支援)	有	無	○	—
警報ブザーが吹鳴する感度 (警報感度)	普通	高	○	—
ふらつき検知機能	有	無	○	—
ふらつき検知機能の感度調節	普通	低	○	—
		高		

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (→ P. 181)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
プリクラッシュセーフティ機能	ON	OFF	○	—
警報タイミングの調節	中間	遠い	○	—
		近い		

■ エアコン (→ P. 276)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○
エコドライブモード時に暖房／冷房の作動を抑える	する	しない	—	○

■ 車両接近通報装置 (→ P. 59)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
通報音量調整	レベル 0	レベル +1	—	○
		レベル +2		

■ パノラマルーフシェード★ (→ P. 307)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアロック連動自動閉機能	あり	なし	—	○

知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

- セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- セッティング画面表示中に走行し始めた

警告

■ カスタマイズを行うとき

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....446

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....449

アルファベット順
さくいん.....450

五十音順さくいん.....451

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、ダイハツサービス工場でダイハツ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 89）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。（→ P. 91）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 337）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 142）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 106）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 95）

故障かな？と思ったら**ハイブリッドシステムが始動できない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 140）
- シフトポジションは P になっていますか？（→ P. 149）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 104）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 420）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 422）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 123）

**パワースイッチが自動的に OFF になった**

- 一定時間アクセサリモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 142）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 449）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 366、370 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 389）
- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 401）



立ち往生した

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 432）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 385
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 337
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 104
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 387

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 368
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 366
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 368
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 133
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 207
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 181
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）の車線逸脱警報機能が作動した	P. 191

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A / C

(エアコン) 276

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 264, 367

ECB

(電子制御ブレーキシステム) 264

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング) 264, 367

FF

(フロントエンジンフロントドライブ) 438

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 435

IPA

(インテリジェントパーキングアシスト) 212

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 46, 50

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 191

PCS

(プリクラッシュセーフティシステム) ... 181, 367, 371, 375, 377

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティ
コントロール) 264, 367

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 34, 367

TRC

(トラクションコントロール) 264, 367

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 264, 367

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
（バッテリーあがりの処置）.....	422
アームレスト（リヤシート）.....	305
RF 送信機.....	9
IPA スイッチ	213
アウターミラー（ドアミラー）... 121	
操作	121
格納のしかた	121
ミラーヒーター	278
アクセサリーコンセント	299
アクセサリーソケット	298
アクセサリーモード.....	142
アシストグリップ.....	306
アップーグローブボックス	288
アンチロックブレーキ	
システム（ABS）.....	264
アンテナ	
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	103
ラジオ	312

い

EV ドライブモード.....	146
イグニッションスイッチ	
（パワースイッチ）.....	140
位置の切りかえ.....	142
自動電源 OFF 機能.....	142
車両を緊急停止するには	358
ハイブリッドシステムの	
始動のしかた.....	140
位置交換	
（タイヤローテーション）.....	331
イベントデータレコーダー	
（EDR）.....	8
イモビライザーシステム.....	67
イルミネーテッド	
エントリーシステム.....	286
インストルメントパネル	
照度調整スイッチ.....	76
インジケーター（表示灯）.....	72
ハイブリッドシステム	
インジケーター	84
表示灯	72
READY	140
インテリアランプ	285, 286
インナーミラー	120

う

ウインカー (方向指示灯)	153
電球 (バルブ) の	
交換	348, 349, 351
方向指示レバー	153
ワット数	438
ウインドウ	123, 167
ウォッシャー	167, 170
パワーウインドウ	123
フロントワイパー	
デアイサー	279
リヤウインドウ	
デフォッガー	278
ウインドウロックスイッチ	123
ウォーニングランプ	
(警告灯)	71, 366
ウォッシャー	167, 170
液の補充	330
スイッチ	167, 170
タンク容量	437
冬の前の準備・点検	271
動けなくなったときは	
(スタック)	432
運転	128
雨の日の運転	129
運転を補助する装置	264
寒冷時の運転	271
正しい運転姿勢	26
手順	128
ハイブリッド車運転の	
アドバイス	269
運手席小物入れ	291
運転席シートベルト	
非着用警告灯	368

え

エアコン	276
オートエアコン	276
花粉除去機能	278
曇り取り	
(フロントウインドウ	
ガラス)	278
フィルターの交換	326
エアバッグ	34
SRS エアバッグ警告灯	367
お子さまのための注意	35
改造・廃棄	37
作動条件	38, 39
正しい姿勢	26
配置	34
エネルギーモニター	79
LED デイライト	157
LDA (レーンディパーチャー	
アラート [ステアリング	
制御機能付き])	191
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	264
機能	264
パワーステアリング警告灯	367

エンジン

エンジン警告灯	366
エンジンルームから	
蒸気が出ている	427
オーバーヒート	427
緊急時の停止方法	358
ハイブリッドシステムが	
始動できない	418
ハイブリッドシステムの	
始動方法	140
パワースイッチ	
(イグニッション	
スイッチ)	140
ボンネット	320
エンジンオイル..... 434	
冬の前の準備・点検	271
メンテナンスデータ	434
油圧警告メッセージ	375
容量	434
エンジンスイッチ	
(パワースイッチ)	140
自動電源 OFF 機能	142
車両を緊急停止するには	358
モードの切りかえ	142
エンジンフード	
(ボンネット)	320

お

オーディオ操作スイッチ	310
オートエアコン	276
オートマチックハイビーム	158
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	
警告灯	368
作動について	157

オーバーヒート	427
オープナー	
給油扉	173
バックドア	98
ボンネット	320
オイル (エンジンオイル).....434	
応急用タイヤ.....389	
空気圧	437
交換方法	389
お子さまを乗せるとき.....42	
ウインドウロックスイッチ	123
エアバッグ	35
お子さまの安全のために	42
キーの電池	338
子供専用シート	43
シートの取り扱いに関する	
警告	115
シートベルトの着用	31
チャイルドシートの取り付け ...	50
チャイルドプロテクター	95
発炎筒の取り扱いに関する	
警告	357
バックドアに関する警告	100
バッテリーに関する警告	425
パワーウインドウに関する	
警告	125
オドメーター.....75	
機能	75
表示の切りかえ・	
リセットボタン	76

か

カーテンシールドエアバッグ	34
カードホルダー	292
カーペット	
洗浄	318
フロアマットの取り付け方	24
外気温表示	281
回生ブレーキ	60
外装の電球（バルブ）	342
交換要領	342
ワット数	438
ガス欠になったとき	64
カスタマイズ機能	439
ガソリンスタンドでの情報	472
型式	438
カップホルダー	289
カメラ	
IPA（インテリジェント	
パーキングアシスト）	253
オートマチックハイビーム	158
白線認識用カメラ（LDA）	191
ガラスの曇り取り	
（リヤウインドウ	
デフォグガー）	278
ガレージジャッキ	323
冠水路走行	137
寒冷時の運転	271

き

キー	88
キーナンバープレート	88
キーの構成	88
キーレスエントリー	88, 103
キーをなくした	89, 91
正常に働かない	420
施錠・解錠ができない	420
電子キー	88
電池が切れた	337, 420
ハイブリッドシステムが	
始動できない	418
メカニカルキー	89
ワイヤレスリモコン	88
キーレスエントリー	
スマートエントリー&	
スタートシステム	103
ワイヤレスドアロック	88
きしみやひっかき音が	
聞こえる（ブレーキパッド	
ウェアインジケーター）	133
給油	172
給油のしかた	172
メンテナンスデータ	434
給油後平均燃費	79
緊急時シートベルト固定機構	31
緊急始動機能	
（ハイブリッドシステム）	419

緊急時の対処

オーバーヒートした	427
キーの電池が切れた	337, 420
キーをなくした	89, 91
警告灯がついた	366
警告メッセージが 表示された	370
けん引.....	359
故障したときは	354
車両を緊急停止する	358
スタックした	432
電子キーが 正常に働かない	420
ハイブリッドシステムが 始動できない	418
発炎筒.....	356
バッテリーがあがった.....	422
パンクした	389, 401
緊急停止システム.....	63
緊急ブレーキシグナル.....	265

く

空気圧 (タイヤ).....	437
クーラー オートエアコン	276
区間距離計 (トリップメーター)	75
機能	75
切りかえ・ リセットボタン	76
駆動用電池	62
充電について	60
搭載位置.....	62
冷却用吸入口	63

曇り取り

フロントウインドウガラス	278
ミラーヒーター.....	278
リヤウインドウ デフォッガー.....	278
クラクション (ホーン).....	118
クリアランスランプ (車幅灯).....	155
スイッチ	155
電球 (バルブ) の 交換.....	347, 351
ワット数	438
クリップ フロアマット	24
クルーズコントロール レーダークルーズ コントロール.....	200
グローブボックス	288
グローブボックスランプ.....	288

け

警音器 (ホーン)	118
計器類 (メーター)	74
警告灯/表示灯.....	70
照度調整	76
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	78
メーター	74

警告灯	71, 366
ABS & ブレーキアシスト	367
SRS エアバッグ	367
エンジン	366
シートベルト非着用	368
充電	366
水温	367
スリップ表示灯	367
燃料残量	368
パワーステアリング	367
半ドア	368
PCS	367
プリテンショナー	367
ブレーキ	366
ヘッドランプレベリング	368
マスターウォーニング	368
警告ブザー	
シートベルト非着用	368
車線逸脱警報機能	197
接近警報（レーダークルーズ コントロール）	207
パーキングブレーキ 未解除走行時	366
半ドア	93, 104, 368
ブレーキ	366
リバース	150
警告メッセージ	370
警告ラベル （ハイブリッドシステム）	62
化粧ミラー （バニティミラー）	296

けん引	359
けん引のしかた	359
フックの搭載場所	390, 403
フックの取り付け	361

こ

交換	
キーの電池	337
タイヤ	389
電球（バルブ）	342
ヒューズ	339
ワイパーゴム	328
工具（ツール）	390, 403
航続可能距離	79
後退灯（バックアップランプ） 電球（バルブ）の交換	349
ワット数	438
高電圧部位	62
コートフック	305
子供専用シート	43
選択方法	43
取り付け方	50
小物入れ	291
コンセント	299
コンソールボックス	288
コンライト （自動点灯・消灯装置）	155

さ

サービスプラグ	62
サイドエアバッグ	34
サイドドア	92
サイド方向指示灯	153
電球（バルブ）の交換	351
方向指示レバー	153
ワット数	438

サイドミラー（ドアミラー）.....	121
操作	121
格納のしかた	121
ミラーヒーター	278
三角表示板等収納スペース	295
サンシェード	
パノラマルーフシェード.....	307
サンバイザー	296

し

シート	110, 113
子供専用シート	43
正しい運転姿勢	26
調整	110, 113
手入れ.....	317
ヘッドレスト	116
シートベルト	28
お子さまの着用	31
緊急時シートベルト	
固定機構	31
シートベルト非着用警告灯	368
高さ調節.....	31
正しく着用するには	28
着け方、はずし方	28, 29, 30
手入れ.....	318
妊娠中の方の着用	32
シートベルト非着用警告灯	368
シートベルトプリテンショナー.....	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	367
事故が発生したとき	
（ハイブリッド	
システムの注意）.....	65
室内灯（インテリアランプ）.....	284

始動のしかた	140
シフトポジション	149
シフトレバー	148
シフトポジションの	
切りかえ	148
シフトレバー照明.....	284
Pポジションスイッチ	149
リバース警告ブザー	150
締め付けトルク（ホイール）.....	398
ジャッキ	
ガレージジャッキ.....	323
車載ジャッキ	390, 403
ジャッキハンドル	390, 403
車幅灯.....	155
電球（バルブ）の	
交換	347, 351
ランプスイッチ	155
ワット数	438
車両型式.....	438
車両仕様（スペック）.....	434
車両接近通報装置	59
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには.....	358
収納装備.....	287
ジュニアシート	44
瞬間燃費.....	79
仕様（車両仕様）.....	438
助手席シートベルト	
非着用警告灯	368

す

スイッチ

EV ドライブモード.....	146
イグニッション	140
ウインドウロック	123
ウォッシャー	167, 170
LDA (レーンディパーチャー アラート [ステアリング 制御機能付き])	194
エンジンスイッチ	140
オーディオ	310
オートマチックハイビーム....	158
シート調整	110
車間距離切りかえ (レーダー クルーズコントロール)	206
車両接近通報一時停止.....	59
TRIP.....	76
電話	310
ドアミラー	121
ドアロック	94
トーク (音声認識)	310
ドライブモードセレクト.....	263
ハザードランプ	355
パノラマルーフシェード.....	307

パワーウインドウ	123
パワースイッチ	140
非常点滅灯 (ハザードランプ)	355
フォグランプ	164
方向指示レバー.....	153
ホーン (警音器).....	118
メーター操作スイッチ	78
メーター表示切りかえ	76
ランプ	155
リヤウインドウ デフォッガー.....	278
レーダークルーズ コントロール.....	200
ワイパー	167, 170
スタック	432
ステアリングアシステッド ピークルスタビリティ コントロール (S-VSC).....	264
ステアリングホイール (ハンドル)	118
位置調整	118
スイッチ	310
ホーン (警音器).....	118
ストップランプ (制動灯) 緊急ブレーキシグナル.....	265
電球 (バルブ) の交換	351

スノータイヤ（冬用タイヤ）.....	271
スピードメーター.....	75
スペアタイヤ	
（応急用タイヤ）.....	389
空気圧.....	437
交換方法.....	389
スペック（車両仕様）.....	434
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	103
アンテナの位置.....	103
カスタマイズ設定.....	439
緊急始動機能.....	419
警告ブザー.....	104
警告メッセージ.....	385
作動範囲.....	104
正常に働かないとき.....	420
節電機能.....	105
電波がおよぼす	
影響について.....	109
ドアの解錠・施錠.....	92, 97
ハイブリッドシステムの	
始動.....	140
スモールランプ（車幅灯）.....	155
電球（バルブ）の	
交換.....	347, 351
ランプスイッチ.....	155
ワット数.....	438

せ

清掃.....	312, 317
アルミホイール.....	313
外装.....	312
シートベルト.....	318
内装.....	317
パノラマroof.....	313
レーダーセンサー.....	178
制動灯	
緊急ブレーキシグナル.....	265
電球（バルブ）の交換.....	351
積算距離計（オドメーター）.....	75
機能.....	75
表示の切りかえ・	
リセットボタン.....	76
セキュリティインジケーター.....	67
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）.....	207
センサー	
オートマチックハイビーム.....	158
ライトセンサー.....	157
レーダーセンサー.....	178
洗車.....	312
前照灯（ヘッドランプ）.....	155
オートレベリングシステム.....	157
電球（バルブ）の	
交換.....	344, 345, 351
ライトセンサー.....	157
ランプ消し忘れ防止機能.....	157
ランプスイッチ.....	155

そ

走行モード (ドライブモード)	263
速度計 (スピードメーター)	75

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)	153
電球 (バルブ) の 交換	348, 349, 351
方向指示レバー	153
ワット数	438
タイヤ	331
応急用タイヤ	389
空気圧	335, 437
交換	389
締め付けトルク	398
チェーン	271
点検	331
パンク応急修理キット	401
パンクしたときは	389, 401
冬用タイヤ	271
ホイールサイズ	437
ローテーション (位置交換)	331
タイヤが空まわりする (スタックした)	432
タイヤチェーン	271

ち

チェーン (タイヤチェーン)	271
チャイルドシート	43
ISOFIX バーでの取り付け	52
シートベルトでの固定	51
選択方法	43
チャイルドプロテクター	95
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	154
操作	154
冬季の注意	272
未解除走行時警告ブザー	366
メンテナンスデータ	436

つ

通算平均燃費	79
ツール (工具)	390, 403

て

手入れ	312, 317
アルミホイール	313
外装	312
シートベルト	318
内装	317
パノラマルーフ	313
レーダーセンサー	178
テールランプ (尾灯)	155
電球 (バルブ) の交換	351
ランプスイッチ	155
デッキアンダーボックス	294

デッキフック	
（荷物固定用フック）	293
デフォッガー	
（リヤウインドウ	
デフォッガー）	278
電気モーター	58, 62
電球（バルブ）	438
交換要領（外装バルブ）	342
ワット数	438
点検基準値	
（メンテナンスデータ）	434
電子キー	88
作動範囲	104
正常に働かないとき	420
電池が切れた	420
電池交換	337
電池交換（キー）	337
電話スイッチ	310

と

ドア	92
スマートエントリー&	
スタートシステム	103
チャイルドプロテクター	95
ドアガラス	123
ドアロックスイッチ	94
バックドア	97
ロックレバー	94
ワイヤレスリモコン	88
ドアカーテシランプ	284
位置	284
ワット数	438
ドアポケット	289
ドアミラー	
操作	121
格納のしかた	121
ミラーヒーター	278

盗難防止装置

イモビライザーシステム.....	67
トークスイッチ.....	310
時計.....	75, 297
時刻を設定する.....	297
表示.....	75
トップテザーアンカー.....	50
ドライブインフォメーション (マルチインフォメーション ディスプレイ).....	79
メーター操作スイッチ.....	78
TRIP スイッチ.....	76
ドライブモード	
セレクトスイッチ.....	263
トラクション	
コントロール (TRC).....	264
トランスミッション.....	148
自動 P ポジション	
切りかえ機能.....	151
シフトダウン制限警告 ブザー.....	150
操作.....	148
メンテナンス データ.....	436
リバース警告ブザー.....	150
トリップメーター.....	75
機能.....	75
切りかえ・リセットボタン.....	76

な

内装

収納装備.....	287
手入れ.....	317

に

荷物

積むときの注意.....	138
デッキフック (荷物固定用フック).....	293
荷室内装備.....	293

ぬ

ぬかるみにはまった

(スタック).....	432
-------------	-----

ね

燃費

エネルギーモニター.....	79
燃費情報 (ドライブ インフォメーション).....	79
燃料.....	434
ガソリンスタンドでの情報.....	472
給油.....	172
種類.....	434
燃料残量警告灯.....	368
容量.....	434
燃料計.....	75

は

パーキングブレーキ.....	154
操作.....	154
冬季の注意.....	272
未解除走行時警告ブザー.....	366
メンテナンスデータ.....	436

パーソナルランプ	285
排気ガス	57
ハイビーム (ヘッドランプ)	155
オートマチックハイビーム	158
電球 (バルブ) の	
交換	345, 351
ランプスイッチ	155
ハイブリッドシステム	58
EV ドライブモード	146
運転のアドバイス	269
オーバーヒート	427
回生ブレーキ	60
ガス欠になったとき	64
緊急始動機能	419
緊急時の停止方法	358
緊急停止システム	63
駆動用電池冷却用吸入口	63
高電圧部位	62
サービスプラグ	62
事故が発生したとき	65
始動できないときは	418
始動方法	140
車両接近通報装置	59
充電	60
注意	62
特徴	58
特有の音と振動	61
バッテリーがあがった	422
パワー (イグニッション)	
スイッチ	140
メンテナンス・修理・	
廃車するとき	61

ハイブリッドシステム	
インジケーター	84
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	351
ハザードランプ (非常点滅灯)	355
スイッチ	355
電球 (バルブ) の	
交換	348, 349, 351
ワット数	438
挟み込み防止機能	
パノラマルーフシェード	307
パワーウインドウ	124
発炎筒	356
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	349
ワット数	438
バックドア	97
バックドアハンドル	98
バックドアが開かないとき	99
バッテリーあがりを	
防ぐために	99
半ドア警告灯	368
バッテリー (駆動用電池)	
充電について	60
搭載位置	62
冷却用吸入口	63

バッテリー（補機バッテリー）

搭載位置.....	321
バッテリーがあがった.....	422
バニティ（化粧用）ミラー.....	296
バニティミラーランプ.....	296
装備について.....	296
ワット数.....	438
パノラマルーフ.....	307
お手入れ.....	313, 316
荷物を積むときの注意.....	139

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）.....	342
ワット数.....	438
パワーウィンドウ.....	123
ウィンドウロックスイッチ....	123
開閉することが	

できないときは.....	124
操作.....	123
挟み込み防止機能.....	124
巻き込み防止機能.....	124

パワーコントロール

ユニット.....	62
パワースイッチ.....	140
自動電源 OFF 機能.....	142
車両を緊急停止するには.....	358
ハイブリッドシステム	
始動のしかた.....	140
モードの切りかえ.....	142
パワーステアリング.....	264
パワーステアリング警告灯....	367

パンクした

応急用タイヤ装着車.....	389
タイヤパンク	
応急修理キット装着車.....	401

番号灯（ライセンスプレート

ランプ).....	155
電球（バルブ）の交換.....	350
ランプスイッチ.....	155
ワット数.....	438

ハンドル

（ステアリングホイール）.....	118
位置調整.....	118
スイッチ.....	310
ホーン（警音器）.....	118

ひ**ビークルスタビリティ**

コントロール（VSC）.....	264
------------------	-----

ヒーター

オートエアコン.....	276
ミラーヒーター.....	278

非常点滅灯（ハザードランプ）....

スイッチ.....	355
電球（バルブ）の	
交換.....	348, 349, 351
ワット数.....	438

尾灯（テールランプ）.....

電球（バルブ）の交換.....	351
ランプスイッチ.....	155
ワット数.....	438

ヒューズ.....

表示灯.....	72
----------	----

日よけ（サンバイザー）.....**ヒルスタートアシスト**

コントロール.....	264
-------------	-----

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	422
フォグランプ	164
スイッチ	164
電球（バルブ）の	
交換	349, 351
ブザー	
車線逸脱警報（LDA）	197
シートベルト非着用警告	368
シフトダウン制限警告	150
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）	207
半ドア警告	368
リバース警告	150
フック	
けん引フック	361
コートフック	305
デッキフック	
（荷物固定用フック）	293
フロアマット固定フック	24
フューエルメーター（燃料計）	75
フューエルリッド（給油扉）	172
給油のしかた	172
冬の前の準備	
（寒冷時の運転）	271
冬用タイヤ	271
フラットシート	111
ブリクラッシュセーフティ	
システム（PCS）	
機能	181
PCS 警告灯	367

ブレーキ

回生ブレーキ	60
緊急ブレーキシグナル	265
警告ブザー	366
パーキングブレーキ	154
ブレーキ警告灯	366
メンテナンスデータ	436
ブレーキアシスト	264
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	367
機能	264
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	133
ブレーキフルード	436
フロアマット	24
フロントインテリアランプ	285
フロントシート	110
正しい運転姿勢	26
調整	110
手入れ	317
ヘッドレスト	116
フロントドア	92
フロントフォグランプ	164
スイッチ	164
電球（バルブ）の交換	351
フロント方向指示灯	153
電球（バルブ）の交換	348
方向指示レバー	153
ワット数	438

へ

平均車速	79
平均燃費	79
ヘッドランプ	155
オートレベリングシステム	157
電球（バルブ）の	
交換	344, 345, 351
ライトセンサー	157
ランプ消し忘れ防止機能	157
ランプスイッチ	155
ヘッドランプオートレベリング	
システム	157
ヘッドレスト	116
ベビーシート	44

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	389
メンテナンスデータ	437
ホイールナット	
レンチ	390, 403
方向指示灯	153
電球（バルブ）の	
交換	348, 349, 351
方向指示レバー	153
ワット数	438
ホーン（警告器）	118

補機バッテリー

搭載位置	321
バッテリーがあがった	422
保証	9
ボトルホルダー	289
ボンネット	320
開け方	320

ま

巻き込み防止機能	124
マスターウォーニング	368
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	78
警告メッセージ	370
ドライブインフォメーション	79
メーター操作スイッチ	78

み

ミラー

インナーミラー	120
ドアミラー	121
バニティミラー	296
ミラーヒーター	278

め

メーター（計器類）.....	74
警告灯.....	71, 366
照度調整.....	76
表示切りかえボタン.....	76
表示灯.....	72
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	78
メーター.....	74
メーター照度調整.....	76
メカニカルキー.....	89
メンテナンスデータ.....	434

も

モーター（電気モーター）.....	62
モーターでの走行 （EVドライブモード）.....	146

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	439
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	432
油脂類.....	434

ら

ライセンスプレートランプ （番号灯）.....	155
電球（バルブ）の交換.....	350
ランプスイッチ.....	155
ワット数.....	438
ラゲージフック.....	293
ラジエーター オーバーヒート.....	427
メンテナンスデータ.....	436

ランプ

インテリアランプ.....	285, 286
電球（バルブ）の交換.....	342
パーソナルランプ.....	285
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	355
フロントフォグランプ.....	164
ヘッドランプ（前照灯）.....	155
方向指示灯（ターンシグナル ランプ／ウインカー）.....	153
ライトセンサー.....	157
ランプ消し忘れ防止機能.....	157
リヤフォグランプ.....	164
ワット数.....	438

ランプ消し忘れ

防止機能.....	99, 157, 286, 296
-----------	-------------------

り

リヤアームレスト.....	305
リヤウインドウデフォグガー スイッチ.....	278
リヤシート.....	113
リヤフォグランプ.....	164
スイッチ.....	164
電球（バルブ）の交換.....	349
ワット数.....	438
リヤ方向指示灯.....	153
電球（バルブ）の交換.....	349
方向指示レバー.....	153
ワット数.....	438

る

ルームミラー (インナーミラー)	120
ルームランプ	284

れ

レーダークルーズ コントロール	200
警告メッセージ	371, 373, 374
接近警報	207
レーダーセンサー	177
レーンディパーチャー アラート (LDA)	191
車線逸脱警報機能	197
冷却水	436
冬の前の準備	271
メンテナンスデータ	436
冷却装置 (ラジエーター)	436
オーバーヒート	427
メンテナンスデータ	436
レバー シフト	148
方向指示	153
ボンネット解除	320
ロック (ドア)	94

ろ

ロアグローブボックス	288
ロック ウインドウロック	123
スマートエントリー& スタートシステム	103
チャイルドプロテクター	95
ドア	92, 94
バックドア	97
ワイヤレスリモコン	88

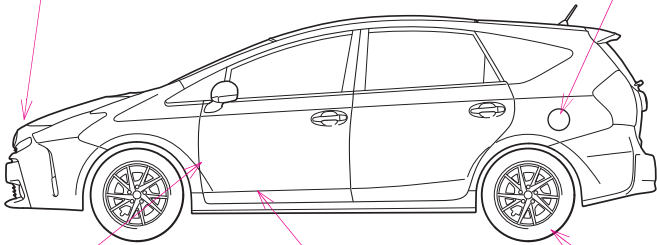
わ

ワイパー & ウォッシャー ウォッシャー液の補充	330
フロント	167
フロントワイパー デアイサー	279
リヤ	170
ワイパーゴムの交換	328
ワイヤレスリモコン	88
作動の合図	93
操作	88
電池の交換	337
半ドア警告ブザー	93
ワックス	312
ワット数	438

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック P. 320	給油口 P. 173
--------------------	---------------



IIPWG009

ボンネット解除レバー P. 320	給油口オープナー P. 173	タイヤ空気圧 P. 437
----------------------	--------------------	------------------

燃料の容量（参考値）	45L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 434
タイヤが冷えている ときの空気圧	16 インチタイヤ 前輪：240 kPa (2.4 kg/cm ²) 後輪：230 kPa (2.3 kg/cm ²) 17 インチタイヤ 前輪：230 kPa (2.3 kg/cm ²) 後輪：220 kPa (2.2 kg/cm ²) 応急用タイヤ★：420 kPa (4.2 kg/cm ²)
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時：3.9L オイルとフィルター交換時：4.2L
エンジンオイルの種類	アミックス EXTRA 0W-20 アミックス 5W-30 SN P. 434

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

**お問い合わせには、あらかじめ下記の事項
について確認のうえ、ご連絡願います。**

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 平日 9:00～19:00

土日祝 9:00～17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて
掲載しております。(http://www.daihatsu.co.jp/privacy/index.htm)